

平成26年度入学式の挙行

「教育総長賞・研究総長賞」表彰式を挙行

「教育研究支援業務総長表彰」表彰式を挙行

本学永年勤続者表彰に112氏

お知らせ

- ・附属図書館（本館・北図書館）朝8時開館の正式運用について
- ・平成26年度 人間ドックの実施について





学位記授与式



入学式

全学ニュース

- 1 平成25年度学位記授与式の挙
- 3 総長告辞（学士学位記授与式）
- 5 来賓祝辞（学士学位記授与式）
- 6 平成26年度入学式の挙
- 7 総長告辞（入学式）
- 9 「教育総長賞・研究総長賞」表彰式を挙
- 10 「教育研究支援業務総長表彰」表彰式を挙
- 12 本学永年勤続者表彰に112氏
- 14 名誉教授に53氏
- 15 北大フロンティア基金
- 16 平成26年度北海道大学の予算
- 18 次世代大学力強化推進会議を開
- 19 「第1回 オープンファシリティシンポジウム」を開
- 19 EU3大学との国際交流プロジェクト“UNI-Metrics”報告
- 20 平成25年度学部入学前準備教育試行プログラムを
- 20 平成25年度北大ペンハロー賞授与式を
- 21 平成25年北大えるむ賞授与式を
- 22 平成25年度北海道大学大塚賞授与式を
- 23 平成25年度クラーク賞表彰式を
- 23 平成25年度北海道大学鈴木章科学奨励賞－自然科学実験－授与式を
- 24 「北海道大学 研究シーズ集2014」を

部局ニュース

- 25 北海道大学病院で陽子線治療センター竣工披露式及び開所式を
- 26 低温科学研究所がロシア科学アカデミー極東支部太平洋地理学研究所と部局間交流協定を締結
- 26 スラブ研究センターがスラブ・ユーラシア研究センターに改称し、記念シンポジウムを開
- 28 文学研究科国際シンポジウム 新渡戸稲造とこれからのグローバル化－『武士道』と国際人－を開
- 29 公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センターがシンポジウム「北海道ダイアログ：東アジアにおける市民社会対話」を開
- 30 メディア・コミュニケーション研究院が国際シンポジウム「北海道における多文化共生：その理念と実践」を開
- 31 国際広報メディア・観光学院で優秀学生「舞台は地球」賞の授賞式を
- 31 国際広報メディア・観光学院国際広報メディア専攻留学生北京説明会及び同窓会を
- 32 国際広報メディア・観光学院で教員研修（FD）講演会を開
- 32 薬学研究院が「第3回薬学研究院研究発表会（FD研修会）」を開

- 33 平成25年度北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程共同FDの開催
- 34 水産科学院各種表彰（伊藤一隆賞、はるにれ賞及びジョンカッター賞）の授賞式を
- 35 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第10期修了生に修了証書授与
- 35 図書館学生サポーター活動証明書授与式を
- 36 附属図書館で平成25年度研修出張報告会を開
- 37 北海道大学病院で第1回 新卒者多職種合同歓迎会を開
- 38 松本純爾旧蔵日記を大学文書館で受贈

お知らせ

- 39 附属図書館（本館・北図書館）朝8時開館の正式運用について
- 39 平成26年度 人間ドックの実施について

博士学位記授与

40

同窓会との交流

- 57 「北海道大学卒業パーティー2014」
- 57 北海道大学函館同窓会「総会及び懇親会」

諸会議の開催状況

58

学内規程

59

表敬訪問

- 69 国内
- 69 海外

人事

71

- 92 新任副学長・部局長等紹介
- 95 部局長等（再任）紹介
- 97 新任教授紹介
- 100 新任部課長等紹介

訃報

- 104 名誉教授 小川 雄一 氏

資料

- 105 平成26年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- 106 平成26年度入学者の都道府県分布及び地域比率



陽子線治療センター竣工披露式



低温科学研究所
部局間交流協定締結



北海道大学・帯広畜産大学
共同獣医学課程共同FD



卒業パーティー2014

■全学ニュース

平成25年度学位記授与式の挙行

平成25年度学士学位記授与式



学位記を受ける総代

平成25年度学士学位記授与式を3月25日（火）に、本学第1体育館において執り行いました。

学位記授与式は、来賓、役員、学部長等の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部の卒業生2,276名を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。

山口佳三総長は卒業生への告辞の中で、「時代に流されないしっかりとした指針を持って人生を歩み、その際、2つのことを是非、心に留め置いてほしい」ことを述べました。

1つ目は、「生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけること」であり、「自ら学ぶことの大切さを体得した人は、これからの未来を自力で切り拓いていける」こと、「学び続けることは、絶えざる自己革新を求めることでもあり、フロンティア精神をもってこれからの人生を切り拓いてほしい」ことを述べました。2つ目は、「これからの人生

を、常に社会と向き合って歩む」ことであり、「これからは、自分を育ててくれた社会にどう関わられるのか、どんな貢献ができるのかを問い続けてほしい」ことを述べました。

最後に、「夢と勇気と大志をもって、新しい船出をされることを祈念しております」とのはなむけの言葉が贈られました。

続いて、北海道大学連合同窓会副会長 横山 清氏から卒業生へ向けて、「生涯学び続ける姿勢は大切であり、夢とは人間の限界を超えるような努力をしてこそ叶えられる。どんなことがあってもめげないこと、あきらめないでほしい」との言葉が贈られ、その後、出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。

また、翌3月26日（水）には、ロワジールホテル函館において、水産学部卒業生203名を代表し、各学科の総代へ水産学部長から学士学位記が授与されました。



告辞を述べる山口総長



祝辞を述べられる横山副会長



会場の様子

平成25年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

平成25年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式終了後に、第2体育館において執り行いました（水産科学院については翌日挙行）。

修士・専門職学位・博士学位記授与式では、役員、研究科等の長の列席の下、14研究科等の修士課程修了者1,437名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者70名、経済学研究科会計情報専攻修了者22名及び公共政策学教育部公共政策学専攻修了者33名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位学位記が、各研究科等の長から授与されました。

引き続き、16研究科等の博士課程修了者296名を代表し、各研究科等の総代へ、また、論文博士21名の各研究科等の代表へ、山口佳三総長から博士学

位記が授与されました。

この後、総長告辞があり、最後に北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。

翌日の3月26日（水）には、ロワジュールホテル函館において、水産科学院の修士課程修了者99名を代表し、各専攻の総代へ嵯峨直恆水産科学院長から修士学位記が、また、博士課程修了者15名に対し、山口総長から博士学位記が授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士授与者数は下記のとおりです。

博士学位記授与者については、本号40ページに掲載しています。

（学務部学務企画課）



学位記を受ける総代



水産学部応援団のエール

学部別卒業生数一覧

学部名	卒業生
文学部	183
教育学部	64
法学部	233
経済学部	194
理学部	274
医学部	275
歯学部	60
薬学部	76
工学部	654
農学部	222
獣医学部	41
水産学部	203
計	2,479

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
文学研究科	97	法科大学院（法学研究科法律実務専攻）	70
法学研究科	15	経済学研究科会計情報専攻	22
経済学研究科	33	公共政策学教育部公共政策学専攻	33
医学研究科	12		
情報科学研究科	199		
水産科学院	99		
環境科学院	114		
理学院	111		
農学院	175		
生命科学院	109		
教育学院	42		
国際広報メディア・観光学院	40		
保健科学院	33		
工学院	319		
総合化学院	138		
計	1,536	計	125

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
文学研究科	10	0
法学研究科	6	1
経済学研究科	5	0
医学研究科	48	1
歯学研究科	33	1
獣医学研究科	15	1
情報科学研究科	31	1
水産科学院	15	0
環境科学院	27	2
理学院	18	0

研究科等名	課程博士	論文博士
農学院	17	5
生命科学院	27	3
教育学院	1	0
国際広報メディア・観光学院	2	0
国際広報メディア研究科	2	0
保健科学院	7	0
工学院	32	6
工学研究科	1	0
総合化学院	14	0
計	311	21

学士学位記授与式

総長 山口 佳三

本日、ここに、平成25年度学士学位記授与式を迎えられました卒業生の皆さん、おめでとうございます。また、これまで皆さんを物心両面から支え、励ましてこられたご家族や関係者の皆様に対しまして、北海道大学の教職員を代表して心よりお礼とお祝いを申し上げます。

晴れて本学の学士学位記を授与され巣立っていかれるのは、12学部合わせて2,479名です。このうち女性が723名、留学生が20名です。留学生の皆さんには、環境も習慣も異なる異国の地での生活は大変であったろうと思います。無事卒業の日を迎えることができましたことを心より嬉しく思います。

卒業生の皆さんが北海道大学で過ごされた4年ないし6年の生活は、いかがでしたでしょうか。入学前に抱いていた、夢や希望あるいは期待は、実現できたでしょうか。

夢はかなったという人、多くの友人を得たという人、クラブやサークル活動で充実した日々を過ごしたという人もいるでしょう。一方で、辛い思いをし、悩み、挫折を味わったという人もいるかもしれません。今、学士の課程を終え、卒業という区切りの時、これまで自分の歩んできた道を振り返る良い機会であろうと思います。

皆さんは、北海道大学の教育研究の基本理念が、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」そして「実学の重視」の4つであることをよくご存知だと思います。このような理念の下で学ばれた皆さんは、高邁な大志と国際的な視野を持ち幅広い教養を通して、自ら考え行動できる能力を養ってきたはずです。このエルムの学園での学びの時を、振り返って、次のステップへの糧としてください。

さて、卒業後の皆さんは企業に就職する人、国や地方の公務員として働く人、専門的知識と技術を持って医療の世界へ進まれる人、あるいは大学院に進学される人など、それぞれの進まれる道での活躍が期待されています。また、皆さん一人ひとりが大きな期待と同時に若干の不安を抱かれていることでしょう。

ここで、皆さんが巣立って行こうとされている社会の、この4年ばかりの状況を振り返りたいと思います。4年前、2010年は、2008年に引き起こされたリーマンショックによる世界的な経済の冷え込みのため、日本経済もさらなる停滞を余儀なくされ、就職戦線は氷河期を迎えたといわれ、皆さんの先輩達も苦戦を強いられていました。2011年には、東日本大震災が発生し、日本の社会は、さらなる困難の時を迎えました。その中で、被災者の振る舞いや、阪

神大震災の教訓を生かした様々な社会階層からの支援の取り組みは、日本社会の前途を灯す明るい光となりました。さらに、政権も変わり、2012年の末以来は、アベノミクスが登場し、経済的にも不況脱出の可能性が見えてきたとされ、明るさが増してきたといわれています。しかしながら、同時進行で起こっている、日中韓の政治的摩擦、ウクライナ情勢といった世界の政治状況が、日本国内の将来の動向を左右しそうな情勢です。

こうした状況の中でも、私は、皆さんが時代に流されないうっかりとした指針を持って、これから踏み出される人生を歩んで欲しいと願っています。その意味で、今から述べる2つのことを是非、心に留め置いて欲しいと思います。

その一つは、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけることです。皆さんを取り巻く現代社会において、技術革新の流れは一段と速まり、ここ10年のITの発展は、通信手段、情報発信のありようを個人のレベルでも一新させました。それによって、皆さんが身につけるべき素養・知識も一変したといえます。大学で学んだことも、これから大学院に進んで修得する学問・技術も、日進月歩で進化し、10年後には最早通用しない知識・技術となっているでしょう。ですから、皆さんは生涯学び続ける習慣を、必然的に、身につけなければなりません。そして、自ら学ぶことの大切さを体得した人は、これからの未来を自力で切り拓いていけるでしょう。また、学び続けることは、絶えざる自己革新を求めることでもあります。フロンティア精神をもってこれからの人生を切り拓いてください。

2つ目に、心に留めて欲しいことは、これからの人生を、常に社会と向き合って歩むということです。皆さんは、これまで、それぞれの家庭、学校、学部という環境の中で、育まれ、自己研鑽を積んできました。その歩みは、しばしば受け身的なものであり、自己を見つめることに偏っていませんでした。そして、大学の学びの中で、自己を点検し、社会の中での立ち位置をも探し求めてこられたことと思います。そうした皆さんが、社会に踏み出さんとするこの時、これからは、自分を育ててくれた社会にどう関わられるのか、どんな貢献ができるのかを常に問い続けて欲しいと思います。時代と共に、社会の様相は、絶え間なく変化します。その中であって、しっかりと自らの立ち位置を点検し、自らの進路を切り拓いて、社会との関わりを求めてください。そして、社会への貢献を常に意識してください。

本日、学位記授与式を迎えられた皆さんにとって、北海道大学での学びを通して得た知識や能力、課外活動等で得た経験、そして何よりも学生生活の中で得た、生涯の友となる友人は、これからの皆さんの歩みの糧であります。こうした糧を胸に、巣立って行かれる皆さんには、その先に、学部ごと、あるいは地域の北海道大学同窓会もあります。こうした同窓生との交わりをも通して、母校である北海道大学のこと、皆さんの後輩のことも思い出してください。

最後になりますが、皆さんが、夢と勇気と大志を持って、新しい船出をされることを祈念しております。皆さんの母校である北海道大学もさらなる国際化と、「世界の課題解決に貢献する大学」たることを目指して挑戦することを約束して、告辞の結びとします。

学士學位記授与式

北海道大学連合同窓会副会長 横山 清

北海道大学連合同窓会 副会長の横山 清と申します。54年前に水産学部を卒業し、今年で数え80歳。皆さんのお祖父さん世代です。私は函館で卒業式を迎えたので、札幌での卒業式は感無量です。ご卒業、学位の取得、誠にありがとうございます。

本来、数土文夫会長のご挨拶となる処、数土会長はJFEホールディングスという会社の社長を経て今、東京電力の会長になりました。功成り名遂げて悠々自適の筈が、国家の存亡を担うような大変な仕事を今なさっており、急遽欠席となりました。そのため、ピンチヒッターとして私がここにいる次第です。

私は、高校卒業後2年間炭鉱夫として働いた後、水産学部に入學し、恵迪寮に入寮しました。入寮手続の際には、ジャンパーに登山帽といった格好だったため、新聞配達と間違えられ、非常に困惑したことを覚えております。入学時、北大は80周年。今年は138年目ですから、大変な歳月を経たなあと思います。

数土会長が「型通りの話をするな」ということですので、ざっくりばらんに申します。これから皆さんが世に出て、すんなりと素敵な人生が送れるという保証は全くありません。大学で学業を積み、社会で大きく働くことも大事ですが、何より、総長のお話の通り、終生学びの態度を続けることの大切さは、私もつくづく今思っております。

10日程前、水産学部附属練習船おしよ丸5世の進水式出席のため、山口佳三総長をはじめ大学の皆さんと岡山県玉野市の三井造船所まで行って参りました。船の進水式は、皆さんでいえばこの卒業式。まさしくこれから社会に出る訳です。あらゆる知識を再構築するという気持ちで頑張っていたいただきたい。そして皆さんにも、卒業したら必ず同窓会に入っていたきたいと思っております。多少会費はかかりますが、10万人を超す卒業生があらゆる分野で全国、世界中

で活躍しています。

夢とは、人間の限界を超えるような努力をしてこそ果たせる目標のことです。3年前の東日本大震災のとき、東京で地震に遭い大変な思いをしました。私は流通業、スーパーマーケットの経営をしておりますが、震災の翌日に東北のスーパーマーケットのトップと会い、熟慮の末、震災の結果もわからないその企業の買収を決断しました。今、東東北から北海道にかけて、約300店、2万5千人程の人達と共に仕事をしています。今も様々な形で、大学時代の仲間達とも、仕事を継続しているわけです。

皆さんもこれから、自分の専門性から外れることがあるかもしれません。これを乗り越え、ぜひ頑張ってお自分の思いを遂げていただきたいと思っております。実業界に出て60年近く経ち、今一番思うのは、IQも大事ですがEQ（心の知能指数）が大事だということです。これはどうやら北大の人的、物的環境、そしてこの大地自体が持つ、人間を大きく羽ばたかせるようなものにより育まれている面があるのではないかと思います。これから歌う「都ぞ弥生」は恵迪寮の寮歌ですが、地位、名誉、栄達を望むということではありません。自然を見つめ、自然に従って自分達の大きな野心を培っていくんだと歌っています。北大生は「都ぞ弥生」で入学し、「都ぞ弥生」で卒業していくのです。

卒業した時点で、皆さんはまだ点です。これから社会に出て点が一つずつ結びついて線になり、線が面になっていくのです。こういう気持ちで、一言だけお贈りしますと、どんなことがあってもめげないこと、「Never give up!（諦めるなよ!）」です。今日はこれからの人生の進水式です。これから海図のない航海が始まりますが、あなた方の進んだ後には立派な海図ができるだろうと期待しております。

皆さんの門出をお祝いし、祝辞といたします。本当に本日は、おめでとうございます。

平成26年度入学式の挙行



総代による入学者宣誓

平成26年度の入学式を、4月8日(火)に札幌コンベンションセンターにおいて執り行いました。式は、来賓の連合同窓会会長 数土文夫氏、東京大学名誉教授 山内昌之氏並びに役員及び部局長の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏により開始され、山口佳三総長から新入生に対し告辞が述べられました。

はじめに、総長は告辞の中で、本学において人生における大きな宝物となる生涯の友を多く作ってほしいと述べられました。

そして、本学の概要の紹介後、本学の4つの理念である「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」、「実学の重視」を学生生活を送る上で常に意識してほしいと述べられました。

この中で、今後の学びの中で大いにチャレンジ精神とフロンティア精神を発揮して、自らの道を切り拓いてほしいこと、昨年度から実施している「新渡戸カレッジ」や今年度から始まる「現代日本学プログラム」などを通して、これから必要不可欠となる世界の人々とのコミュニケーション能力を磨いてほしいこと、日本全国から学生が集まる本学の環境の下、多くの友人と交わり、自らを省み、自己研鑽をしてほし

いこと、環境問題や経済問題、東日本大震災に伴う福島の原子力発電所等、現代社会が直面する問題の解決には科学技術、社会科学の最先端の知識が求められているため、常に自らと社会との関わりを意識してほしいと述べられました。そして、最後に、これから研究という誰も踏み入ったことのない領域を手探りで進むに当たり、自分流の学びの方法・姿勢を探し、確立してほしいと激励の言葉を述べられました。

続いて、留学生17名を含む2,569名の入学者を代表して、尾崎 悠さんによる入学者宣誓が行われました。

その後、来賓、本学役員及び部局長の紹介と続き、北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で式は終了しました。

入学式終了後には、本学卒業生であり、東京大学名誉教授の山内昌之氏から「本学卒業生からのメッセージ」としてご講演いただき、引き続き新田理事・副学長から「北大生活を送るにあたっての心構え」についてのガイダンス、北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」及び「梅雨の晴れ間に」の合唱が行われ、すべての行事が終了しました。

(学務部学務企画課)



告辞を述べる総長



山内氏から後輩へのメッセージ



新田理事・副学長によるガイダンス

入学式

総長 山口 佳三

新入生の皆さん、北海道大学へのご入学おめでとうございます。北海道大学の教職員を代表して、皆さんの入学を心より歓迎いたします。また、今日まで、晴れて入学する皆さんの勉学と生活を支えてこられたご家族をはじめ関係者の方々のお慶びもいかばかりでしょうか。ご家族、関係者の皆様には、引き続き、新入生の本学での成長を温かく見守り、励ましてくださいますよう、お願い申し上げます。

さて、今年の本学への入学者は2,569名で、そのうち男子学生1,795名、女子学生774名であります。今年、女子学生の比率が昨年より若干上がりました。また入学者の中には、留学生22名、帰国子女10名が含まれています。さらに、道内の出身者が1,006名、道外出身者が1,522名となっていて、今年、道内出身者が40%を切りました。このように、生まれた地域も、育った環境も異なっている皆さんが、この日本一美しいキャンパスを持つ北海道大学で学び、課外活動やボランティア活動を通じ、お互いに競い、励まし合っていくこととなります。この北海道大学で生涯の友となるような友人をたくさん作ってください。それが皆さんの人生における大きな宝物となるでしょう。

さて、ここで北海道大学のこれまでの歴史を、簡単に振り返りたいと思います。本学は1876年、明治9年設立の札幌農学校に始まりました。そして、東北帝国大学農科大学を経て、大正期に北海道帝国大学となり、太平洋戦争後に北海道大学と変わり、文系学部を含む総合大学へと成長してまいりました。そして、2004年4月、現在の国立大学法人北海道大学となりました。また、大学の規模も、国立大学の中で最も多い12の学部を持ち、19の研究科・学院等を有する我が国の基幹総合大学となっています。この間、ノーベル化学賞受賞者の鈴木章先生のクロスカップリングの研究をはじめ、多くの優れた研究成果を生み出すとともに、社会に貢献する有為な人材を世に送り出してまいりました。本学が法人化されるに際し、本学の教育研究理念として「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」それに「実学の重視」の4つを掲げました。これは創立時の教頭であったウィリアム・S・クラーク博士以来138年の本学の歴史の中で醸成されてきた、本学の教育研究の基本姿勢をもとに決定したものであります。さらに、昨年度には、この基本理念を踏まえた「北海道大学150周年へ向けた近未来戦略（北大近未来戦略150）」を策定し、「世界の課題解決に貢献する北海道大学」を目指すべくその目標を掲げました。そして、本学は、これら4つの理念のもと、

教育研究を通して、皆さんを、我が国のみならず、これからの世界を勇気を持って先導していくような、国際性豊かで、人格に優れ、Lofty Ambition（高邁なる大志）を持った人材に育てることを目標としています。

ですから、皆さんにも、これから始まる北海道大学での学園生活の中で、この4つの理念を、常に意識してほしいと思います。

「フロンティア精神」は、まずもって、未知の領域を切り開く精神です。先人の後を追うのではなく、まだ誰も手をつけたことのない新しい事柄に挑戦することです。北海道という土地柄も、多くの皆さんにとって、フロンティアであるでしょう。大学での学びの中では、高校までのように与えられた教科をこなすのではなく、何を学んでいくのか、自らの選択によって決めていく必要があります。そしてその選択は、自らの人生の方向を決めていくことでもあります。こうした学士課程の学びの中で、また課外活動等を含めた学生生活のなかで、大いにチャレンジ精神とフロンティア精神を発揮して、自らの道を切り拓いて行ってください。

「国際性の涵養」は、今日のグローバル化した社会の中では必然の要請です。IT、特にインターネットの発達、情報伝達が一瞬にして世界を巡る環境をつくりあげました。そのため、一つの国での政治的、経済的あるいは社会的な動向が、すぐさま世界中に影響を与え合う国際社会となりました。こうした世界の中で、これからの人生を切り拓いて行こうとする皆さんには、世界の人々とのコミュニケーション能力が必要不可欠です。本学では、昨年度より「新渡戸カレッジ」を立ち上げ、毎年200名（1年生は120名）の学生を選抜し、カレッジ生には、卒業までに、特別プログラムの実践英語をはじめとするカリキュラムを用意して、日本及び異文化理解を深め、原則1セメスターの海外留学を義務付けるプログラムを開始しました。この「新渡戸カレッジ」は、札幌農学校の第2期生であり、国際的に活躍された新渡戸稲造博士の精神を受け継ごうとするのです。また、このプログラムでは、北海道大学連合同窓会の協力のもと、国際経験豊かな同窓生が、カレッジ生のフェローとして、皆さんが国際社会に出ていくための様々な支援を行います。多くの新入生がこれに挑戦して、自らの新たな道を切り拓いてくれることを期待しています。さらに、本学では、来年4月より「現代日本学プログラム」を立ち上げ、毎年20名の留学生を学士課程に受け入れ、当

初2年間は「新渡戸カレッジ」との合同となる英語による授業を開講し、この2つのプログラムによって、本学の「バイリンガルキャンパス化」を図ろうとしています。こうした留学生との交流を通じて、皆さんの国際性が養われることを期待したいと思います。

次に、「全人教育」についてです。皆さんは、入学後の1年間を総合教育部に所属して、本学の教養教育である「全学教育科目」を学び、幅広い教養を身に付けるとともに、それぞれの分野の専門教育を受けるための基礎的な素養を修得します。そして、北海道大学には、日本全国から学生が集まります。先ほども触れましたが、今年の道内勢は、4割を切っています。北海道は広大な面積を有していますので、その結果、今年の入学生の7割以上が、親元を離れ自宅外通学を4月から始めるのです。これは、他の大学にはない、北海道大学ならではの環境です。このように、皆さんは、生まれた地域も、育った環境も将来の進路も異なる極めて多様な仲間とともに、多くの人は初めて親元を離れ、勉学し、また課外活動に打ち込んでいくのです。皆さんが、この環境の中で、多くの友人と交わり、自らを省み、自己研鑽の場として活用されることを期待します。多くの先輩達が、本学でのこうした多様な仲間との出会いが、生涯の財産になったと述べています。この環境の中で、隣の友人のことを慮ることが、皆さんの受けるべき「全人教育」の出発点かと思います。

そして、「実学の重視」についてです。札幌農学校の時代には、これは正に、日本の、そして北海道の農業に直接役立つ教育を施すことを目指す、ということであったかもしれません。しかしながら、我が国における基幹総合大学に成長した北海道大学にあっては、その意味合いはおのずと変化しています。近年、科学技術の進展と社会の発展のテンポは加速度的に増しています。そのため、現代社会が直面する問題、例えば地球温暖化を含めた環境問題、エネルギー問題、リーマンショック以降の経済問題、東日本大震災に伴う福島原子力発電所の問題等々、こうした問題に共通しているのは、どれも複合的な問題であり、その解決には科学技術や社会科学の最先端の知識が求められることです。そのため、大学における教育研究も、常に現実社会と向き合うことが求められる状況となっています。皆さんにも、本学での学びの中で、常に、自分と社会との関わりを意識していただきたいと思います。それが、現代の「実学の重視」の精神であろうと思います。

新入生の皆さんには、このように、本学の4つの基本理念が、自らの学園生活に、どのように関わるのか、常に意識していただきたいと思います。それと同時に、これから始まる皆さんの4年ないし6年のエルムの学園での学修の中で、ひとつの宿題を出したいと思います。それは、自らの学びの姿勢を確立するということです。

皆さんの高校卒業までの学習環境は、学校及び先生方、また保護者の方によって、良くコントロールされた、いわば与えられた、受け身の環境ではなかったでしょうか。皆さんがこれから学部・大学院へと進んでいく中では、さらに先人の歩みを辿るとともに、研究という誰も踏み入ったことのない領域を手探りで進む作業へと進んで行かなければなりません。そのためには、皆さんのこれまでの勉学姿勢を変える必要があるでしょう。皆さんは、小学校以来、物わがりの良い、先生のおっしゃることはすぐに理解する生徒であったらと思います。しかしながら、物事の理解には深さがあります。何事も表面的に理解してしまって先に進んでは、人から教わることがなくなった時、そこから一歩も進むことができません。皆さんは、ある事柄の説明を聞いて、何やら納得がいかない、腑に落ちないと思った経験があるでしょう。この時、この事柄にこだわって色々と考えていくうちに、ある見方に気づいて、突然、納得できた、腑に落ちた時、事柄の理解は深まっています。学問の世界では、人の説明、あるいは教科書の説明に対して、どうしてそうなるのかと自分流にこだわる中で、自分の物の見方が育ち、それが研究のきっかけにもなっていくものです。皆さんには、是非、自分流の学びの方法・姿勢を探し求めてほしいものです。また、技術革新が、日進月歩で進む現代社会にあっては、表面的な知識の蓄積は長持ちしません。その意味で、皆さんは生涯学び続ける習慣を、必然的に身につけなければならないでしょう。そうした生涯の自分を支える学びの姿勢を北海道大学在学中に、確立してほしいと思います。

以上、新しく北海道大学での学園生活を始められる皆さんに、いくつかの希望と注文を述べさせていただきました。

皆さんが、これから踏み出される北海道大学での歩みの中で、良き友に巡り合い、良き師に恵まれて、自らの豊かな道を切り拓かれることを祈念申し上げて、入学式の告辞を結びます。

「教育総長賞・研究総長賞」表彰式を挙



被表彰者と山口総長、各理事

3月24日（月）、学术交流会館小講堂において「教育総長賞・研究総長賞」表彰式を執り行い、関係者列席のもと、山口佳三総長から被表彰者に、賞状及び報奨金（目録）が授与されました。

この表彰は、教育活動及び研究活動を通し、優れた功績を上げた教員を顕彰することにより、教員の教育研究意欲の向上を図り、もって本学の活性化と更なる発展に資することを目的とし

たものです。

なお、このたび表彰された方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

教育総長賞

獣医学研究科	准教授	寺尾 晶
地球環境科学研究院	教授	大原 雅
理学研究院	助教	エリザベス タスカ
理学研究院	准教授	坂井 哲
教育学研究院	助教	厚東 芳樹
メディア・コミュニケーション研究院	准教授	青山 和佳
メディア・コミュニケーション研究院	特任准教授	ジェゴンデ ニコラ
遺伝子病制御研究所	教授	高岡 晃教
触媒化学研究センター	教授	高橋 保

研究総長賞

理学研究院	教授	澤村 正也
農学研究院	講師	中原 健二
先端生命科学研究院	教授	龔 劍萍
工学研究院	准教授	金子 純一
工学研究院	教授	田口 精一
工学研究院	教授	松井 佳彦
低温科学研究所	助教	飯塚 芳徳
低温科学研究所	教授	河村 公隆
触媒化学研究センター	准教授	清水 研一

「教育研究支援業務総長表彰」表彰式を挙



被表彰者と山口総長、各理事

3月24日（月）、学术交流会館小講堂において「教育研究支援業務総長表彰」表彰式を執り行い、関係者列席のもと、山口佳三総長から被表彰者に、賞状及び報奨金（目録）が授与されました。

この表彰は、業務改善等の取り組みを通し、優れた功績を上げた職員等を顕彰することにより、勤労意欲の向上を図り、もって本学の活性化と更なる発展に資することを目的としたものです。

なお、このたび表彰された方及び功績は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

教育研究支援業務総長表彰表彰者及び功績

○最優秀賞

	組織名	職名	氏名	功績
事務部門	財務部調達課	-	-	従前は、メーカー毎に賃貸借と保守を別にしていた複写機の契約を一本化して、平成20年度から「総合複写サービス」として契約し、5年間で約9億円の節減効果をあげた。「総合複写サービス」の契約更新にあたって道内5大学2高専を含めた共同調達により更なるスケールメリットを活かし、前年比1億9,200万円（うち本学分1億1,900万円）の経費節減が見込まれている。

○優秀賞

	組織名	職名	氏名	功績
事務部門	獣医学研究科・獣医学部事務部	-	-	・綿密な申請資料作成等の支援により、「博士課程リーディングプログラム」「国立大学改革強化推進補助事業」「世界展開力強化事業」の資金獲得を行った。 ・職員個々の英語対応はもとより、職員の海外業務体験を通して日常業務における教育支援を行っているほか、英文学術誌JJVRの編集、発行業務を行っている。 ・学内他部局や他大学との連携によりICTネットワークや教育コンテンツの構築、整備、運用を行っている。
技術部門	低温科学研究所	技術専門職員	なか づぼ しゅん いち 中 坪 俊 一	国際宇宙ステーション「きぼう」における氷結晶成長実験プロジェクトに参画し、「きぼう」で使用する実験供試体に組み込む「氷結晶成長実験装置」の開発を行った。この装置は2013年8月に種子島宇宙センターからJAXAのロケットH2Bにより打ち上げられ、国際宇宙ステーションに届けられた。装置は、日本で初めて大学の技術職員が開発作成した宇宙実験装置として、大きな成功を収めた。
医療部門	病院	主任臨床検査技師	わた なべ ち 秋 渡 邊 千 秋	手術時に供している献血者から得られた血液の返品回収を積極的に行ったほか、ヒト新鮮凍結血漿（FFP）溶解器を病棟に配置することにより廃棄されるFFPを激減させた。FFP溶解器導入以前は、月平均7.8個（約137,000円）が廃棄されていたが、導入後は月平均1.0個（約15,000円）まで減らすことに成功し、病院収支に貢献したほか、献血者から提供された貴重な血液を無駄にせず、社会的貢献も高い。

海 事 部 門	練習船おしよる丸	-	-	練習船おしよる丸は、平成23年度に教育関係共同利用拠点として認定され、全国公募による実習を実施している。また、東日本大震災で岩手県共同実習船「翔洋」が被災したため、平成23年度以降、同船に代わり、宮古水産高校の乗船実習を実施し、支援を行っている。平成25年度は、地球温暖化の影響を調査するため、北極海で60日に渡り航海し、教育研究を支援した。
------------------	----------	---	---	---

○奨励賞

	組織名	職名	氏名	功績
事 務 部 門	学務部教務課・ 教務関係共通事務 処理マニュアル作成WG	-	-	各部局の教務事務担当者21名からなる「教務関係共通事務処理マニュアル作成WG」を設置し、教務関係マニュアル、教務の基礎知識等を体系的に網羅した「教務関係共通事務処理マニュアル」を作成した。これまで体系だったマニュアルは存在せず、職員毎の引き継ぎにより知識を継承していたが、マニュアルの作成により個人の経験による知識を組織全体として共有することが可能となった。また、HP上で本学職員が自由に編集でき、更新作業が容易で高い機能性をもったWebマニュアルを完成させた。
	財務部 資産運用管理課	-	-	従前は、学校財産の貸付契約として貸付料のみを徴収し、自動販売機を無償貸付していたが、自動販売機を設置した業者が運営業務を行う業務委託契約を行った。これにより、更に従来の貸付料のほか、自動販売機の売上げに応じた販売手数料が納付されることとなり、本年度は10月間で約6,800万円、その後は年間約8,000万円の収入が見込まれている。
	安全衛生本部	特定専門職	ひら 井 かつ 他3名	衛生管理者が行う作業場の巡視を、研究室等の自己点検を利用する巡視と実際の目視による巡視の2つの方法を組み合わせた新たな定期巡視方法を構築し、これまで見過ごされていた問題点を顕在化し、改善を行った。
	研究推進部 研究振興企画課	事務職員	とみ 塚 なお 直 樹	研究費不正使用防止に向け、e-Learningシステムによる研究費不正防止研修の実施、研究費使用ハンドブックの作成、研究費不正使用防止計画の改訂などで中心的な役割を果たした。
技 術 部 門	北方生物圏 フィールド科学 センター	技術専門員	ま 宮 はる 春 大	年間50,000m ³ の木材を生産するため、森林情報システムの設計・構築、年度報告作成システムや木材販売システムなど大量情報処理システムを開発し、日常業務量の著しい省力化に貢献した。 GPSを積極的に活用して約70,000haの森林内の試験地や単木位置を座標化し、地理情報システムによる大量の試験地情報データベースを構築し、フィールド情報の保存・閲覧機能を飛躍的に高めた。
	工学研究院	技術職員	かく 井 ひる 博 のり	CEEDにおいてプロジェクトチームのマネジメントを行い、積極的に最先端のICT技術を取り入れながら、それまでCEEDの課題であったeラーニングコンテンツの著作権所在や運用方法を内規化し、eラーニングシステムの操作簡易化や利便性向上に着手してeラーニングシステムのメリットを明確にした。また、コンテンツ制作において各作業の省力化に着手し、品質を向上させつつ必要人員を削減することに成功した。
	理学研究院・ 技術支援本部	技術専門員	お 川 まさ 正 と	理学研究院等技術部において、新たな機器の開発や後進の指導育成、途上国への技術指導などを行うとともに、技術支援本部において、技術職員研修の企画・運営に参画、平成24年度からは技術職員研修検討WGの座長として統括を行い、技術職員の育成や資質向上、円滑な技術の継承のために尽力した。また、技術支援本部運営委員会委員や技術支援本部構成員に就任し、中心的役割を果たし、今年度本学で初めて開催された全学規模の技術研究会である「北海道大学技術研究会2013」の成功に貢献した。
医 療 部 門	病院看護部10-1 (婦人科) リス ク検討委員会	-	-	部署のリスク検討委員会を中心にインシデント防止のためにリスク感性を高めるよう、「KYT(危険予知トレーニング)」を企画、導入した。KYT開始前半と開始後半では、報告総数が46件から23件に半減し、医療事故防止のため看護師教育に著しく貢献した。
	病 院	主任臨床 検査技師	まる 川 かつ 活 じ	手術検体整理室設置に伴い、レイアウトや運用面におけるコンセプトの叩き台を作成したほか、各臨床科単位の病棟スペースで行っていた臓器ホルマリン固定操作及びホルマリン発注業務を集約化し、院内全体で使用していたホルマリン固定液の年間使用量を約3割削減した。また、手術用器財やマクロ撮影用デジタルカメラも集約化し、各臨床科における運用改善、病院経営に大きく貢献した。
	病 院	主任臨床 検査技師	あき 沢 こう 宏 じ	MALDI-TOF-MASS を原理とする質量分析装置を用いて、血液培養から直接培養瓶で増殖している細菌種を同定するシステムを構築し、これまでより2日早く診療科に報告できるよう業務改善を行った。開始後約1ヶ月を経た段階で、60件以上の報告を行い、原因菌を付きとめ、適切な治療を施すことに貢献した。

本学永年勤続者表彰に112氏



山口総長から表彰状授与

平成26年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された方々に対する本学永年勤続者表彰式を、3月31日（月）学術交流会館小講堂で行いました。

表彰式は各部局長等列席のもとに行われ、永年勤務し退職された方々112氏の代表として、情報科学研究科 教

授 山本眞史氏に、山口佳三総長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで山口総長から、被表彰者の方々の北海道大学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

引き続き、同会館第一会議室におい

て祝賀会が催され、被表彰者と山口総長はじめ関係部局長等が、思い出話に和やかなひとときを過ごしました。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道大学永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所 属	氏 名	所 属	氏 名
施設部	長 井 一 夫	大学院歯学研究科	西 方 眞
附属図書館	片 山 俊 治	〃	水 野 守 道
〃	吉 田 恭 子	〃	本 間 義 幸
〃	井手上 恵 子	大学院獣医学研究科	落 合 謙 爾
〃	桑 野 勇 次	大学院情報科学研究科	福 井 孝 志
大学院文学研究科	中戸川 孝 治	〃	山 本 眞 史
大学院法学研究科	山 口 二 郎	〃	清 水 孝 一
〃	新 堂 明 子	大学院水産科学研究院	五 嶋 聖 治
〃	杉 山 園 子	〃	桜 井 泰 憲
大学院経済学研究科	吉 田 文 和	〃	久 万 健 志
経済学研究科・経済学部	加 我 順 一	〃	芳 村 康 男
大学院医学研究科	瀬 谷 司	〃	嵯 峨 直 恆
大学院歯学研究科	川 浪 雅 光	〃	蛇 沼 俊 二
〃	本 多 丘 人	水産学部	木 村 順 一
〃	佐 藤 隆 文	〃	木 村 修

所 属	氏 名
水産学部	高 橋 勉
大学院地球環境科学研究院	木 村 正 人
〃	嶋 津 克 明
大学院理学研究院	清 水 隆
〃	小野寺 彰
〃	杉 山 滋 郎
〃	高 橋 孝 行
〃	小 池 和 幸
〃	栃 内 新
〃	渡 部 重 十
〃	前 田 仁 一 郎
〃	森 濟
〃	小 川 正 人
理学・生命科学事務部	片 岡 平 和
大学院薬学研究院	有 賀 寛 芳
大学院農学研究院	岩 間 和 人
〃	大 崎 満
〃	近 藤 誠 司
〃	中 村 富 美 男
〃	矢 島 崇
〃	浅 野 行 藏
〃	平 井 卓 郎
農学事務部	向 井 地 博 之
大学院先端生命科学研究院	佐 々 木 直 樹
大学院教育学研究院	姉 崎 洋 一
〃	梅 津 徹 郎
〃	西 尾 達 雄
〃	矢 野 徳 郎
〃	山 田 憲 政
〃	大 沼 義 彦
大学院メディア・コミュニケーション研究院	石 川 克 知
〃	石 橋 道 大
〃	竹 本 幸 博
〃	宮 下 雅 年
メディア・観光学事務部	藤 本 日 出 夫
大学院保健科学研究院	宮 本 顯 二
〃	竹 内 文 也
〃	河 野 仁 志
大学院工学研究院	馬 場 直 志
〃	武 藤 俊 一
〃	原 正 治

所 属	氏 名
大学院工学研究院	覺 知 豊 次
〃	大 貫 惣 明
〃	田 中 洋 行
〃	中 辻 隆
〃	緑 川 光 正
〃	金 子 勝 比 古
〃	下 川 部 雅 英
〃	黒 川 一 哉
〃	越 澤 明
〃	堀 口 敬
〃	水 田 洋
エネルギー・マテリアル融合領域研究センター	谷 津 茂 男
北海道大学病院	佐 藤 直 樹
〃	福 島 洋 子
〃	高 橋 ゆかり
〃	佐 竹 恵 美 子
〃	横 畑 千 春
〃	木 村 き み 子
〃	上 山 清 子
〃	工 藤 郁 子
〃	庄 田 由 美
〃	中 田 眞 弓
〃	山 元 葉 子
〃	堀 裕 美 子
〃	小 林 真 由 美
〃	佐 々 木 紀 子
〃	仲 知 保
〃	表 英 彦
〃	内 藤 智 浩
〃	清 川 真 美
〃	高 橋 弥 生
低温科学研究所	藤 吉 康 志
〃	古 川 義 純
触媒化学研究センター	大 澤 雅 俊
スラブ研究センター	望 月 哲 男
〃	松 里 公 孝
アイソトープ総合センター	久 保 直 樹
北方生物圏フィールド科学センター	秦 寛
情報環境推進本部	辻 満
創成研究機構	江 藤 典 子
高等教育推進機構	木 村 純

(敬称略)

名誉教授に53氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月19日（水）開催の教育研究評議会において、次の53氏に対し名誉教授の称号を授与することが決定されました。

本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月3日（火）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道大学名誉教授

中戸川 孝 治	（元大学院文学研究科教授）	中 村 富美男	（元大学院農学研究院教授）
山 口 二 郎	（元大学院法学研究科教授）	近 藤 誠 司	（元大学院農学研究院教授）
吉 田 文 和	（元大学院経済学研究科教授）	平 井 卓 郎	（元大学院農学研究院教授）
瀬 谷 司	（元大学院医学研究科教授）	佐々木 直 樹	（元大学院先端生命科学研究院教授）
川 浪 雅 光	（元大学院歯学研究科教授）	西 尾 達 雄	（元大学院教育学研究院教授）
山 本 眞 史	（元大学院情報科学研究科教授）	矢 野 徳 郎	（元大学院教育学研究院教授）
清 水 孝 一	（元大学院情報科学研究科教授）	姉 崎 洋 一	（元大学院教育学研究院教授）
福 井 孝 志	（元大学院情報科学研究科教授）	竹 本 幸 博	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
五 嶋 聖 治	（元大学院水産科学研究院教授）	石 川 克 知	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
桜 井 泰 憲	（元大学院水産科学研究院教授）	石 橋 道 大	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
嵯 峨 直 恆	（元大学院水産科学研究院教授）	宮 下 雅 年	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
久 万 健 志	（元大学院水産科学研究院教授）	宮 本 顯 二	（元大学院保健科学研究院教授）
芳 村 康 男	（元大学院水産科学研究院教授）	金 子 勝比古	（元大学院工学研究院教授）
一 色 賢 司	（元大学院水産科学研究院教授）	中 辻 隆	（元大学院工学研究院教授）
木 村 正 人	（元大学院地球環境科学研究院教授）	武 藤 俊 一	（元大学院工学研究院教授）
嶋 津 克 明	（元大学院地球環境科学研究院教授）	緑 川 光 正	（元大学院工学研究院教授）
杉 山 滋 郎	（元大学院理学研究院教授）	馬 場 直 志	（元大学院工学研究院教授）
高 橋 孝 行	（元大学院理学研究院教授）	覺 知 豊 次	（元大学院工学研究院教授）
小 池 和 幸	（元大学院理学研究院教授）	原 正 治	（元大学院工学研究院教授）
清 水 隆	（元大学院理学研究院教授）	田 中 洋 行	（元大学院工学研究院教授）
小野寺 彰	（元大学院理学研究院教授）	大 貫 惣 明	（元大学院工学研究院教授）
辻 下 徹	（元大学院理学研究院教授）	毛 利 哲 夫	（元大学院工学研究院教授）
有 賀 寛 芳	（元大学院薬学研究院教授）	越 澤 明	（元大学院工学研究院教授）
岩 間 和 人	（元大学院農学研究院教授）	大 澤 雅 俊	（元触媒化学研究センター教授）
浅 野 行 藏	（元大学院農学研究院教授）	松 里 公 孝	（元スラブ研究センター教授）
大 崎 満	（元大学院農学研究院教授）	木 村 純	（元高等教育推進機構教授）
矢 島 崇	（元大学院農学研究院教授）		

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	15,576件 2,847,561,888円
基金累計額（3月31日現在）	教職員の寄附率 32.3%（1,248件／3,861人）

3月のご寄附状況

法人等4社、個人286名の方々から39,147,795円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

寺田医院、北海道ガス株式会社、北海道大学連合同窓会

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	東 剛己	安達 芳宏	厚谷 襄兒	入澤 秀次	上田 敦	上野 昌美	江口 良策
大串 松彦	小内 透	小原 大和	帰山 雅秀	角田 敏男	掛端 甲一	金井 理	金川 眞行
梶島 孝典	河本 充司	川元 功	北島 知明	郷 昭一	後藤 浩司	斉藤 久	齋藤 瞭
謝 雨来	鈴木 耕平	鈴木 治利	瀬名波栄潤	高橋 博幸	高橋 光彦	竹田洋一郎	伊達 宏昭
谷口 博	丹野千枝美	土家 琢磨	常田 克徳	寺澤 睦	豊田 威信	西 肇	平岩 紀子
星野 治	星野 堅	町村 均	松原 道博	三田 匡彦	宮田 靖志	本橋 宏	山内 隆嗣
山川 高太	山崎 賢司	吉沢 正道	吉田 広志	萬矢 裕俊	渡邊 康憲		

銘板の掲示（20万円以上のご寄附） （個人）

谷口 博、星野 堅

感謝状の贈呈

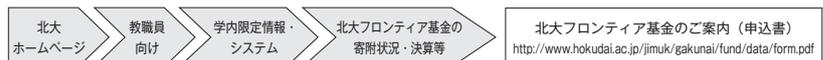


北海道ガス株式会社様（平成26年4月17日）

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡しします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部署事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

平成26年度北海道大学の予算

平成26年度北海道大学収入・支出予算書

(単位：百万円)

収入				支出			
事項	前年度 予算額	26年度 予算額	増減額	事項	前年度 予算額	26年度 予算額	増減額
[一般会計]	43,970	44,374	405	[一般会計]	43,970	44,374	405
運営費交付金収入	33,258	33,629	370	人件費	24,530	26,469	1,939
うち復興特別会計	5	3	△ 1	特別経費	1,707	1,352	△ 355
学生納付金	9,708	9,656	△ 52	特殊要因経費	3,876	2,934	△ 942
雑収入	1,003	1,090	87	退職手当	3,322	2,386	△ 936
				建物新営に伴う設備費	225	162	△ 62
				移転費	189	143	△ 46
				P F I 事業維持管理経費	124	116	△ 8
				土地建物借料	1	1	0
				災害支援関連経費	0	110	110
				船員保険事業主負担分調整費	16	16	0
				調整費	200	200	0
				特定経費	4,619	4,760	141
				電子計算機借料	1,296	1,298	2
				電子ジャーナル経費	534	629	94
				公租公課、保険料等	902	912	10
				燃料費	800	902	102
				評価反映経費	49	48	△ 1
				収入見合経費	979	963	△ 16
				目的積立金貸借分	59	8	△ 51
				中期目標達成強化経費	1,300	1,000	△ 300
				総長室等事業推進経費	300	320	20
				基盤配分経費	7,438	7,340	△ 98
[病院会計]	28,594	29,182	588	[病院会計]	28,594	29,182	588
運営費交付金収入	2,803	2,702	△ 101	人件費	8,934	8,922	△ 12
附属病院収入	25,710	26,329	619	特別経費	519	524	5
雑収入	80	151	70	病院診療経費	16,491	17,277	786
				債務償還経費	2,520	2,331	△ 189
				基盤配分経費	130	128	△ 2
[外部資金会計]	30,773	22,440	△ 8,333	[外部資金会計]	30,773	22,440	△ 8,333
施設費補助金等収入	6,715	3,153	△ 3,562	施設整備費	6,715	3,153	△ 3,562
うち復興特別会計	2,810	1,926	△ 884	船舶建造費	3,229	0	△ 3,229
船舶建造費補助金収入	3,229	0	△ 3,229	保育園運営費補助金事業費	88	89	1
保育園運営費補助金収入	88	89	1	直接事業費	18,167	16,749	△ 1,418
寄附金収入	2,177	2,169	△ 8	寄附金事業費	2,117	2,114	△ 3
受託研究収入	4,462	4,515	53	受託研究費	3,830	3,839	9
共同研究収入	1,076	1,007	△ 69	共同研究費	986	918	△ 67
受託事業収入	557	557	0	受託事業費	550	548	△ 2
大学改革補助金等収入	4,089	3,431	△ 658	大学改革補助金等事業費	4,088	3,431	△ 656
文部科学省科学研究費補助金	7,295	6,797	△ 498	文部科学省科学研究費補助金	5,669	5,274	△ 395
厚生労働省科学研究費補助金	615	554	△ 61	厚生労働省科学研究費補助金	539	475	△ 64
その他助成金等	469	167	△ 302	その他助成金等	389	149	△ 240
				間接経費	2,574	2,448	△ 126
				総長室等事業推進経費	1,309	1,234	△ 76
				部局配分経費	1,265	1,215	△ 50
合 計	103,337	95,997	7.1%減 △ 7,340	合 計	103,337	95,997	7.1%減 △ 7,340

※項目ごとに四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

〔その他目的積立金等：平成25年度末見込み〕

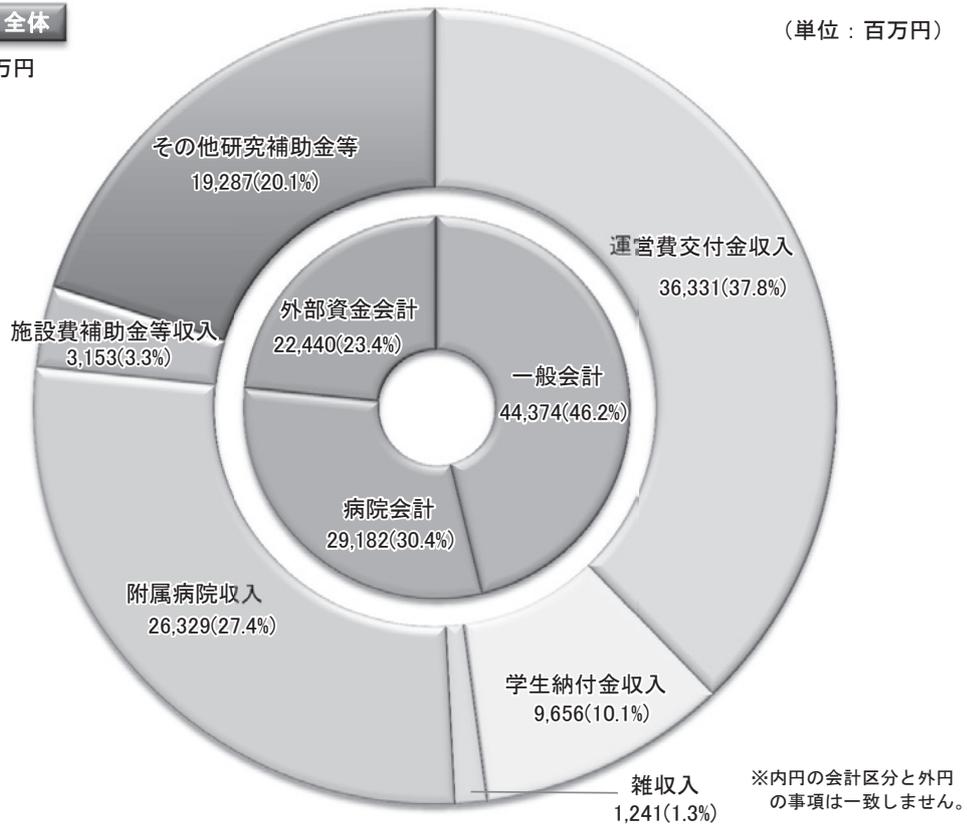
前中期目標期間繰越積立金	287百万円
目的積立金	872百万円
寄附金	7,395百万円
計	8,554百万円

平成26年度北海道大学収入・支出予算（グラフ）

収入予算 全体

95,997百万円

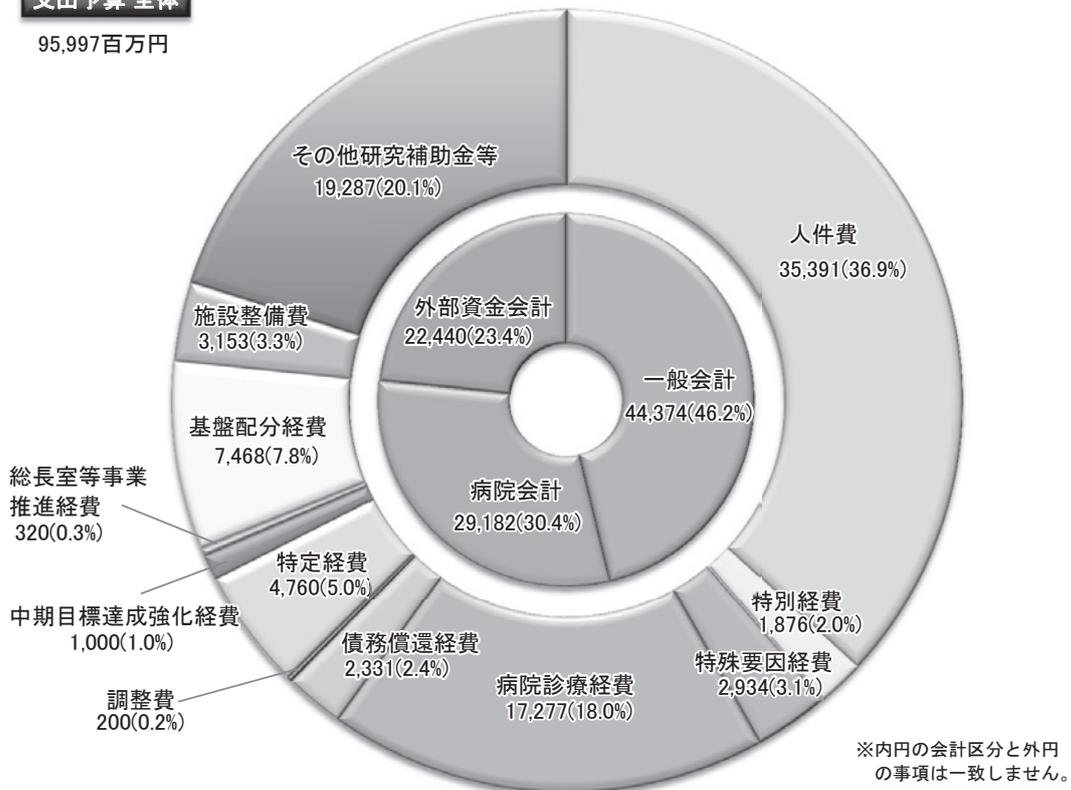
（単位：百万円）



支出予算 全体

95,997百万円

（単位：百万円）



※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）

次世代大学力強化推進会議を開催

3月20日（木）、事務局において、第1回次世代大学力強化推進会議を開催しました。

本会議は、本学が将来において備えるべき研究力の強化及び教育研究活動の国際的な展開を図る上で必要な事業（研究大学強化促進事業など）について審議することを目的として、本年2月1日に設置された総長直轄の新たな諮問組織です。

「研究大学強化促進事業」は、大学等における研究力強化を促進し、世界水準の優れた研究活動を行う大学群の増強に資することを目的として、本学が昨秋に交付決定を受けた文部科学省の補助事業です。

なお、当該事業等を推進することを目的とする運営組織として、前記推進会議と同日の2月1日付けで大学力強化本推進本部が設置され、本会議の開催・運営も同本部が当たりました。

会議の委員は、総長及び理事・副学長の学内委員6名のほか、産業界、マ

スメディアや地域経済関係の要職者である学外委員6名を含む、合計12名で構成されています。

会議の冒頭、議長である山口佳三総長から、昨今の国立大学法人を取り巻く状況を踏まえ、国策である国立大学法人改革等の実施に当たっては、産業界など大学の外部との積極的な対話が必要であり、外部の意見を採り入れる場として、本会議の果たす役割や意義は大きく、忌憚のない意見をいただきたい旨の挨拶がありました。

その後、川端和重理事・副学長から、本学における研究力強化策や研究大学

強化促進事業の事業内容等に関する説明が行われた後、今後の研究力強化の方向性について意見交換がなされ、外部委員との活発な議論が行われました。

本会議は、平成26年度以降は年3回程度の開催を予定しております。今後は、研究大学強化促進事業のみならず、国際連携研究の推進やグローバル化を見据えた人材育成などについても議論を深め、本学の一層の発展につなげたいと考えています。

（大学力強化推進本部）



学外委員の意見に耳を傾ける山口総長



事業概要等を説明する川端理事・副学長

「第1回 オープンファシリティシンポジウム」を開催

本学は「オープンファシリティ」として先端機器の有効利用と研究費の効率的運用を目的とし、研究機器・設備の共同利用による共有化、民間利用の促進・地域貢献を進めてきました。平成25年度、本学は、文部科学省の研究大学強化促進事業に採択されました。

当事業は本学の研究力強化の一環として、共用機器のより広範な利用による最先端機器の産業への応用、産学共同研究のより一層の推進を目指してい

ます。

3月10日（月）、当事業の取組みの一つとして、「第1回オープンファシリティシンポジウム」を開催しました。

当日は、現在進行中の文部科学省の各事業によるプログラム（安定同位元素イメージング技術による産業イノベーション、先端NMRファシリティの共用促進プログラム、微細加工ナノプラットフォームコンソーシアム／微細構造解析プラットフォーム）の内容

について、地域（企業）の方に向けての説明、オープンファシリティに新規導入される装置の紹介、及び共用機器を実際に使用している方からの成果等の報告が行われました。大学内外から約80名の方が参加され、シンポジウム後の懇親会を含めて活発な議論が行われました。

（大学力強化推進本部）



共用機器事業について講演する石森浩一郎教授



同位体顕微鏡システムについて講演する根本尚義教授



先端NMRファシリティについて講演する出村 誠教授

EU3大学との国際交流プロジェクト“UNI-Metrics” 報告会

サステナブルキャンパス推進本部と国際本部は、本学とEU3大学（トリノ工科大学、アムステルダム自由大学、ケンブリッジ大学）との国際交流プロジェクト“UNI-Metrics”を平成24年1月から平成25年12月までの2年間にわたり実施しました。このプロジェクトは、それぞれの大学が持つ独自の視点や方法論を比較検討しながら、サステナブルキャンパス構築のための戦略及びその評価方法を構築することを目的とし、EU3大学に本学の教職員6名が派遣され、その成果報告会を3月13日（木）に実施しました。

最初にサステナブルキャンパス推進本部長である三上 隆理事・副学長から開会の挨拶があり、キャンパスアセスメント部門長の小篠隆生工学研究准教授から趣旨説明がありました。次いで、派遣された教職員より、それ

ぞれの大学でのサステナブルキャンパス構築の戦略及びその評価方法構築に向けた研究や取組について報告が行われました。

日欧間の比較から「サステナビリティ」を大学の構成員にどのように広げるかというようなソフト面での話題がある一方、最新のキャンパス・サステナビリティの研究とキャンパスの省エネルギー化をつなげたケンブリッジ大学の取組紹介もあり、本学においてもとても参考となる発表が多くありました。質疑応答では活発な意見交換が行われ、非常に示唆に富んだ報告会となりました。

今後は、今回の報告会での意見を踏まえ、今年度以降のサステナブルキャンパス推進活動に反映したいと考えています。

（サステナブルキャンパス推進本部）



開会の挨拶をする三上 隆理事・副学長



報告会の様子

平成25年度学部入学前準備教育試行プログラムを実施

本学は道内6国立大学と連携し、それぞれの大学の学士課程へ入学予定の外国人留学生を対象に、正規課程進学後の学修、生活及び異なる大学の学生間の相互支援ネットワーク形成に資することを目的として、「平成25年度学部入学前準備教育試行プログラム」を3月24日（月）から28日（金）までの日程で共同実施しました。

本プログラムは、本年2月28日（金）に本学と北海道教育大学、室蘭工業大学、小樽商科大学、帯広畜産大学、旭川医科大学及び北見工業大学が「北海道地区国立大学における学部・大学院入学前留学生教育の実施に関する協定書」を締結したことをうけて実施が実現したもので、平成27年3月の本格実施を前に試行的に行われました。

本学の3学部へ入学予定の計4名の外国人留学生が参加し、連携大学の施設の一部及びその教員による講義を含む、異文化トレーニング、ストレスマネジメント、環境と放射線、情報倫理入門、日本の教育制度と教育行政、北海道の紹介、札幌市内見学等の授業に参加して、正規課程進学後の学修に資

する知識を身につけました。また、JICA北海道にて合宿形式で行われた本プログラムは、これらの知識の習得のみならず、入学予定学部が異なる参加者間の親交及びネットワーク形成の場も提供し、入学前の不安の解消、進学後の学修及び学生生活へのモチベーションの向上という効果も得られました。

プログラムには、本学の新渡戸カレッジ生6名をサポートとして、また在学留学生3名に経験談発表のため協力的に参加してもらい、在学学生との交流もまた参加留学生にとって大きな刺激と励みになった様子でした。

今回の試行プログラムによって得た経験や参加者へのアンケート調査の結果を基に、平成27年3月のプログラム本格実施へ向けて、連携大学からの参加者を含めたプログラムのさらなる充実を図っていきます。

（国際本部国際教務課）



新渡戸カレッジ生と共に大倉山ジャンプ競技場見学



開講式にて



クラーク像前にて記念撮影

平成25年度北大ペンハロー賞授与式を挙行

3月4日（火）、情報教育館3階スタジオ型多目的講義室において、平成25年度北大ペンハロー賞の授与式を行い、新田孝彦理事・副学長から賞状の授与と記念品が贈呈されました。

北大ペンハロー賞は、平成17年度から、北大えるむ賞に該当しない活動で、5団体以上が参加する都道府県規模の競技会、コンクール等で優勝する等最も高い評価を受けた団体または個人を表彰する制度です。

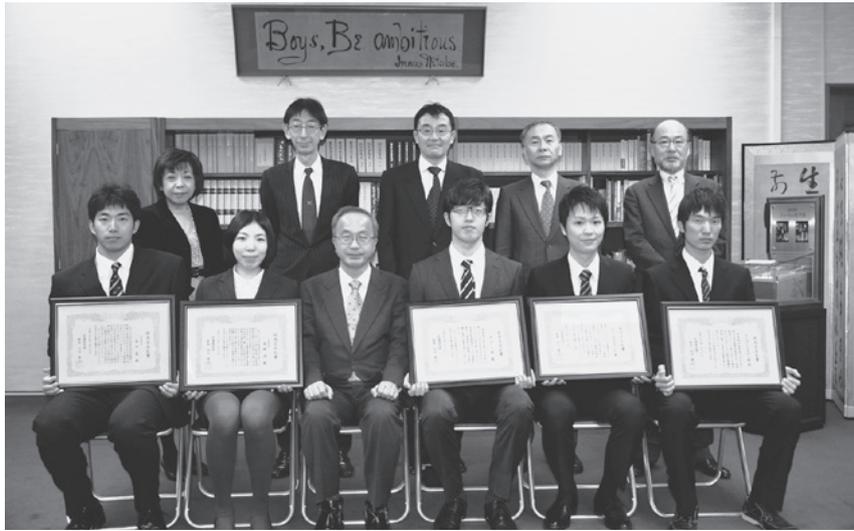
今回は、8団体、14個人が受賞しました。今回までで、113団体、282個人の計395件に授与されています。

（学務部学生支援課）



授与式での記念写真

平成25年北大えるむ賞授与式を挙



授与式記念写真

3月20日（木）、総長室において、平成25年北大えるむ賞の授与式を行い、山口佳三総長から賞状の授与と記念品が贈呈されました。

北大えるむ賞は、平成9年度に本学の伝統である全人教育の充実のため、学生の健全な課外活動及び社会活動等を積極的に支援し、その振興と活性化を図ることを目的として創設されたも

のです。

本学の学生を対象として、国際的・全国的規模の競技会等に参加し優秀な成績を修め課外活動の振興に功績があったもの、社会活動において優れた評価を受けたもの、自己研鑽並びに他の学生の指導などに優れた評価を受けたものなどに対して表彰しているもので、今回は、応募のあった17件から5

件が決定されたものです。

引き続き懇談会が催され、山口総長と受賞者の和やかな歓談の後、総長から受賞者へねぎらいと激励の言葉があり、受賞者は今後の更なる活躍を誓いました。

（学務部学生支援課）

受賞団体・個人と受賞理由

◆ 団体

- エレガントスキー部
第40回全国学生岩岳スキー大会 基礎スキーの部 男子総合優勝、基礎スキーの部 女子総合優勝。
- 北大・工学系チーム
NHK教育テレビの科学エンターテイメント番組「スイエンサー」（全国放送）に3回出演し、出演者チームや他大学チームとの対決において優秀な成績を取めた。
- カヌー部
第28回全国学生カヌースラローム選手権大会 団体総合優勝。

◆ 個人

- 高橋 遥
第30回日本女子選抜バスケットボール大会 北海道地区代表として出場し、優秀選手賞を受賞。
- 坂口 慧
2013アジアインドアローイング選手権大会 オープン級男子ペア部門第4位、オープン級男女混合スプリント部門500m第3位、オープン級男子個人部門第7位。

平成25年度北海道大学大塚賞授与式を挙



記念撮影

3月11日（火）、総長室において、北海道大学大塚賞授与式を挙

式を行いました。大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度です。

今回は平成25年度内の博士課程修了予定者8名及び既修了者2名、計10名が受賞者として選ばれました。

授与式には山口佳三総長、大塚榮子名誉教授、新田孝彦理事・副学長、西田久美子学務部長の列席の下、山口総長より賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

式終了後には、大塚賞受賞者講演会が事務局大会議室にて開催され、今年度受賞者代表並びに平成22年度受賞者の研究紹介及び講演があり、最後に大塚名誉教授から講評と激励のお言葉をいただきました。

引き続き交流会が開催され、研究分野に関する情報交換や将来の活躍を誓い合う機会となりました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しています。

（学務部学生支援課）



賞状の授与



交流会の様子

受賞者

教育学院	マキー 智子	医学研究科	立松 恵
法学研究科	比良 友佳理	歯学研究科	長谷川 智香
工学院	小林 彩乃	生命科学院	安崎 友香理
総合化学院	長澤 文嘉	情報科学研究科	今村 由芽子
獣医学研究科	奥山 みなみ	国際広報メディア観光学院	内藤 陽子

平成25年度クラーク賞表彰式を挙

3月24日（月）、平成25年度公益財団法人北海道大学クラーク記念財団クラーク賞表彰式がクラーク会館大集会室にて挙行されました。

クラーク賞は、成績優秀で他の学生の模範となる学部卒業者に対して、本学の推薦に基づき表彰されるものです。

表彰式では、同財団の中村睦男理事長から出席した42名の受賞者に対して、賞状と記念品が授与され、併せて、「クラーク賞を受賞したことを誇りに思い、社会で大いに活躍してください」

と賞賛と激励の言葉が贈られました。

なお、水産学部では函館キャンパスにおいて3月25日（火）に表彰式が挙行され、出席した4名の受賞者に対し

て、嵯峨直恆水産学部長から賞状と記念品が授与されました。

（学務部学生支援課）



賞状の授与



表彰式の様子

平成25年度北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—授与式を挙



記念撮影

3月31日（月）、高等教育推進機構中会議室において、平成25年度北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—授与式が挙行されました。

この賞は、全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するために設けられた制度です。

授与式は、新田孝彦高等教育推進機構長、鈴木久男総合教育部長、西田久美子学務部長の列席の下、新田高等教育推進機構長から7名の受賞者うち1

名の欠席者を除く6名に賞状が授与されました。

続いて新田高等教育推進機構長から、鈴木名誉教授の経歴の紹介とともに、「学術と社会の発展に貢献できる人材へと育てていただきたい」との挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した奨励金を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしていました。

（学務部学生支援課）



賞状の授与

受賞者

第1学期受賞者

27組 田 渕 沙 織
30組 森 田 敦 也
31組 国 井 宏 樹

第2学期受賞者

34組 大 内 香 子
36組 五十嵐 冬 華
36組 隈 井 仰
38組 小 谷 奈 穂

「北海道大学 研究シーズ集2014」を発行

産学連携本部では、本学で行われている研究内容について、分野を問わず広く知りたいとの企業様からのご要望にお応えするため、3月11日（火）に「北海道大学 研究シーズ集2014」を発行しました。

産業イノベーションを担う、106の最先端の研究シーズを分野別（ライフサイエンス、情報通信、ナノテク・材料、環境、ものづくり技術、エネルギー、社会基盤、共用機器の8分野）に掲載してあります。研究者以外の方にも興味を持っていただけるよう、簡潔にわかりやすくシーズのポイントをまとめています。

これらの研究シーズは産学連携本部のホームページ上でも公開されています。

(URL <http://www.mcip.hokudai.ac.jp/ebook/seeds/>)

シーズ集の発刊について新聞で取り上げられたこともあって、道内外からの問い合わせが相次いでおり、シーズ

集のホームページへのアクセスも600件を超えています。（4月2日現在）

産学連携本部では今後も継続して内容の充実に努め、情報発信を行ってまいります。

◆研究シーズ集2014についてのお問合せ

E-mail : jigyotomc@mcip.hokudai.ac.jp

担当：鈴木

(産学連携本部)



研究シーズ集2014

■ 部局ニュース

北海道大学病院で陽子線治療センター竣工披露式及び開所式を挙



陽子線治療センター



竣工披露式でのテープカット

医学研究科 白土博樹教授を中心研究者として、北海道大学と株式会社日立製作所が協働で進めてきた内閣府の最先端研究開発支援プログラム「持続的発展を見据えた分子追跡放射線治療装置の開発」事業により、「北海道大学病院陽子線治療センター」が平成26年3月に無事竣工となりました。陽子線治療センターはRC4階建て、建築延面積2,987㎡で、北海道大学が知的財産を有する「動体追跡照射技術」と株式会社日立製作所が開発した「スポットスキニング照射技術」を融合した、世界最先端の陽子線治療機器が設置されています。

「スポットスキニング照射技術」は、陽子線ビームを細いまま高速で移動させながら、腫瘍の形状に沿って照射する技術で、これによってさまざまな形状や大きさの腫瘍への治療が可能となります。「動体追跡照射技術」は、腫瘍近くに金マーカーを埋め込み、呼吸などで動く腫瘍の動きを追跡し、金マーカーが計画位置に来た時だけ放射

線を照射することにより、健康な部位への照射が抑えられる技術です。

この陽子線治療センターの竣工を記念して、3月17日（月）に、最先端研究開発支援プログラムによる5年間の研究成果報告を兼ねた竣工披露式及び開所式を挙りました。

竣工披露式では、山口佳三総長、白土教授の挨拶の後、山口総長、寶金清博病院長、笠原正典医学研究科長、馬場直志工学研究院長、川村 隆日立製作所取締役会長、白土教授によりテープカットが行われました。また、川村日立製作所取締役会長から山口総長へ、陽子線照射時のブラックピークをイメージした光のモニュメント照明装置が贈呈された後、センター立ち上げにかかわったスタッフの紹介が行われました。

引き続き医学部学友会館フラテに会場を移して行われた開所式では、山口総長、寶金病院長の挨拶の後、来賓紹介があり、山本一太科学技術政策担当大臣（中野 節審議官代読）、土屋定

之文部科学審議官、増山壽一北海道経済産業局長、高橋はるみ北海道知事、上田文雄札幌市長、長瀬 清北海道医師会長及び川村日立製作所取締役会長から来賓挨拶がありました。また、白土教授から最先端研究開発支援プログラム研究成果報告が行われました。

催しの間にはセンターの内覧会や報道機関向けにデモンストレーション等も披露しました。全日を通し、のべ190名の方々が参加し、センター開所に関する一連の行事が成功裡に終了しました。

今後は、北海道大学病院の理念である先進的な医療の開発と提供を実現するため、先進医療申請に向けて臨床症例を実施し、道内外にとどまらず、海外からの患者受け入れも視野に入れ、ひとりでも多くの患者に安心・安全な医療を提供していきたいと考えています。

（医学研究科・医学部、北海道大学病院）



白土教授から治療室の説明を受ける高橋北海道知事



開所式の様子



報道機関向けの見学会

低温科学研究所がロシア科学アカデミー極東支部太平洋地理学研究所と部局間交流協定を締結

低温科学研究所では、3月18日(火)にロシア科学アカデミー極東支部太平洋地理学研究所と部局間交流協定を締結し、調印式を行いました。

調印式には太平洋地理学研究所からピョートル・バクラノフ所長ら5名、本研究所からは三寺史夫教授、白岩孝行准教授の2名が出席しました。

太平洋地理学研究所は1971年にウラジオストックに設立された研究機関です。ロシア極東、アジア・西太平洋地域を研究対象とし、地理学、気候学、水文学、海洋学を中心とする様々な調査・研究活動を行っています。

先方で開催された調印式においては、三寺教授が「これまで11年間にわたって培ってきた共同研究の成果に立脚し、北東アジア及びロシア極東地域の自然と環境の理解を進めるべく、

様々な分野で共同研究ならびに若手研究者の育成を共同で進めたい」と抱負を述べ、太平洋地理学研究所のバクラノフ所長からは「低温科学研究所を初めとする日本の研究者とロシア人研究者が共同で実施したアムール川とオホーツク海の物質循環を解明したプロジェクトはロシアでもたいへん高く評価されている。これからも、両国が共有する北方圏の環境を理解すべく、研究と教育の分野で密接な連携を行っていきたい」と発言がありました。

調印式の後には協定締結を記念して記念講演会及び懇親会が開催されました。今後、両研究所の間で教員・大学院生の派遣や受入、共同研究の実施等、積極的な交流連携が期待されます。

(低温科学研究所)



協定書を取り交わすバクラノフ所長と三寺教授



調印式における関係者集合写真

スラブ研究センターがスラブ・ユーラシア研究センターに改称し、記念シンポジウムを開催

スラブ研究センターは、4月1日付でスラブ・ユーラシア研究センターに改称しました。

スラブ研究センターという名称は、1953年に開設された前身、スラヴ研究室に遡ります。ソ連・東欧諸国の研究を設置目的としたにもかかわらず、ソ連・東欧という言葉が冷戦期に帯びていたイデオロギー的ニュアンスを鑑み、あえてスラブを名乗ったのは、先人の知恵でした。しかし(旧)ソ連・東欧が、スラブ系だけではなく、テュルク、フィン・ウゴル、カフカス、バルトといったさまざまな系統の言語・民族が存在する地域であることを考えれば、この名称には実態とのずれがありました。

特にソ連とユーゴスラヴィアの解体後は、非スラブ系の独立国が増え、旧ソ連・東欧地域全体を「スラブ」と呼ぶのはますます難しくなりました。現

在、旧ソ連・東欧の29の独立国(非承認国家を除く)のうち、16が主に非スラブ系の民族が住む国であり、ロシア連邦の中にも、非スラブ系の共和国・自治管区などが多くあります。センターでも1990年代半ば以降、中央ユーラシアなど非スラブ地域の研究に本格的に取り組むようになるにつれ、非スラブ諸国の方々から、スラブ研究センターという名前は実状に合っていないという指摘をたびたび受けるようになりました。

旧ソ連・東欧をどのような新しい地域名称で呼ぶか、この地域を研究する機関の名称をどうするかは、世界中の研究者たちが頭を悩ませてきた問題であり、何らかの形で「ユーラシア」という言葉を使うことが増えてきました。センターでは「スラブ・ユーラシア」という言葉を考案し、重点領域研究「スラブ・ユーラシアの変動：自存

と共存の条件」(1995~1997年度)、21世紀COEプログラム「スラブ・ユーラシア学の構築：中域圏の形成と地球化」(2003~2007年度)をはじめとするさまざまな研究プロジェクトや、国際シンポジウム、出版物などで使ってきました。

さらに近年センターは、新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」(2008~2012年度)、グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」(2009~2013年度)等で、中国、インド、中東など、旧ソ連・東欧以外のユーラシア諸地域の研究とも連携を深めてきました。ユーラシア全域を視野に入れた研究機関としての存在価値をアピールするため、発展的な改名を考えるべきだというご意見も外部からいただきました。

以上のような経緯で、旧ソ連・東欧

地域の文化的な多様性、およびユーラシア諸地域の研究をつなぐハブとしてのセンターの機能を名称に反映させるため、スラブ・ユーラシア研究センターへの改称を決定するに至りました。

これを記念して、4月7日(月)に、シンポジウム「スラブ・ユーラシア研究の新しいアイデンティティ」をスラブ・ユーラシア研究センターにおいて開催しました。宇山智彦センター長による改称趣旨説明の後、田畑伸一郎教授の司会のもと、下記の講演・報告が行われ、計44人が参加しました。

皆川修吾名誉教授の講演は、1990年代にセンターの活動が拡大・発展した時期に行われた全国的共同研究の成果と苦勞を偲ばせるものでした。ラウンドテーブルでは、地域研究の目的と理

論的射程、地域研究者ならではの比較研究のあり方、現地調査で得られる感覚の意義、言語研究の地域研究への寄与と国際化の現状、地域研究における空間論・地誌・民族誌の重要性などが論じられました。フロアを交えての討論では、スラブやユーラシアという言葉が、スラブ主義・ユーラシア主義との関係で持ちうるイデオロギー性、最近のウクライナ情勢から浮かび上がる、帝国論と境界研究の接合の必要性などが活発に議論されました。スラブ・ユーラシア研究の活力と、さらなる発展の可能性をうかがわせるシンポジウムとなりました。

今回の改称は、一面では旧ソ連の中のアジア諸地域に関する研究の発展を反映するものですが、センターがスラ

ブ研究や中東欧研究を軽視することを意味するわけでは決してありません。むしろ近年は、かつて手薄だったスラブ諸言語・文化研究の充実に取り組んでいます。旧ソ連・東欧の中のスラブ地域と非スラブ地域の研究を両立させ、同時に旧ソ連・東欧以外の地域の研究とも連携することが、可能であり有効であることを、センターの歩み・取り組みは実証してきました。センターは今後とも、スラブ研究とユーラシア研究双方の拠点であり続けたいと考えています。皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(スラブ・ユーラシア研究センター)

講演

皆川修吾 (本学名誉教授) 「スラブ・ユーラシア研究事始め：重点領域研究『スラブ・ユーラシアの変動』(1995-1997年度)の意義」

ラウンドテーブル (報告者の所属はいずれもスラブ・ユーラシア研究センター)

- 家田 修 「いまなぜスラブ・ユーラシア研究なのか」
- 宇山智彦 「思考の糧としての地域研究：中央ユーラシア・比較研究の展望」
- 野町素己 「スラブ・ユーラシア研究における言語研究の役割と展望」
- 地田徹朗 「ボーダースタディーズから学んだこと：時間と空間をめぐるスラブ・ユーラシア研究の新たな課題」



皆川名誉教授の講演



ラウンドテーブルの様子

文学研究科国際シンポジウム 新渡戸稲造とこれからのグローバル化—『武士道』と国際人—を開催



東京講演会場



トレント マクシ氏

3月21日（金）、東京駅に隣接するステーションコンファレンス東京を会場に文学研究科主催国際シンポジウム「新渡戸稲造とこれからのグローバル化—『武士道』と国際人—」を開催しました。会場は満員の207名の参加者があり、同時中継した本学文系共同講義棟6番教室にも73名の参加者があり、シンポジウムの模様を熱心に視聴しました。

本シンポジウムは文学研究科の国際性・多様性について、広く学内外に発信することを目的とし、はじめて道外（東京）で開催するものであり、第1部「国際人新渡戸稲造」では、国内外から新渡戸研究者を迎えて、新渡戸稲造の思想、国際性などについて検討し、第2部「人文学研究のグローバル化とその可能性」では、国際的に活躍中の卒業生を交えて文学研究科・文学部のこれからの国際化について討論するものです。なお、本シンポジウムは、文部科学省の平成25年度研究大学強化促進事業の支援を受けて開催されました。

第1部の一人目であるミシェル・ラフェイ氏は、「国際化」という場合に外国人や文化と積極的に交流するという「積極的国際化」と、密かに進む「消極的国際化」の2つがあるとした上で、「消極的国際化」の方がはるか

に多く起っていると指摘します。「消極的国際化」の例として、内村鑑三が働いていたペンシルバニア州の病院に患者の療養のために敷地内の林に道（後に「内村ロード」と呼ばれる）を作ったことや札幌農学校のウィリアム・ベン・ブルックスがアメリカに日本の大豆を持ち帰ったことなどを紹介しました。「消極的国際化」は、結果や影響を制御できないもので、これに対してより敏感になる能力を身につけることこそ、国際人への第一歩になると結びました。

次にトレント・マクシ氏は、新渡戸稲造の『武士道』のアイデアが19世紀欧米で盛んに論じられた騎士道（Chivalry）から影響を受けたと考えられること、新渡戸は、日本人と欧米人をつなぐ通訳の位置に自分を置いていたと考えられると言います。また、現代人は『武士道』を反面教師として読むべきだ、と提言しました。その理由として身分制の問題を抜きにして武士という一握りの集団の特性を日本人論としていること、「国民国家」を創出するという目的をもつという歴史的な制約があることをあげました。

三人目の権 錫永氏は、新渡戸は『武士道』において日本人論を深い洞察の上に「弁護士」として西洋に向けて発

信したと指摘します。ところが、1906年に朝鮮を旅行した時に書かれた「亡国」、「枯死国朝鮮」ではまったく違うということを指摘します。新渡戸の日本文化論では、日本社会に存在するあらゆる習慣や考え方が優れて意味あるもの、価値あるものとしてすくい取られていますが、その一方で朝鮮を論じる時には、対象に対する配慮・やさしさ・柔軟さが微塵も感じられない、と言います。その上で、新渡戸は領土的膨張の欲望を持ちつつも世界主義的な傾向も強く持ち、当時の論壇では「中道派」とみなせると評価しました。

第2部では、まず、グローバル人材とはそもそも何なのか、が話題になりました。日本企業には外国の大学を卒業した人を「アメリカナイズされている」など見て、歓迎しない傾向があること、留学それ自体を目的にしても意味がないということ、が指摘されました。また、英語が重要視されていることについても、国際会議は英語で話すということは決して自明のことではないこと、自国語にこだわる国際人もたくさんいること、自国語を深く学ぶこともグローバル化にとって重要だということが提言されました。

このパネルディスカッションでは、いま現在、我々が直面している問題を

取り上げながら、真の国際化とはどういうことなのか、グローバル人材を育てるとはどういうことなのか、文学研究科・文学部ができることは何なのか、について多面的な視角から論じることができました。登壇者および参加者の間に広く共有された結論は、「異文化」「他者」に対する態度の重要性

ということでしょう。これからの文学研究科の教育・研究においてこのことを念頭に置きつつグローバル化への対応を果たしていくことが求められています。

(文学研究科・文学部)



東京会場

開会挨拶 弐 和順 (北海道大学大学院文学研究科長)

第1部 「国際人 新渡戸稲造」

「新渡戸稲造と札幌農学校の国際人」 ミシェル・ラフェイ (北海道教育大学准教授)

「二十一世紀に読む『武士道』」 トレント・マクシ (米国アマースト大学准教授)

「新渡戸稲造の光と影」 権 錫永 (北海道大学大学院文学研究科教授)

進行: 佐々木 啓 (北海道大学大学院文学研究科教授)

第2部 パネルディスカッション 「人文学研究のグローバル化とその可能性」

コーディネーター: 曾根 優 (NHKアナウンサー)

パネリスト: トレント・マクシ (米国アマースト大学准教授)

ミシェル・ラフェイ (北海道教育大学准教授)

権 錫永 (北海道大学大学院文学研究科教授)

日野峰子 (会議通訳者)

白木沢旭児 (北海道大学大学院文学研究科教授)

閉会挨拶 新田孝彦 (北海道大学理事・副学長)



北大会場

公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センターがシンポジウム「北海道ダイアログ：東アジアにおける市民社会対話」を開催

2月16(日)・17日(月)、公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター東アジア研究所主催により、日本、韓国、台湾、中国という東アジア地域の4つの市民社会を代表する民間研究者・言論人を集めた「第2回北海道ダイアログ：東アジアにおける市民社会対話」を開催しました(北海道新聞等共催)。

会議では、政治権力や資本による「言論の自由」への介入、社会的圧力や「タ

ブー」への付度による報道の自主規制、ネット空間を温床とするナショナリズムや排外主義の広がりなど、「メディア、ネット、市民社会、権力」の相互関係をめぐる東アジアの共通・共時的な問題について、学術的見地にメディアや社会運動の最前線からの視点を交差させた多角的な議論が活発に行われました。

(公共政策学教育部・公共政策学連携研究部)



会議の様子

メディア・コミュニケーション研究院が国際シンポジウム 「北海道における多文化共生：その理念と実践」を開催

3月1日（土）・2日（日）、メディア・コミュニケーション研究院主催の国際シンポジウム「北海道における多文化共生：その理念と実践」を本学で開催しました。本シンポジウムは、科学研究費補助金基盤研究（B）「北海道におけるサハリン帰国者の役割」と本研究院の共同研究“Multilingual and Multicultural Research”という2つのプロジェクトの一環として企画したものです。

北海道は、日本の他地域と比較して外国人労働者などのエスニック・マイノリティが少ないというイメージがあるかもしれませんが、実は先住民や移民、帰国者（引揚者）などさまざまなバックグラウンドを持つグループが存在します。本シンポジウムのねらいは、北海道の多民族・多文化に関する研究者とそれぞれのエスニック・マイノリティ・グループの活動家が一堂に会し、イギリスや韓国の事例と比較しながら、討論を通じて北海道の多文化共生の特徴を明らかにすることにありました。

1日目の第一部では、「イギリスにおける東ヨーロッパからのロマ移民」というテーマでイギリスのSylvia Ingmire氏（Roma Support Group）による基調講演が行われました。講演では、イギリスにおけるロマ民族の歴史や現在の状況、差別の問題やこのマイノリティグループの権利を守り、生活支援しているロマサポートグループの活動について紹介されました。その後、メディア・コミュニケーション研究院の濱井祐三子准教授と大学院生の千葉美千子氏が、イギリスの移民政策におけるロマ民族の問題や日本におけるロマ民族のイメージについて討論しました。

ロマサポートグループは、10年前に設立され、講演したSilvia Ingmire氏はその設立者であり代表を務めています。実は、こうした彼女のイギリスにおける活動は、16年前の留学先であった北海道のアイヌ文化教室の活動から

スタートしています。北海道の多民族状況という、まずアイヌ民族のことが思い浮かびますが、彼女の活動はこの教室から大きな影響を受けているそうです。

第二部では、清水裕二氏（少数民族懇談会）がアイヌの権利回復及び文化復興運動における多様性について発表しました。次に、日本国内で外国人マイノリティとしてもっとも長い歴史を持つ在日コリアンの教育の実態や、高校無償化政策の対象外になっている在日コリアンの民族学校の現状について、李紅培氏（北海道朝鮮初中高級学校・民族教育対策委員会委員）から報告がありました。こうした実践者による発表の最後として、近年に日本人として帰国しながらも、実は多様なアイデンティティを持つ中国帰国者の佐藤千恵子氏（市立札幌大通高校）とロシアからの帰国者である降旗多陽子氏（メンタルサポートセンター）が日本の社会への統合の問題などについて発表しました。実践者の報告に続き、音楽評論家の松村洋氏が日本各地のヘイト・スピーチに対する対抗アクションについて紹介し、最後に本学の兎内勇津流准教授（スラブ研究センター）と大学院生の宇山小夜・鳩貴子の両氏（国際広報メディア・観光学院）がそれぞれ札幌市における多文化・多言語図書館サービスとその可能性について、札幌市と函館市で暮らす外国人児童の教育支援に取り組むNPOの活動を中心に発表しました。

2日目は、「トランスナショナルなエスニック・マイノリティとしての本国帰国者」をテーマにして中国・サハリンからの帰国者に関する研究発表、活動報告を行い、実際の経験談を伝える場を作りました。具体的には、南誠（梁雪江）助教（長崎大学）が「トランスナショナルな中国帰国者」、中山大将研究員（スラブ研究センター）が「サハリン帰国者の歴史的背景」、玄武岩准教授とパイチャゼ・スヴェト



シンポジウムの様子

ラナ研究員（以上メディア・コミュニケーション研究院）が「サハリン帰国者の日韓露のトランスナショナルなアイデンティティ」と題して研究発表し、中国帰国者とサハリン帰国者の多文化的な存在を明らかにしました。自らが帰国者である須田百合子（日本サハリン協会）は残留・帰国の経験談を交えて、現在のサハリン帰国者の生活状況や日本への帰国の成功点や悩みについて興味深い話を披露しました。最後は、日本と韓国で帰国者の支援を行っている北海道中国帰国者支援・交流センターの向後洋一郎支援・相談員とKorean International Networkのイウニョン幹事が、それぞれの国の帰国政策や支援活動について発表しました。両国の政策・支援の共通点や相違点が明らかになることで、今後交流や経験の交換が可能になると期待できます。このように、研究と実践の視点から帰国者の問題を分析することによって、マイノリティとしての「帰国者」の存在が明確になり、彼らへの支援の在り方も見えてきたと言えるでしょう。

2日間のシンポジウムにはどちらもたくさんの参加者が集まり（1日目は80名以上、2日目は約50名）、熱心に発表者の話に聞き入っていました。また、講演後の質疑応答時には多くの質問が寄せられ、盛況のうちに終了となりました。

（国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院）

国際広報メディア・観光学院で 優秀学生「舞台は地球」賞の授賞式を挙

3月25日（火）、情報教育館スタジオ型多目的中講義室において、優秀学生「舞台は地球」賞の授賞式を行いました。

本賞は、学業成績が最優秀であった学生、国内学会・国際学会の大会発表において優秀と認められた賞を受賞した学生、さらには、課外活動や社会活動等において顕著な功績を残し、当学院の名声を高めたと認められる学生を表彰するために平成24年度に創設され、今年度は、成績部門3名、課外活

動部門2名、計5名が受賞者として選ばれました。

授賞式では、受賞者に賞状、トロフィーの授与及び記念品の贈呈が行われました。

受賞者には、本賞の名称（「舞台は地球」）のとおり、今後世界を舞台として、国際的に活躍することを期待しています。

（国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院）



授賞式の様子



受賞者

受賞者

成績部門	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	伊藤 あゆみ
成績部門	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	山口 健太
成績部門	観光創造専攻	修士課程2年次	赤穂 雄磨
課外活動部門	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	野口 将輝
課外活動部門	観光創造専攻	修士課程1年次	平井 健文

国際広報メディア・観光学院国際広報メディア専攻 留学生北京説明会及び同窓会を実施

3月15日（土）、16日（日）、本学北京オフィスを会場に本学院を対象にした留学説明会を実施しました。大気汚染への懸念も吹き散らすような青空と春の陽気のなか、通算5回目の開催となりました。事前申込み者の他に飛び入り参加者も相当数加わり、根強い本学院への関心を知り、主催者としても改めて感激した次第です。例年通り、学院の教育上の特色説明、研究生・大学院生というシステム、研究生募集で実施する事前審査とその対応など、留学希望者にとって説明会ならではの貴重な情報を提供しました。また、テレビ電話を利用して札幌在住の大学院生・研究生と学修面・生活面についての質疑など、自由で親身なやりとりも交わされ、大変好評でした。本説明会は、アンケートで参加者の要望を取り込みながら改善を重ねており、北京オフィスでの広報活動もさらに強化した

上で来年も開催予定です。

また、説明会1日目終了後には北京在住の同窓生6名が集まり、第3回北京同窓会を開催しました。大学院修了後に帰国・就職する留学生も徐々に増加していることから、親睦を深め、同窓生同士での情報交換・互助活動に資するという目的で実施しています。いつもながら、学生時代に戻って和やかな歓談の時となりました。修了生からは特に「ホームカミングデー」に参加したいという希望も表明され、本学と



札幌の留学生とのテレビ電話でのやりとり

の固い結びつきは今後も維持したいと感じさせられた次第です。

（国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院）



全体説明に聞き入る参加者



同窓会参加者

国際広報メディア・観光学院で教員研修（FD）講演会を開催

国際広報メディア・観光学院では、平成25年度におけるFDの一環として、国際広報メディア・観光学院及びメディア・コミュニケーション研究院の学生相談室担当をお願いしている臨床心理士の安部久美子先生を講師にお招きして、平成26年2月17日（月）の午後1時30分から、メディア棟105室にて講演会を開催しました。

講演の演題は「学生の生活サイクルにおける課題と対応—大学1年次と院生時期を中心に」で、相談室業務の紹介、学生の生活サイクルの課題と対応、対人関係の課題と対応、気になる学生

への対応の仕方、相談室利用の勧め方等、教員が日頃きちんと理解しておくべき事項を多岐にわたりお話いただきました。

1時間ほどの講演の後、参加した教員から、学生の生活指導についての一般的課題からそれぞれの教員が抱えている事例に基づく具体的課題まで多くの問題提起があり、それらについて予定の時間を超える活発な議論が行われました。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）



講演会の様子

薬学研究院が「第3回薬学研究院研究発表会（FD研修会）」を開催

3月7日（金）、薬学研究院臨床薬学講義室において「第3回薬学研究院研究発表会（FD研修会）」を開催しました。本発表会は教員のプレゼンテーション能力の向上や他分野の研究に関する理解を深めることを目的として昨年度から実施しています。

発表会は南 雅文薬学研究院長の開会挨拶で始まり、次いで「極長鎖脂肪酸の代謝と機能」（生化学研究室・佐々貴之講師）、「脂質異常症治療薬の薬物相互作用におけるモノカルボン酸トランスポートの関与」（臨床薬剤学研究室・小林正紀助教）、「c-Mycを中心とした細胞増殖制御の分子生物学」（分子生物学研究室・北浦廣剛助教）の3件の発表が行われました。

FD研修会を兼ねた今回の研究発表会には本研究院の教職員55名が出席し、活発な質疑討論が交わされ、盛会のうちに終了しました。当日の出席者へのアンケート調査の結果では「各先

生の主要な研究内容がまとまった話として聞くことができ、とても良い会だと思える」「先生ごとにプレゼンテーションの方法に特色があつてとても参考に

なった」などの意見があり好評でした。次回は今夏に開催する予定です。

（薬学研究院・薬学部）



発表する佐々講師



発表する小林助教



発表する北浦助教



発表者の説明を熱心に聞く参加者

平成25年度北海道大学・帯広畜産大学共同 獣医学課程共同FDの開催



全体ディスカッションの様子

3月7日（金）・8日（土）に栗山町ホテルパラダイスヒルズを会場として、平成25年度北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程共同FDならびに共同獣医学課程協議会を開催しました。当初の予定を大幅に超え、本学獣医学部教職員50名、帯広畜産大学教職員31名の総勢81名が参加することとなり、部屋が足りずに一部教員は宴会場に布団を敷いての宿泊となるほどでした。全体ディスカッションでは、今年度相互提供科目を担当した先生方の体験談を通して、円滑な教員移動のヒント、共同課程の問題点ならびに次年度

に改善すべき点などを議論しました。また、成績評価の基準や追加認定試験の考え方について熱い議論を交わし、さらには次年度から導入される遠隔授業システムの概要、学生配属ならびに共用試験の準備に係る進捗状況が報告されました。懇親会ではジェスチャーゲームで例年以上の盛り上がりをみせ、両大学の教職員同士がさらに打ち解ける絶好の機会となりました。

翌日は「欧米認証に係る認識と進捗、そしてゴール」と題し、帯広畜産大学古林与志安教授が講演し、次年度に迫った事前サイトビジットまでのタイ

ムスケジュールを認識しました。その後、個別ディスカッションとして各学科目教員に分かれ、次年度以降の授業内容の確認とすり合せを行いました。ここでは、新たな実習科目の実施についての具体的アドバイス、欧米認証基準に合致する動物種の追加、札幌と帯広の地域格差に伴う実習の困難さを補う方法、成績評価の詳細比較など、多数の議論と合意がなされました。

午前10時半より開始された共同獣医学課程協議会では、平成26年度カリキュラム、相互提供科目試験日、進級学生の決定などが決議されました。また、実行教育課程表の一部見直し案、進級要件の確認ならびに共用試験の予定などが報告されました。

今年度の共同FDは、予算計上が困難であったため開催しない予定でありました。しかし、次年度は両大学間の相互提供科目が大幅に増えること、また欧米認証に係る工程を理解したいという理由で多くの教員から開催要望があり、年明けからの計画で急遽の開催となりました。FDは教員の義務であります。ぜひとも全学の年間行事として定着させられるよう、大学全体での支援体制ができることを期待します。

（獣医学研究科・獣医学部）

水産科学院各種表彰（伊藤一隆賞,はるにれ賞及びジョンカッター賞）の授賞式を挙

3月26日（水）ロワジールホテル函館において、学位記授与式に引き続き、水産科学院の学生を対象とした各種表彰の授賞式を行いました。

本表彰は、学術上優れた研究成果を挙げた大学院学生を称え、広く学生生活を支援する制度として、水産科学院独自に創設されたものです。

各賞受賞者（計4名）には、嵯峨直恆水産科学院長から賞状の授与及び記念品（オルゴール）の贈呈が行われました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



「伊藤一隆賞」授与の様子



「伊藤一隆賞」授与



「はるにれ賞」授与



「ジョンカッター賞」授与

名 称	受 賞 者
伊藤一隆賞	大橋 慎平 (DC3), 北村 志乃 (DC3)
はるにれ賞	永野 優季 (DC3)
ジョンカッター賞	侯 吉倫 (DC3)

脳科学研究教育センター—発達脳科学専攻第10期修了生に修了証書授与

本学修士・専門職学位・博士学位授与式当日3月25日(火)午後4時から、ファカルティハウスエンレイソウ第一会議室において、脳科学研究教育センターが設置する発達脳科学専攻教育プログラム修了生に対し、吉岡充弘センター長から修了証書が授与されました。

今年度の修了生は第10期生として、修士課程3名(首藤智宏：生命科学院、笹木美幸：教育学院、角屋智香：保健科学院)、博士(後期)課程3名(谷口康祐：文学研究科、小倉有紀子：生命科学院、岩倉 淳：医学研究科)の所属学院・研究科の学位取得に合わせて発達脳科学専攻所定の修了要件を充足し、修了が認定されたものです。

本センターでは、脳科学に関する大学院授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、北広島クラッセホテルでの合

宿研修、脳科学シンポジウムの開催、複数の研究科に所属する基幹教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、修了論文の公開発表会や合宿研修では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の大学院生・教員に自分の研究を理解してもらうことを特に重視しています。

発達脳科学専攻は、文理医系融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、平成15年度に発足し、現在は学内14研究科(学院)にわたる大学院生を対象として複雑な機能をもつ脳について融合した教育プログラムを編成し、研究科枠を超えた人材育成を図っています。これまでに修士課程63名及び博士(後期)課程20名、計83名の修了生を送り出しています。

(脳科学研究教育センター)



センター長から一人ずつ修了証が手渡された



今年度の修了生6名と基幹教員など

図書館学生サポーター—活動証明書授与式を挙行

3月11日(火)、この1年間の活動を通して附属図書館の活性化に貢献した図書館学生サポーターに、活動証明書が授与されました。

この日は残念ながら出席できないメンバーもいましたが、参加した8名には望月恒子附属図書館副館長より活動証明書が手渡され、活動への感謝の意が伝えられました。なお、欠席したメ

ンバーには後日授与することとしています。

授与式の後に行われた懇談会では1年間の活動を写真で振り返り、サポーターからは「図書館を身近に感じることができた」「様々な取組みができて充実した1年だった」といった感想が聞かれました。またサポーターからのアンケートでも「図書館の裏側や企画

運営の難しさを知ることができた」「来年度はもっと積極的に参加したい」などの声が寄せられました。

附属図書館では来年度も引き続き図書館学生サポーターとの協働を行い、図書館の活性化を図っていくとしています。

(附属図書館)



望月副館長から活動証明書を授与



授与式での記念写真

附属図書館で平成25年度研修出張報告会を開催

附属図書館では、3月13日（木）、本学図書系職員等を対象として「国内研修出張報告会」を附属図書館大会議室で開催し、30名が参加しました。

この報告会は、図書業務関係の研修等に参加した職員が全学の図書系職員に対し研修内容を発表し、情報の共有を図るための取組みで、今年度は12月19日に開催された1回目につき、2回目の開催となります。当日は、学外で開催された研究会・講演会等に参加した4人の職員が報告を行いました。

初めに、立命館グローバル・イノベーション研究機構主催の研究会「大学図書館における障害学生支援」に参加した小林泰名利用支援課係長（相互利用担当）から報告がありました。障害者差別解消法の成立の影響と著作権法37条ガイドラインに関する情報共有を目的に開催されたもので、小林係長からは主に「立命館大学図書館における障害学生支援」について、詳細な報告がありました。

次に、京都大学図書館機構主催の講演会「大学のグローバル化における図書館の役割－留学生サービスから考える」に参加した笠井美由紀利用支援課事務職員から、京都大学と東北大学の事例紹介があり、「図書館の情報を幅

広く英語で発信する」ことの重要性が指摘されました。

国立大学図書館協会・教育学習支援検討特別委員会事例報告会「伝統的な図書館を超える図書館活動－学修支援の実例－」に報告者として参加した鈴木宏子利用支援課長からは、イリノイ大学図書館長による基調講演を踏まえ、図書館の新しい役割・価値を創造するために必要なアクションは「企画、提案、連携、協働」であるという提言がありました。

最後に、慶應義塾大学メディアセンター主催の国際フォーラム「大学図書館における冊子体コレクションの将来～日本版Shared Printの可能性」に参加した金子 敏利用支援課係長（医・図書担当）からは「Shared Print（シェアード・プリント）」（紙資料の共同保存・管理）について日米の最新動向の紹介がありました。

いずれも大学と大学図書館をめぐる喫緊の重要課題であり、参加者からは熱心な質問が相次ぎ、それぞれの立場からサービスの改善と充実を考える有意義な機会となりました。

（附属図書館）



質疑応答の様子



出番を待つ発表者



報告会の様子

北海道大学病院で第1回 新卒者多職種合同歓迎会を開催

4月4日（金）、北海道大学病院では今年度採用する6つの職種（医科臨床研修医・歯科臨床研修医・看護師・薬剤師・メディカルスタッフ・事務職員）の新卒者を対象に、多職種合同歓迎会を開催しました。

初の試みとなったこの合同歓迎会は、病院全体で新卒者へ歓迎の意を表するとともに、午前中から行われたコミュニケーションスキル研修の一貫として企画し、各部署の新卒者と病院各部署・職種間の相互の親睦を図り、優れたチーム医療体制作りを目指したものです。会場となった北部食堂には、

新卒者227名のほか、寶金清博病院長をはじめ病院執行部・各診療科長等82名が集まりました。

会の冒頭では、寶金病院長の「ひとりでも多くの初対面の人達とコミュニケーションをとって欲しい。」との開式挨拶、筒井裕之副病院長の乾杯の発声で始まり、病院執行部より期待のこもった激励及び各職種の新卒者紹介があった後、その期待に応えるように新卒者代表6名より熱い抱負が述べられました。

多職種混合グループで終始笑顔があふれる賑やかなムードのもと、会の途

中には、病院執行部に関するクイズ大会が行われ、正解が発表される度に会場が大いに沸きました。

最後に川畑看護部長から乾杯及び閉式の言葉が述べられ、大盛況の中、惜しまれつつも会が終了し、新卒者と病院職員との交流が深まる場となりました。

職種の垣根を越えたシームレスな連携が重要性を増す医療現場において、本会が優れたチーム医療実践の一助となることを期待します。

（北海道大学病院）



寶金病院長（左から3人目）と新卒者



筒井副病院長からの挨拶



川畑看護部長（左から3人目）と新卒者



新卒者（事務部門）代表からの挨拶（右）



盛り上がった看護部企画のゲーム大会



ゲーム大会で景品を得た新卒者

松本純爾旧蔵日記を大学文書館で受贈

大学文書館では、3月24日（月）に松本純爾旧蔵日記17点を、ご令孫の山口二郎氏よりご寄贈いただきました。

松本純爾は、1895（明治28）年岡山県に生まれ、1905年岡山県立中学校を卒業後、札幌農学校林学科に入学しました。1908年7月林学科を第6期生として卒業した後、北海道庁立空知農業学校教諭となり、1914（大正3）年4月には郷里の岡山県に戻り、岡山県立農学校（後の岡山県高松農学校）、山陽女子高等学校にて教鞭を執りました。

このたび受贈した日記は、1904年、1906～1918年に綴られた17冊です。日記には、日露戦争後の札幌農学校にお

ける学生生活のほか、就職先の農業学校でどのような教諭生活を送っていたのかが記されています。

林学科在学中、松本純爾は札幌独立基督教会に通い、青年寄宿舎に暮らしながら、学科・学年の垣根をこえた友情をはぐくんでいました。昆虫学者や歴史家となる夢も抱いていました。ワーズワースの詩集など英文学のほか、トルストイ・ツルゲーネフといったロシア文学なども耽読し、予科教授であった有島武郎（札幌農学校第19期生）を慕っては有島主催の読書会に参加して思索を深めていたことも日記からうかがわれます。また、空知農業学

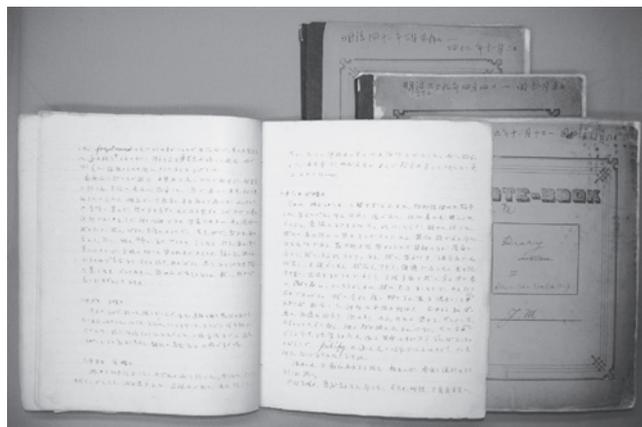
校から転任する際には、後任者に蠣崎知二郎（札幌農学校第19期生）を校長に推薦し、先輩で貸本業を営んでいた足助素一（森林科1904年卒業）や青年寄宿舎で私淑した宮部金吾教授を訪問するなど、札幌農学校関係者の人的つながりを日記から読み取ることができます。

今後、大学文書館では、受贈日記を大切に保存すると共に、有島武郎・足助素一の日記類や青年寄宿舎日誌と照合しながら翻刻を進め、展示・資料見学会などでも活用していきます。

（大学文書館）



青年寄宿舎舎友より卒業を祝されて（1908年6月3日）
松本純爾（前列右2番目）、宮部金吾教授（前列中央）



松本純爾日記（1906-1910年）
見開いたページには、卒業記念撮影の様子が記されている

■お知らせ

附属図書館（本館・北図書館）朝8時開館の正式運用について

学生の授業前の学習時間を確保するため、平成25年10月より本館・北図書館では、授業期間の開館時間を平日8時からとする早朝開館を試行してきました。この施行期間中は、多くの学生の利用がありました。あわせて平成25年11月に実施した図書館利用者アンケートでも、早朝開館を希望する意見が多く寄せられたことから、本年4月より正式に運用を開始することになりました。どうぞご利用ください。また、開館時間の詳細については以下カレンダーを参照ください。

<http://www.lib.hokudai.ac.jp/calendar/>

(附属図書館)

平成26年度 人間ドックの実施について

文部科学省共済組合北海道大学支部では、文部科学省共済組合本部の指導の下、保健事業の一環として健康管理の推進を目的に人間ドックを次のとおり実施しています。(任意継続組合員を含む。)

なお、平成19年度より受付等については、専門業者へ外部委託となり、組合員が直接ホームページ等から申込みしていただくこととなりますので、よろしくご協力願います。

1. 申込期間

平成26年4月1日（火）から平成26年12月20日（土）まで。

2. 対象者

満年齢35歳以上（当該年度の4月1日現在）の組合員本人及び組合員の被扶養者である配偶者です。

3. 補助額

組合員 2万5千円 被扶養配偶者 1万5千円

(利用料金が共済組合助成額を下回る場合は、利用料金)

受診料の個人負担額は、医療機関に支払います。

4. 健診機関

文部科学省共済組合ホームページ掲載の「健診機関一覧」から各自選択します。

5. 申込方法

申込方法につきましては、昨年度と同様の取扱いとなりますので、詳細については文部科学省共済組合ホームページでご確認願います。

なお、ホームページを閲覧できない方は、郵送の申込となりますので所属部局等の担当者へお尋ねください。

文部科学省共済組合ホームページアドレス

<http://www.monkakyosai.or.jp/>

お問い合わせ先

(株)イーウェル 健診サポートセンター

TEL 0570-057120

受付時間 (平日) 10時～20時 (土・日・祝) 10時～17時

6. その他

平成20年度から健康保険組合に「特定健康診査」が義務づけられたことに伴い、今回実施する健康診断結果のうち、法定健診項目及び特定健診項目に関する診断内容及び問診結果等の個人情報については保有・利用させていただきます。(目的外利用はいたしません。)

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

博士學位記授与

3月25日(火)に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は311人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は21人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者				博士論文名
	氏名				
博士(文学)	ます 増	やま 山	ひろ 浩	と 人	カントの世界論 - 「複合体」と「系列」という二つの観点から - 主査: 教授 新田孝彦
	シユウ 周	フィ 菲	フィ 菲		地域の複数性に関する人類学的研究 - 中国人の観光における「北海道」の生成 主査: 准教授 小田博志
	いっ 一	しき 色	まい 舞	こ 子	日本語と韓国語補助動詞の意味拡張における通時的対照研究 主査: 准教授 李 連珠
	おか 岡	だ 田	たか 貴	のり 憲	和泉式部物語の研究 主査: 教授 後藤康文
	チョウ 張	レイ 玲	レイ 玲		言語的修復行動に関する語用論的研究 - 中国語との比較を通して - 主査: 教授 佐藤知己
	にし 西	で 出	か 佳	よ 代	ルクセンブルク語の音韻記述 主査: 教授 清水 誠
	まつ 松	い 井	み 美	ほ 穂	Passing into the Darkness: Sexuality, Race, and Integration of the Segregated in the Works of the Southern Renaissance (南部ルネサンス文学におけるセクシュアリティ, 人種, そして越境する主体) 主査: 教授 瀬名波栄潤
	いの 井	うえ 上	あ 愛	ゆみ 弓	司法面接が出来事の報告に及ぼす影響 主査: 教授 仲真紀子
	たに 谷	ぐち 口	こう 康	すけ 祐	形態処理に関するオブジェクト認知構造 - 検出とカテゴリー化の判断過程の比較 - 主査: 教授 田山忠行
	な 名	ばた 畑	やす 康	ゆき 之	目撃証言の信用性判断に関する研究 - 模擬裁判員の判断過程に着目して - 主査: 教授 仲真紀子
博士(法学)	かく 郭		び 薇		法と情報空間 - 近代日本におけるの構築変容 主査: 教授 尾崎一郎
	さ 佐	とう 藤	ゆ 結	み 美	個人情報の刑法的保護の可能性と限界について 主査: 教授 城下裕二
	JONATHAN エドワードブル EDWARD BULL				The making of Karafuto repatriates 主査: 教授 山崎幹根
	ニ 倪		ジュン 潤		罪数論と一事不再理効の関係の再構成 - 「かすがい」, 集合犯を中心として 主査: 教授 白取祐司
	はし 橋	ば 場	のり 典	こ 子	社会的排除と法システム - システム作動要因としての属人性 - 主査: 教授 尾崎一郎
	ひ 比	ら 良	ゆかり 友佳	り 理	デジタル時代における著作権と表現の自由の衝突に関する制度論的研究 主査: 教授 田村善之
博士(経済学)	オウ 王	ガク 学	リュウ 龍		Essays on Rural-Urban Disparity in China: Interaction, Migration, Financial Development (中国における都市農村格差: 相互作用, 移民, 金融発展) 主査: 准教授 樋渡雅人
博士(経営学)	こ 小	すぎ 杉	まさ 雅	とし 俊	イギリスにおける品質コスト概念とその適用に関する研究 主査: 准教授 春日部光紀
	なか 中	むら 村	まさ 将	と 人	戦前期日本における鉄道会計の史的展開に関する研究 主査: 准教授 春日部光紀
	むら 村	かみ 上	おさむ 理		会計の政治化に関する学際的研究 - 基準認定機関とパブリック・セクターの相互関係の観点から - 主査: 教授 吉見 宏

<p>博士（経済学）</p>	<p>リ 李 シ 思 ビョウ 森</p>	<p>Theoretical and empirical examinations of decision-making under different institutions (異なる制度下の意思決定に関する理論・実証研究) 主査：准教授 肥前洋一</p>
<p>博士（医学）</p>	<p>しお 野 の の 展 子</p>	<p>The outcomes of patients with congenital diaphragmatic hernia with indications for the Fontan procedure: Results of national survey in Japan (先天性横隔膜ヘルニアを合併したフォンタン適応心疾患の予後：わが国における全国調査より) 主査：教授 有賀 正</p>
	<p>ふく 田 だ 直 なお や 也</p>	<p>Validation of histological diagnostic methods for detecting endothelin B receptor expression (Endothelin B receptor の発現を評価する適切な組織学的診断手法の確立) 主査：教授 秋田弘俊</p>
	<p>アイマン シダン Aiman Zidan アハメド エルマンスリ Ahmed Elmansuri</p>	<p>Analysis of mechanism of adaptor protein Crk-induced epithelial-mesenchymal transition (EMT) and its implication to human cancer metastasis (アダプター分子Crkによる上皮間葉移行機構とヒト癌転移誘導におけるその役割の解明) 主査：教授 秋田弘俊</p>
	<p>あき もと 秋 元 たく ま 琢 真</p>	<p>遺伝性間質性肺疾患の診断システムに関する研究 主査：教授 西村正治</p>
	<p>あん どう 安 藤 りょう 亮</p>	<p>Impact of Proteasomal Dysfunction in Sensory Retina (感覚網膜におけるプロテアソーム機能不全の影響) 主査：教授 畠山鎮次</p>
	<p>いけ 池 ざわ 澤 やす 靖 ゆき 元</p>	<p>放射線治療感受性とHIF-1及びNotch pathwayの関連性の検討 主査：教授 松野吉宏</p>
	<p>いけ 池 だ 田 まさ 正 き 起</p>	<p>ケロイド線維芽細胞に対する肺線維症治療薬ピルフェニドンの作用とその機序 主査：教授 清水 宏</p>
	<p>いずみ 泉 がく 岳</p>	<p>QT延長症候群における責任遺伝子複合変異は小児期の心イベントを増加させる 主査：教授 筒井裕之</p>
	<p>い 伊 とう 藤 りょう 亮 こ 子</p>	<p>Dexmedetomidineがラット海馬シナプス可塑性へ及ぼす影響 主査：教授 吉岡充弘</p>
	<p>いな 稲 むら 村 なお 直 や 哉</p>	<p>頭頸部扁平上皮癌におけるNotch1の役割に関する研究 主査：教授 櫻木範明</p>
	<p>いわ 岩 くら 倉 あつし 淳</p>	<p>マウス小脳パンソー構造の分子解剖学的研究：パンソーはプルキンエ細胞の軸索初節に対してGABA作動性の化学的抑制を行うための分子解剖学的基盤を欠く 主査：教授 神谷温之</p>
	<p>いわ 岩 さき 崎 じゅん 純 こ 子</p>	<p>FIP1L1を介して生じる白血病融合遺伝子FIP1L1-RARA, FIP1L1-PDGFRαの機能解析 主査：教授 野口昌幸</p>
	<p>うち 内 だ 田 よう 洋 すけ 介</p>	<p>幼若期のインフルラン暴露は海馬歯状回において新生顆粒細胞の移動を阻害する 主査：教授 佐々木秀直</p>
	<p>おか 岡 だ 田 えみ 恵美子 こ 子</p>	<p>有機フッ素化合物の胎児期曝露が乳幼児期のアレルギー症状に及ぼす影響 主査：教授 有川二郎</p>
	<p>かみ 神 や 谷 きわむ 究</p>	<p>慢性冠動脈疾患患者に対する負荷心筋血流核磁気共鳴画像法、負荷心筋血流単光子放射型コンピュータ断層撮影法、及びドプタミン負荷心エコー図法を用いた機能的冠動脈狭窄診断能の比較検討 主査：教授 松居喜郎</p>
	<p>かめ 亀 だ 田 ひらく 啓</p>	<p>下垂体副腎皮質刺激ホルモン産生細胞におけるニューロメジンBの発現と細胞増殖における影響の検討 主査：教授 筒井裕之</p>
<p>かん 菅 の 野 ゆき 由 こ 岐子</p>	<p>下部尿路閉塞膀胱における膀胱の形態的および機能的変化の機序の解明 主査：教授 水上尚典</p>	
<p>き 木 むら 村 いく 生</p>	<p>Is milnacipran a promising agent to suppress impulsive behavior? (ミルナシプランは有望な衝動性抑制薬であるか?) 主査：教授 神谷温之</p>	
<p>く 工 どう 藤 たい 大 き 樹</p>	<p>脾腫瘍性病変に対する 25 G 穿刺針を用いたEUS - FNA における通常圧吸引法と高陰圧吸引法の組織採取に関する多施設共同前向き無作為化研究 主査：教授 平野 聡</p>	
<p>こ 小 ばやし 林 すみ 澄 たか 貴</p>	<p>妊婦の受動喫煙と多環芳香族炭化水素 (PAHs) 代謝関連遺伝子多型が児の出生時体格に及ぼす影響 主査：教授 有賀 正</p>	
<p>こ 小 ばやし 林 よし 良 みつ 充</p>	<p>治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌の3次治療におけるパニツムマブの皮膚毒性に関する検討 主査：准教授 神山俊哉</p>	

博士 (医学)	さいとうあきみち 齋藤 晶 理	Elucidating the Mechanisms of Chronic Inflammation Focusing on Natural Killer T Cells (ナチュラルキラーT細胞に着目した慢性炎症の遷延機序の解明) 主査：教授 清野研一郎
	さいとうなな 齋藤 奈 央	Studies on mouse model generated by using PBMCs and the skin of Stevens-Johnson syndrome/ toxic epidermal necrolysis patients (Stevens-Johnson syndrome/ toxic epidermal necrolysis のモデルマウス作成に関する研究) 主査：教授 清野研一郎
	さいとうひさやす 齋藤 久 泰	核医学的手法を用いたラット脳梗塞に対する骨髄間質細胞移植の治療効果判定法の確立 主査：教授 玉木長良
	さいとうみちゆき 齋藤 理 幸	Quantitative investigation of choroidal circulation for retinochoroidal diseases (網脈絡膜疾患における脈絡膜循環の定量的研究) 主査：教授 渥美達也
	ささきなかとひで 佐々木 尚 英	切除不能進行・再発胃癌における血清HER2タンパクと組織HER2発現の一致率に関する検討 主査：教授 野口昌幸
	ささきざわみお 笹 沢 史 生	GM3合成酵素KOマウスにおける変形性関節症に関する研究 主査：教授 近藤 亨
	ささきもりと 笹 森 とおる 徹	Validation of the Treatment Strategy for Spinal Dural Arteriovenous Fistulae Based on the Long-term Outcome (長期予後に基づく脊髄硬膜動静脈瘻に対する治療戦略の検証) 主査：教授 生駒一憲
	ささきとうひろき 佐藤 宏 紀	High-Expression of AMAP1 and EPB41L5 Proteins Correlates with Lymph Node Metastasis and Survival Rate after Surgical Therapy of HNSCC. (AMAP1, EPB41L5蛋白の高発現は頭頸部癌におけるリンパ節転移および術後の生存率と相関する) 主査：教授 佐邊壽孝
	ささきとうやすゆき 佐藤 泰 征	The sequential clinicopathological changes in pediatric patients with IgA nephropathy treated with corticosteroids: An analysis using the Oxford classification (ステロイド療法を施行した小児期発症IgA腎症例における経時的臨床病理学的変化に関する検討：Oxford国際分類による解析を用いた検討) 主査：教授 野々村克也
	しんぼだいすけ 新 保 大 輔	人工酸素運搬体：liposome-encapsulated hemoglobinを用いた虚血再灌流障害に対する治療戦略の検討 主査：教授 森本裕二
	たかほしまさかず 高 橋 正 和	Endoscopic diagnosis of early squamous neoplasia of the esophagus with narrow band imaging: Correlations among background coloration, pink-color sign on iodine staining and clinicopathological findings (早期食道腫瘍に対する狭帯域光観察を用いた内視鏡診断の検討：ヨード染色観察との比較、およびその組織学的特徴) 主査：教授 平野 聡
	ツォン 叢	シ石 The association between mechanical ventilation, flue use in heaters and asthma symptoms (暖房の排気、および室内換気と児童喘息との関連) 主査：教授 西村正治
	とうしん 董 震 宇	Novel Molecular Targets for Treatment of Ocular Neovascular Diseases (眼内血管新生性疾患治療における新規標的分子の探索) 主査：教授 佐々木秀直
	なかじまみどり 中 島 翠	Functional Analysis of Epileptic Spikes at Focal Cortical Dysplasia with Spatial Filtering Analysis (空間フィルター法を用いた皮質形成異常におけるてんかん性棘波の機能解析) 主査：教授 生駒一憲
	ながおかけんたろう 長 岡 健太郎	下気道における偏性嫌気性菌の病原性の検討 主査：教授 有川二郎
	にしおかけんたろう 西 岡 健太郎	膀胱癌に対する画像誘導放射線治療に関する研究 主査：准教授 篠原信雄
ののもとひろし 野 本 博 司	膵β細胞におけるsmall Mat転写因子群の意義とインクレチン効果に関する検討 主査：教授 大場雄介	
ふくい井なかあき 福 井 孝 明	In Vivo Effects of Intra-articular Administration of Hyaluronic Acid on Hyaline Cartilage Regeneration Induced by Implantation of PAMPS-PDMAAm Double-network Hydrogel (PAMPS-PDMAAmダブルネットワークゲルによって誘導される硝子軟骨再生に対するヒアルロン酸関節内投与のin vivo効果に関する研究) 主査：教授 岩崎倫政	

博士 (医学)	ふくはら じゅんいち 福原 淳一	Novel Pharmacological Approach to Treatment of Ocular Neovascular Diseases (眼内血管新生性疾患治療に対する新規薬物アプローチ) 主査:教授 三輪聡一
	まき きなこ 真木 賀奈子	アレルギー性気道炎症における蛋白のグルタチオン化とグルタレドキシシン1に関する研究 主査:教授 瀬谷 司
	まさ きよし ひろ 正木 芳宏	Studies on the Effect of Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor on Exercise Capacity and Energy Metabolism in the Skeletal Muscle from the Experimental Heart Failure after Myocardial Infarction in Mice (心筋梗塞後心不全における骨格筋エネルギー代謝および運動能力に対するDPP-4阻害薬の効果に関する研究) 主査:教授 松居喜郎
	ます こし かず たか 増子 和 尚	Studies on induction of effective anti-tumor immunity and regulatory mechanisms by novel long peptide vaccination (新規人工合成ロングペプチドによる効率的な抗腫瘍免疫誘導と作用機序に関する研究) 主査:教授 瀬谷 司
	まつ もと み お 松本 美 櫻	内視鏡処置における後出血に関わる因子の検討 主査:教授 渥美達也
	みや ぎき まさ や 宮崎 将 也	CRK-DOCK関連シグナル伝達分子の分子病理学的解析 主査:教授 松野吉宏
	やま うち とも ひろ 山内 朋 裕	Safe and efficient expansion of human bone marrow stromal cells in platelet lysate and granulocyte-colony stimulating factor (G-CSF) for cell therapy (血小板濃厚液と顆粒球コロニー刺激因子を用いた,安全で効率的なヒト骨髄間質細胞の培養法) 主査:教授 近藤 亨
	やま だ かつ ひさ 山田 勝 久	生体力学的環境変化により生じる椎間板組織の変性制御に関する統合的研究 主査:教授 山本有平
リョウ 梁 サン 珊 梁 珊 珊	Biological roles of SOX2 and mechanisms of regulation of its expression in human breast cancer cells (ヒト乳がん細胞におけるSOX2遺伝子の役割とその発現調節機構) 主査:教授 山下啓子	
博士 (歯学)	あべ べ つぐ み 阿部 亜 美	Aggregatibacter actinomycetemcomitans によるインフラマソームの活性化 主査:教授 八若保孝
	いとう かつ とう 伊藤 達 郎	Effects on bone regeneration of thin apatite coating on titanium by chemical coating process using calcium phosphate slurry (スラリー埋没加熱処理にアパタイト薄膜形成がチタン表面の骨形成に及ぼす影響) 主査:教授 横山敦郎
	いの うえ さ おり 井上 沙 織	Multiwalled carbon nanotubes coating accelerates osteoconductivity of anodized titanium (多層カーボンナノチューブによる表面修飾は陽極酸化チタンの骨伝導性を促進する) 主査:教授 横山敦郎
	うえ だ な な 上田 奈 々	The minimization of diameter and length of dental implants according to bone quality using finite element analysis and optimized calculation. (有限要素解析と最適化計算による骨質に応じたインプラントの直径と長さの最小化) 主査:教授 横山敦郎
	かく たに ひとみ 角 谷 瞳	幹細胞マーカー陽性腫瘍血管内皮細胞の特性解析 主査:教授 飯田順一郎
	かとう つよし し 加藤 剛 士	成長期におけるソフトフード摂取がラット顎関節に与える影響 主査:教授 土門卓文
	かみ 見 しょう 見 翔	The effect of bite force in occlusal adjustment of dental implants on the distribution of occlusal pressure. - Comparison among three bite forces in occlusal adjustment - (インプラントの咬合調整時の咬合力が咬合圧分布に及ぼす影響 - 3種類の咬合力の比較 -) 主査:教授 横山敦郎
	はじょう め り 羽生 芽 里	三次元立体培養ヒト歯根膜線維芽細胞を用いた最適矯正力に関する検討 主査:教授 飯田順一郎
	はや かわ たか こ 早川 貴 子	Optimal compressive force accelerates osteoclastogenesis in RAW264.7 cells (至適圧縮力はRAW264.7細胞において破骨細胞形成を促進する) 主査:教授 飯田順一郎
	はん ぼ 悠 すけ 半場 悠 介	Preparation and Properties of Fluorescent Orthodontic Adhesives Containing Y ₂ O ₃ : Eu ³⁺ Particles (Y ₂ O ₃ : Eu ³⁺ 微粒子含有矯正歯科用蛍光ボンディング剤の製造と特性) 主査:教授 飯田順一郎
やま うち あき こ 山内 貴 紀子	The effects of CNHs absorbed simvastatin on bone regeneration (シンバスタチン担持カーボンナノホーンが骨形成に与える影響) 主査:教授 横山敦郎	

博士 (歯学)	やま だ じゅん いち 山 田 淳 一	骨芽細胞の増殖、分化と石灰化におけるNa, K-ATPaseの役割 主査：教授 八若保孝
	おき の けい じゅういちろう 沖 野 雄一郎	Na, K-ATPase活性のフッ素による阻害 主査：教授 鈴木邦明
	かな やま い ず み 金 山 和 泉	A comparative study of the bioactivities of collagen scaffold coated with graphene oxide and reduced graphene oxide. (酸化グラフェンと還元型酸化グラフェンコーティングによるコラーゲンスキャフォールドの生体活性) 主査：教授 川浪雅光
	き むら しん こ 木 村 慎 吾	クエン酸応用が3種の水酸化カルシウム製剤の除去と歯根象牙質の接着性に及ぼす影響 主査：教授 川浪雅光
	すげ た しん こ 菅 田 真 吾	シナプス前コレシストキニン受容体を介した最後野ニューロンの興奮性調節 主査：教授 山崎 裕
	たる み なお よし 垂 水 良 悦	Application of Fourier transform for analysis of surface topographic properties of dental zirconia (歯科用ジルコニアの表面性状解析へのフーリエ変換の応用) 主査：教授 横山敦郎
	なか ぎわ せい たらう 中 澤 誠多朗	優性阻害性p53変異体R248Qは口腔扁平上皮癌の運動浸潤能を増大させる 主査：教授 山崎 裕
	にし お たか ひで 西 尾 啓 英	根管内からの機械的および化学的拡大が4-META/MMA-TBBレジンによる垂直歯根破折間隙の封鎖性に及ぼす効果 主査：教授 川浪雅光
	は せ がわ とも か 長谷川 智 香	Morphological assessment of bone mineralization in tibial metaphyses of ascorbic acid-deficient ODS rats. (アスコルビン酸合成能欠如 (ODS) ラットの骨組織石灰化における組織学的解析) 主査：教授 網塚憲生
	はら ひろ し 原 博 志	In vivoにおける口腔レンサ球菌の抗腫瘍活性 主査：教授 山崎 裕
	ふけ だ えり こ 更 田 恵理子	ヒトアルカリ性ホスファターゼの基質選択性と阻害剤に対する感受性の相違 主査：教授 山崎 裕
	よし だ たかし 吉 田 崇	Bone augmentation by highly porous β -TCP scaffold coated with PLGA and FGF2 (高気孔性PLGA / β -TCPスキャフォールドとFGF2による骨増生効果) 主査：教授 川浪雅光
	リュウ チュウ セイ 柳 柳 晟	Immunolocalization of osteocyte-derived molecules during bone fracture healing of mouse ribs (マウス肋骨骨折の治癒過程における骨細胞産生因子の組織学的検索) 主査：教授 網塚憲生
	おお もり あき な 大 森 晶 奈	Rosmarinic acid and arbutin suppress osteoclast differentiation by inhibiting superoxide and NFATc1 downregulation in RAW264.7 cells (ロスマリン酸とアルブチンはスーパーオキシド除去作用とNFATc1の発現抑制によってRAW264.7細胞からの破骨細胞分化を抑制する) 主査：教授 鈴木邦明
	かね こ ま り 金 子 真 梨	口腔がん術後の咽頭腔の形態変化と嚥下機能 主査：教授 鄭 漢忠
	かわ もと たい すけ 川 本 泰 輔	Tumor-Derived Microvesicles Induce Proangiogenic Phenotype in Endothelial Cells via Endocytosis (がん細胞由来微小胞がエンドサイトーシスを介して血管内皮細胞に血管新性能をもたらす) 主査：教授 進藤正信
	くれ ばやし な おこ 紅 林 奈央子	Regulation of neuropeptide Y Y1 receptor expression by bone morphogenetic protein 2 in C2C12 myoblasts (C2C12筋芽細胞におけるNeuropeptide Y Y1受容体のBMP2による発現制御) 主査：教授 藤澤俊明
	たけ うち やす と 竹 内 康 人	Detailed assessment of gene activation levels by multiple hypoxia responsive elements under various hypoxic conditions (さまざまな低酸素条件における低酸素応答領域による遺伝子発現の評価) 主査：教授 北川善政
	た なか ゆう すけ 田 中 祐 介	Histochemical examination on bone tissue of ovariectomized (OVX) -leptin receptor mutated db/db mice (卵巣摘出を施したレプチン受容体変異肥満 (db/db) マウスの大腿骨における組織学的解析) 主査：教授 鄭 漢忠
	ひら かわ すぐる 平 川 直	口腔癌細胞のシスプラチン耐性化に伴うNa, K-ATPase及びouabain感受性の変化 主査：教授 鄭 漢忠

博士（歯学）	みやもと たけし 志 宮 本 健 志	ラット脳各種ATPase活性に対する静脈麻酔薬の作用 主査：教授 藤澤俊明
	さいとう みく 来 斎 藤 未 来	Temporal association between sleep apnea-hypopnea and sleep bruxism events (睡眠時無呼吸イベントと睡眠時ブラキシズムの時間的關係) 主査：教授 船橋 誠
博士（獣医学）	オ 呉 ナム ギル 信 奥 南 信	A study on effects of non-steroidal anti-inflammatory drugs (NSAIDs) on differentiation capacity of canine osteogenic cells (イヌ骨芽細胞の分化に対する非ステロイド性抗炎症薬の影響に関する研究) 主査：教授 奥村正裕
	おくやま みなみ 奥 山 みなみ	Male reproductive characteristics and genetic polymorphism of feral raccoons (<i>Procyon lotor</i>) in Hokkaido (北海道に生息する外来種アライグマ (<i>Procyon lotor</i>) における雄の繁殖特性および遺伝多型に関する研究) 主査：教授 坪田敏男
	くりばやし きや 弥 栗 林 沙 弥	Studies on the pathogenesis of avian influenza in chickens (ニワトリのインフルエンザ病態発現機序に関する研究) 主査：特任教授 喜田 宏
	こやま けい すけ 祐 古 山 敬 祐	Studies on the aging-related changes in bovine oocytes during <i>in vitro</i> maturation (体外成熟培養における牛卵子の老化に関する研究) 主査：教授 滝口満喜
	サワン SAWANG ケシユダンサコンワット KESDANGSAKONWUT	Treatment of rabies by intrathecal immunization and pathogenesis of myocardial necrosis in rabid rabbits (鞘内免疫による狂犬病の治療と狂犬病発症ウサギに見られた心筋症の病理発生) 主査：特任教授 梅村孝司
	しちのへ しんたろう 七 戸 新太郎	Studies on the interspecies transmission of influenza virus and vaccine preparation for the emergence of H5N1 highly pathogenic avian influenza virus infection (インフルエンザウイルスの宿主間伝播とH5N1高病原性鳥インフルエンザウイルスワクチンの試製に関する研究) 主査：特任教授 喜田 宏
	たむら 悠 田 村 悠	Study on the pro-inflammatory cytokine expression profile in dogs with inflammatory bowel disease (犬の炎症性腸疾患における炎症性サイトカイン発現解析に関する研究) 主査：教授 滝口満喜
	ち ちはら まさ たか 尚 千 原 正 尚	Elucidation of the murine blood-testis barrier function - Role as a "gatekeeper" regulating persistent spermatogenesis - (マウス血液精巣関門の新たな機能の解明 - 精子発生の調節を担うゲートキーパーとしての役割 -) 主査：教授 昆 泰寛
	ながね まさ き 幹 永 根 大 幹	固形腫瘍の再酸化化における一酸化窒素の役割とその生成機構 主査：教授 稲波 修
	にしだ なお や 哉 西 田 直 哉	がん細胞におけるミトコンドリア由来活性酸素を介した3-Methyl pyruvateによる放射線感受性の増強 主査：教授 稲波 修
	の 野 より おきむ 修 依 修	Studies on steric shielding of cell surface proteins by filovirus envelope glycoproteins (フィロウイルスエンベロープ糖蛋白質による細胞表面分子の立体的遮蔽現象に関する研究) 主査：教授 高田礼人
	ホワン ウェイ ビン 平 黄 偉 平	Studies on <i>in vitro</i> maturation/fertilization/development and mitochondrial activity of <i>in vitro</i> -grown bovine oocytes derived from early antral follicles (初期胞状卵細胞由来体外発育牛卵子の体外成熟/受精/発生およびミトコンドリア活性に関する研究) 主査：教授 滝口満喜
むらまつ み え こ 子 村 松 美 笑 子	Heterosubtypic antiviral activity of IgA antibodies against influenza A virus hemagglutinins (A型インフルエンザウイルスヘマグルチニン特異IgA抗体の亜型間交差抗ウイルス活性) 主査：教授 高田礼人	
やまぐち ひろ き 樹 山 口 宏 樹	Identification of novel virus from vervet monkey in Zambia and analysis of its viral assembly (ザンビアのバーベットモンキーからの新規ウイルスの同定と粒子形成機構の解析) 主査：教授 澤 洋文	
わたなべ けん すけ 右 渡 邊 研 右	化学物質に対する生体防衛機構としての鳥類の異物代謝酵素シトクロムP450 主査：教授 石塚真由美	
博士（情報科学）	つじ じゅん べい 平 辻 順 平	Indoor Positioning Methods Based on Pre-Observation of RSSI for Office Environment (オフィス環境に対応した電波強度の事前計測に基づく位置測位) 主査：教授 鈴木恵二

博士 (情報科学)	よねもり 米森 ちから	多様性を考慮したビッグデータの分類手法の研究 主査：教授 水田正弘
	いわした 岩下 ひろあき 洋 哲	Practical Techniques and Applications of Binary Decision Diagrams in Property Verification Problems (プロパティ検証問題における二分決定グラフの実用的な技術と応用) 主査：教授 湊 真一
	よしだ 吉田 さとし 論 史	Efficient Variable-to-Fixed Length Coding Algorithms for Text Compression (テキスト圧縮に対する効率よい可変長-固定長符号化アルゴリズム) 主査：准教授 喜田拓也
博士 (工学)	こはし 小橋 よし典 義 典	Growth Dynamics and Applications of Selectively-Grown InGaAs Nanowires (有機金属気相選択成長法によるInGaAsナノワイヤの成長ダイナミクスと素子応用に関する研究) 主査：教授 本久順一
博士 (情報科学)	しほかわ 洪川 あつし 敦 史	光複素振幅制御技術を用いた超高密度ホログラフィックメモリに関する研究 主査：准教授 岡本 淳
博士 (工学)	たなか 田中 とも 朋	ナノカーボンネットワークの物理とその応用に関する研究 主査：教授 佐野栄一
博士 (情報科学)	なかじま 中島 ひであき 秀 朗	Single photon and entangled photon-pair generation from semiconductor quantum dots (半導体量子ドットを用いた単一光子・量子もつれ光子対生成に関する研究) 主査：准教授 熊野英和
博士 (工学)	ほり 堀 ゆうじん 祐 臣	Characterization and control of insulated-gate interfaces on AlGaIn/GaN heterostructures (AlGaIn/GaNヘテロ構造に形成した絶縁ゲート界面の評価と制御) 主査：教授 橋詰 保
博士 (情報科学)	まつおか 松岡 ふみあき 史 晃	二準位系とスクイーズドコヒーレント状態を用いた量子情報処理に関する研究 主査：教授 富田章久
博士 (工学)	よしむら 吉村 まさとし 正 利	Growth of III-V Semiconductor Nanowires and Their Photovoltaic Application (III-V族化合物半導体ナノワイヤの成長と太陽電池応用) 主査：教授 福井孝志
	れん 任 ファン 芳	Study on plasmonic-photonic hybrid systems for efficient excitation of nonlinear phenomena (非線形現象の高効率励起に向けたプラズモニック-フォトリックハイブリッドシステムの研究) 主査：教授 笹木敬司
博士 (情報科学)	せき 石 キョウ 旭	Plasmon-Enhanced Photocurrent Generation and Water Oxidation with Gold Nanoislands Loaded Titanium Dioxide Photoelectrodes (金ナノアイランド/酸化チタン電極によるプラズモン増強光電流の発生と水の酸化反応に関する研究) 主査：教授 三澤弘明
	むらかみ 村 上 ちさと 知 里	An Evaluation of a Displacement Estimation Method by an Iteration Method for a Four Degrees of Freedom Capacitive Force Sensor (静電型4自由度力センサのための反復法による変位推定の評価) 主査：特任准教授 高橋 誠
博士 (工学)	いしざか 石坂 ゆうへい 雄 平	A Study on High-Density Photonic Integrated Circuits for Optical Packet Routing (光パケットルーティングのための高密度光集積回路に関する研究) 主査：教授 齊藤晋聖
博士 (情報科学)	いちかわ 市川 つばさ 翼	計算機合成プログラムにおける光線追跡法を用いたレンダリング手法に関する研究 主査：准教授 坂本雄児
博士 (工学)	かわむら 川村 てるお 輝 雄	シングルキャリア伝送方式を用いる移動無線通信における高効率信号伝送技術の研究 主査：准教授 大鐘武雄
博士 (情報科学)	さとう 佐藤 しゅうへい 周 平	CGにおける流体映像の効率的な生成に関する研究 主査：准教授 土橋宜典
博士 (工学)	ふじわら 藤原 まさみち 正 満	多分岐/長延化光アクセスシステムに関する研究 主査：客員教授 吉本直人
博士 (情報科学)	いがり 猪狩 しんじ 真 二	加工データの継続的蓄積とデータ解析による作業設計 主査：准教授 田中文基
	いまむら 今村 ゆめこ 由 芽子	筋力補助効果と体幹安定化効果を持つ軽労化装具スマートスーツ・ライト 主査：准教授 田中孝之
	かわしま 川島 かずあき 千 明	大規模環境レーザー計測点群からのプラント配管系統の高度自動認識に関する研究 主査：教授 金井 理
	くさか 日下 たかし 下 聖	エネルギー制御によるパワーアシストとスキルアシストの同時実現とセミアクティブアシスト機構への応用 主査：准教授 田中孝之

博士 (工学)	コ 顧 メイ 明 ライ 磊	内部永久磁石同期モータの位置センサレス駆動システムの高性能化に関する研究 主査：教授 小笠原悟司
博士 (情報科学)	しよ 茨 かわ 川 みん 文 や 哉	ヒトの知覚・運動特性を考慮した任意点操作可能なパワーアシストシステム 主査：准教授 田中孝之
博士 (工学)	シヤ 謝 ウ 雨 ライ 来	Plausible 3D Human Hand Modeling for Virtual Ergonomic Assessments of Handheld Product: Construction, Contact simulation and Variational Modeling (携帯型製品の仮想エルゴノミック評価のための手の3次元モデリングに関する研究：その構築、接触シミュレーション、寸法バリエーションのモデル化) 主査：教授 金井 理
博士 (情報科学)	チン 陳 トク 徳 ザン 山	A Study on Robust SEM Photometric Stereo Using Two BSE Detectors (2つのBSE検出器を用いたロバストSEM照度差ステレオに関する研究) 主査：教授 金子俊一
	はし 橋 もと 本 しゅうたろう 秀太郎	知識情報処理を用いた衛星データの自動判読システムに関する研究 主査：客員教授 田殿武雄
	はし 星 の 野 けん 健 た 太	A Study on Noise-Based Global Asymptotic Stabilization and Optimization Method (ノイズを用いた大域的漸近安定化・最適化に関する研究) 主査：教授 山下 裕
博士 (工学)	ま 真 なべ 鍋 ゆう 勇 すけ 介	次世代の電力システムに対応した設備計画に関する研究 主査：教授 北 裕幸
博士 (情報科学)	みや 宮 もと 本 とも 知 ゆき 幸	光選別機の開発のための数値シミュレーション技術と最適化手法に関する研究 主査：准教授 野口 聡
博士 (水産科学)	いな 稲 がき 垣 ゆう 祐 た 太	噴火湾における底生魚類の生息環境に関する研究 主査：教授 桜井泰憲
	おお 大 にし 西 ゆ 由 か 花	アマモ場に生息する細菌による麻痺性貝毒渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamarense</i> の防除に関する生理生態学的研究 主査：教授 久万健志
	おお 大 はし 橋 しん 慎 べい 平	Comparative morphology and phylogenetic systematics of the family Ophidiidae and related taxa (Teleostei: Ophidiiformes) (アシロ科およびその近縁群の比較形態学および系統分類学に関する研究) 主査：教授 今井一郎
	こ 小 いずみ 泉 さと 聡 み 美	北海道漁村における漁協女性部の活動の役割 - 時代的社会背景との関連と活動者の意識構造に基づいた分析 - 主査：教授 木村暢夫
	たか 高 はし 橋 りゅう 竜 ぞう 三	計量スキャニングソナーを用いた魚群の行動と音響散乱特性に関する研究 主査：教授 平石智徳
	なが 永 の 野 ゆう 優 き 季	Phylogenetic systematics of the family Hoplichthyidae (Teleostei: Scorpaeniformes) (ハリゴチ科魚類の系統分類学的研究) 主査：教授 五嶋聖治
	なつ 夏 いけ 池 まさ 真 ふみ 史	北太平洋温帯域から寒帯域における麻痺性貝毒原因渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamarense</i> の生理生態学的研究 主査：教授 齊藤誠一
	ふじ 藤 い 井 よう 陽 すけ 介	マコンブ養殖漁業経営体の経済性と生産性を両立させるための生産計画 主査：教授 木村暢夫
	ウ 呉 メイ 美 チン 琴	Molecular Biological and Immunobiochemical Studies of Multiple Vitellogenins in Dojo Loach (<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>): Integration of Basic Information to be Practical Biomarkers for Evaluating Aquatic Estrogenic Activities (ドジョウの多型ビテロジェニンに関する分子生物学的及び免疫生化学的研究：水圏エストロジェン活性評価の実用的バイオマーカーとしての基礎的情報の集積) 主査：教授 足立伸次
	きた 北 むら 村 し 志 の 乃	Molecular phylogenetic studies on the Odontoceti, with special reference to the family Ziphiidae and Delphinidae (ハクジラ亜目鯨類の分子系統学的研究 - 特にアカボウクジラ科とマイルカ科について) 主査：教授 水田浩之
	さ 佐 とう 藤 たく 琢 や 哉	エゾアワビ・デンブン分解酵素の生化学的研究 - α -アミラーゼと α -グルコシダーゼによる海藻からのグルコース生成 - 主査：教授 澤辺智雄
	ドン 董 ジェ 捷	Studies on genetic and reproductive characteristics of natural polyploid silver crucian carp <i>Carassius auratus langsdorfi</i> (自然倍数体ギンブナの遺伝および生殖特性に関する研究) 主査：教授 水田浩之

博士（水産科学）	<p>ホウ 吉 倫 侯 吉 倫</p>	<p>Induced androgenetic diploids without egg irradiation in loach and zebrafish (卵の照射によらないドジョウとゼブラフィッシュの雄性発生二倍体誘起) 主査：教授 水田浩之</p>
	<p>み 三 上 大 輔 三 上 大 輔</p>	<p>フジマツモ科海藻由来プロモフェノールのグルコース 6-リン酸デヒドロゲナーゼ阻害特性に関する研究 主査：特任教授 板橋 豊</p>
	<p>み 水 田 紘 子 水 田 紘 子</p>	<p>Studies on Mechanism of Endocytosis of Vitellogenin <i>via</i> its Receptor on the Oocyte of Cutthroat Trout, <i>Oncorhynchus clarki</i> (カットスロートトラウト卵母細胞における受容体を介したビテロジェニンエンドサイトーシス機構に関する研究) 主査：教授 足立伸次</p>
博士（環境科学）	<p>アダヴァン Adavan キリヤンキル ビピン Kiliyankil Vipin</p>	<p>Encapsulation of adsorptive particles into CNT-reinforced alginate gels for the development of high-performance adsorbent for cesium and strontium eliminations (吸着性粒子をカーボンナノチューブ補強アルギン酸ゲルに内包するアプローチを用いたセシウムとストロンチウムを除去するための高性能吸着材の開発) 主査：教授 古月文志</p>
	<p>オウ 王 延 青 王 延 青</p>	<p>Development of high-performance photocatalysts by using graphene and AgCl and/or AgBr nanoparticles as the constitutive elements for the decomposition of chemical pollutants (グラフェンと塩化銀または臭化銀ナノ粒子を素材として用いた環境浄化用高性能光触媒の開発) 主査：教授 古月文志</p>
	<p>フー 胡 白 楊 胡 白 楊</p>	<p>Development of high-performance spongiform adsorbents with caged Prussian blue as the absorbing elements for radioactive cesium decontamination (プルシアンブルーを内包した放射性セシウムを除去するための高性能スポンジ型吸着材の開発) 主査：教授 古月文志</p>
	<p>ル ナ マ ス マ Runa Masuma</p>	<p>Assessment of ultraviolet toxicity depending on DNA-damage using cyclobutane pyrimidine dimer formation in ultraviolet irradiated cells (UV照射細胞におけるシクロプタンピリミジンダイマーを用いたDNA損傷による紫外線毒性の評価) 主査：教授 田中俊逸</p>
	<p>レフィ REFI イキティアリ IKHTIARI</p>	<p>Studies on phytotoxicities of carbon nanomaterials in seedling stage (植物の実生段階における炭素ナノ材料の毒性評価に関する研究) 主査：教授 古月文志</p>
	<p>た 中 あ け み 田 中 朱 美</p>	<p>北海道におけるイネの生産性および冷害評価に関する研究 主査：教授 山中康裕</p>
	<p>エヴァンジェリン EVANGELINE トレンティノ TOLENTINO マグダオン MAGDAONG</p>	<p>Long-term trends of coral cover in the Philippines: Trajectory, spatiotemporal patterns, and the efficacy of marine protected areas (フィリピンのサンゴ被度の長期トレンドに関する研究) 主査：准教授 藤井賢彦</p>
	<p>クンワル KUNWAR バガワティ BHAGAWATI</p>	<p>Seasonal distributions of low molecular weight dicarboxylic acids, ketoacids and α-dicarbonyls in ambient aerosols collected at Cape Hedo, Okinawa, an outflow region of Asian dusts (沖縄辺戸岬で採取したエアロゾル中の低分子ジカルボン酸と関連有機化合物の組成分布の季節変化) 主査：教授 河村公隆</p>
	<p>すぎ 杉 立 卓 治 杉 立 卓 治</p>	<p>Studies on the tropospheric and stratospheric water vapor measurements for climate monitoring (気候監視のための対流圏・成層圏水蒸気測定に関する研究) 主査：准教授 藤原正智</p>
	<p>の 野 坂 裕 一 野 坂 裕 一</p>	<p>Water-column light utilization efficiency of phytoplankton and transparent exopolymer particles in the western subarctic Pacific (西部北太平洋亜寒帯域における植物プランクトンによる水柱の光合成光利用効率と透明細胞外重合体粒子に関する研究) 主査：准教授 鈴木光次</p>
	<p>ふく 福 田 武 博 福 田 武 博</p>	<p>Variations in the terminus position, ice velocity and surface elevation of the Langhovde Glacier, East Antarctica (東南極ラングホブデ氷河の末端位置・流動速度・表面標高の変動) 主査：教授 Ralf Greve</p>
<p>わた 渡 邊 友 浩 渡 邊 友 浩</p>	<p>Genomics and proteomics of sulfur-oxidizing bacteria predominant in freshwater lake environments (淡水湖沼環境で優占する硫黄酸化細菌のゲノミクスおよびプロテオミクス) 主査：教授 福井 学</p>	

博士（環境科学）	お 小 川 浩 太 おがわ こう た	Histological, cytological and molecular biological analyses of the polyphenic development in the pea aphid <i>Acyrtosiphon pisum</i> (エンドウヒゲナガアブラムシの可塑的な発生に関する組織形態学的・細胞生物学的ならびに分子生物学的研究) 主査：准教授 三浦 徹
	ア マ ッ ド AHMAD イ ス カ ン ダ ー ル ビ ン ISKANDAR BIN ハ ジ モ ハ ッ ド タ ハ HAJI MOHD TAHA	Studies on the practical production of docosaehxaenoic acid using thraustochytrid microorganisms (スラウストキトリッド類微生物を用いたドコサヘキサエン酸の実用的生産に関する研究) 主査：特任准教授 奥山英登志
	チ ャ ニ タ ー CHANITA ブ ー ン マ ッ ク BOONMAK	Gene cloning and functional analysis of triple alkane monooxygenases from <i>Geobacillus thermoleovorans</i> B23 (<i>Geobacillus thermoleovorans</i> B23の三連型アルカン酸素添加酵素に関する遺伝子クローニングと機能解析) 主査：教授 森川正章
	チ イ カ デ ウ イ TIKA DEWI ア テ イ カ ATIKAH	Differentiation in architecture and demographic properties across forest types and species in tropical lowland Kalimantan (熱帯低地カリマンタンにおける森林型間および樹種間の樹冠構造と個体群動態特性の分化) 主査：教授 甲山隆司
	か 川 内 陽 平 かかわうち よう へい	餌生物転換周辺時期におけるスケトウダラ太平洋系群稚魚の分布と生残に影響を与える環境要因に関する研究 主査：教授 宮下和士
	リ 李 アン 昂	Cryptic diversity in the <i>Enophrys diceraus</i> species complex (Scorpaeniformes, Cottidae) and molecular evolution of copulatory behavior in two cottid genera (オニカジカ種群の隠蔽的分化とカジカ科2属の交尾行動の進化) 主査：准教授 宗原弘幸
	オウ 欧 ウエイ 巍	Studies on spatial genetic structure in an expanding sika deer (<i>Cervus nippon</i>) population of Hokkaido: the implication for management (個体数が増加し、分布が拡大しているエゾシカ個体群における遺伝的な空間構造に関する研究：個体群管理と関連させて) 主査：教授 齋藤 隆
	お お 太 田 た み ひ さ 久 おお た たみ ひさ 久	Application of stoichiometric approaches for identification of relationships between resources and benthic invertebrates in stream ecosystems (河川生態系における資源-底生無脊椎動物関係をひもとく生態系化学量論的アプローチ) 主査：教授 日浦 勉
	さ か い た け し 武 さか い たけし 武	Effects of topography on the community dynamics in a warm-temperate mixed forest (暖温带針広混交林の群集動態に影響する地形要因) 主査：教授 日浦 勉
	み はら よし ひろ 広 み はら よし ひろ 広	Development of collectable adsorbent on the surface of water after adsorption of pollutant (汚染物質の吸着後水面で回収可能な新規吸着材料の開発) 主査：教授 田中俊逸
	お か 岡 よし か ず 和 おか 岡 よし か ず 和	Study of novel off-on responsive fluorescent probe using supramolecular complex formation with crown ether and cyclodextrin (クラウンエーテルおよびシクロデキストリンを用いた超分子複合体形成に基づく新奇Off-On型蛍光プローブに関する研究) 主査：特任教授 中村 博
	か め い 優 太 朗 かめ い 優 太 朗	特異な非球状骨格を有するサブナノサイズ金クラスター類の合成と特性評価 主査：教授 小西克明
	ヤ ン 巖 イ ン ナ ン 男 ヤン 巖 イ ン ナ ン 男	大振幅分子運動を示す超分子カチオンを導入した [Ni(dmit) ₂] 塩の構造と誘電性 主査：教授 中村貴義
	ウ エ イ 魏 ズ ー ス ン 順 ウエイ 魏 ズー スン 順	Studies on influence of particle morphology on photocatalytic activity of titania photocatalysts: Preparation, characterization and photocatalytic activity of octahedral anatase titania particles (酸化チタン(IV)光触媒の活性におよぼす粒子形状の影響-八面体形状アナタース酸化チタン(IV)粒子の調製、構造と光触媒活性の評価に関する研究) 主査：教授 大谷文章
ゴ 葛 アイ ミ ン 民 ゴ 葛 アイ ミ ン 民	Molecular structures of soft matter interfaces studied by sum frequency generation (SFG) vibrational spectroscopy (和周波発生 (SFG) 振動分光法によるソフトマター界面の分子構造に関する研究) 主査：准教授 叶 深	
博 士 (理 学)	い 伊 藤 つ ば さ 翼 い 伊 藤 つ ば さ 翼	Modulus of continuity and Martin boundary of a cylinder and a cone for <i>p</i> -harmonic functions (<i>p</i> -調和関数に関する連続率と筒領域、錐領域のMartin境界) 主査：教授 相川弘明

博士（理学）	うめ たい こう へい 梅 田 耕 平	The edge of the wedge theorem for the sheaf of holomorphic functions of exponential type and Laplace hyperfunctions (指数型正則関数の層に対する楔の刃の定理とラプラス超関数) 主査：准教授 本多尚文
	こ とう よし あき 後 藤 良 彰	Geometric study of Lauricella's hypergeometric function F_c (Lauricellaの超幾何関数 F_c に関する幾何学的研究) 主査：教授 松本圭司
	す やま だい すけ 陶 山 大 輔	Basis construction for the Shi and Catalan arrangements (Shi配置とCatalan配置における基底の構成) 主査：教授 寺尾宏明
	ダグバ Dagva ダヤンソロモン Dayantsolmon	Mathematical Studies on Dirac Operators with a Variable Mass with Application to the Chiral Quark Soliton Model (変質量をもつディラック作用素の数学的研究とカイラルクォークソリトンモデルへの応用) 主査：教授 新井朝雄
	てら にし のり あき 寺 田 功 哲	Studies on the Generalized Spin-Boson Models (一般化されたスピンのボソンモデルに関する研究) 主査：教授 新井朝雄
	の ぐち あきら 野 口 朗	Automorphisms of a non-type I C^* -algebra (I型でない C^* 環の自己同型) 主査：准教授 戸松玲治
	ふ だ とおる 布 田 徹	Mathematical Analysis on Continuous Measurements in Quantum Mechanics (量子連続測定の数値的研究) 主査：教授 新井朝雄
	やま ぐち たか ゆき 山 口 崇 幸	Numerical investigation of Newhouse sinks of Hénon map (エノン写像のニューハウス沈点の数値的研究) 主査：准教授 松本健司
	く どう ま み 工 藤 真 未	Synthetic Studies on Sanadaol based on New [5+2] Cycloaddition Reaction (新規[5+2]型付加環化反応を基盤とするサナダオール合成研究) 主査：教授 谷野主持
	ツァン 張 ロン ロン	Photoinduced Phase Transitions in Polyacene and Its Heterocyclic Analogs (ポリアセン及びその複素環式類似体における光誘起相転移) 主査：教授 山本昌司
	ほし な み 星 名 実	Heat Pump Model Utilizing Dufour Effect (デュフル効果を利用したヒートポンプモデル) 主査：教授 根本幸児
	あさ か けい すけ 浅 賀 圭 祐	On the constraints in off-shell formulations of $D=N=2$ and $D=N=4$ super Yang-Mills theories with a gauged central charge (ゲージ化された中心電荷を含みオフシェルで成り立つ2次元 $N=2$ 及び4次元 $N=4$ 超対称ヤン・ミルズ理論における拘束条件式に関する研究) 主査：准教授 中山隆一
	く どう たけ し 工 藤 剛 史	A study of lightning magnitudes and thunderstorm activity based on the observation of VLF sferics (VLF帯空電観測に基づいた落雷規模と雷雨活動に関する研究) 主査：教授 高橋幸弘
	さかい しょうたろう 堺 正太郎	Studies on dust-plasma interaction in Saturn's inner magnetosphere and its magnetosphere-ionosphere coupling (土星内部磁気圏におけるダスト-プラズマ相互作用及び磁気圏-電離圏結合に関する研究) 主査：教授 渡部重十
	きの した よう へい 木 下 陽 平	Geodetic and meteorological studies of the water vapor delay signal in InSAR with the use of numerical weather model (数値気象モデルを用いたInSARにおける水蒸気遅延シグナルの測地的・気象学的研究) 主査：教授 古屋正人
もたい ざと こ 甕 聡 子	Compositional information on the calcification medium in reef-building corals derived from identification of mineral phases (造礁性サンゴ骨格を形成する鉱物相が示す石灰化母液の組成) 主査：教授 永井隆哉	
モハマドヌーア Mokhamad Nur ジャヒヤディ Cahyadi	Near-Field Coseismic Ionospheric Disturbances of Earthquakes In and Around Indonesia (インドネシアおよびその周辺で発生した地震に伴う近傍場地震時電離圏擾乱) 主査：教授 日置幸介	
博士（農学）	アルシャナノル Arshana Nor ノールアミン NOORUL AMIN	Analysis of two host genes required for induction of root-knot nematode feeding sites (ネコブセンチュウが栄養摂取部位の誘導に要する二つの宿主遺伝子の解析) 主査：准教授 パートレム デレック

博士（農学）	おお ぐし しん こ 大 串 伸 吾	北海道におけるサクランボ資源の利用と保全に関する多角的研究 - 複合的資源利用の構造と河川環境修復による資源保全の関係 - 主査：准教授 宮澤晴彦
	さか ぐち まさ み 坂 口 雅 己	トマトにおける窒素栄養についての診断法と生理に基づいた養液土耕栽培技術 主査：教授 大崎 満
	さ とう ゆう き 佐 藤 佑 樹	イネいもち病菌の非病原性タンパク質AVR-Piaの機能に関する研究 主査：准教授 曾根輝雄
	ふく だ とも ひこ 福 田 朋 彦	Metabolic profiling for characterization of crop quality, and its application for evaluation of sensory traits (代謝物プロファイリングによる農産物の官能品質評価技術の開発と応用) 主査：客員准教授 岡 紀邦
	さ さ き けい すけ 佐々木 恵 亮	哺乳動物自然免疫因子における抗ウイルス能の遺伝的制御および初期胚発生に果たす役割の解明 主査：准教授 川原 学
	すず き たか こ 鈴 木 孝 子	アズキ落葉病抵抗性遺伝子と連鎖したDNAマーカーの開発とその有効性に関する研究 主査：教授 近藤則夫
	た だ しん こ 多 田 慎 吾	シミュレーションモデルによる放牧牛の食草移動行動と草地の空間的不均一性動態の予測 主査：教授 近藤誠司
	で ぐち てつ ひさ 出 口 哲 久	Effect of varietal difference in root system on soil water absorption, root hydraulic conductance and drought tolerance in potato crop (バレイショ根系の品種間差異が土壌水分吸収、根通導コンダクタンスおよび耐乾性に及ぼす影響) 主査：教授 岩間和人
	ふじ わら あや か 藤 原 綾 香	<i>Brassica rapa</i> のTurnip mosaic virusに対する全身えそ誘導遺伝子の解析及びアスコルビン酸を介したウイルス抵抗性の誘導機作の解明 主査：教授 増田 税
	き むら た う 木 村 太 郎	ヒドロキシアミンの糖取り込み促進作用とその作用機構解析 主査：教授 川端 潤
	なか むら りょう すけ 中 村 亮 介	細胞培養系におけるパールカンの多様性 主査：准教授 福永重治
	やま もと し おり 山 本 詩 織	肉牛糞便から分離した薬剤耐性大腸菌の遺伝的多様性とその特性解析 主査：教授 浅野行蔵
	チェ ヂョン ミン 崔 鍾 民	Development of Guidance System Using Local Sensors for Agricultural Vehicles (ローカルセンサを用いた農用車両用ガイダンスシステムの開発) 主査：教授 野口 伸
	チョウ サワ 張 澤	Development of a Robot Combine Harvester Based on GNSS (GNSSを用いたロボットコンバインの開発に関する研究) 主査：教授 野口 伸
	フエンキー Fengky フロランテ アッジ Florante Adji	Effect of land use change and drainage on peat decomposition and greenhouse gas emission in a tropical peatland (熱帯泥炭地における泥炭分解および温室効果ガス放出に及ぼす土地利用変化と排水の影響) 主査：教授 波多野隆介
や き のり ひろ 八 木 議 大	Empirical tests for kin and group effects on the evolution of cooperation in a primitively eusocial bee, <i>Lasiglossum baleicum</i> (シオカワコハナバチの協同の進化における血縁の効果と群の効果の実証) 主査：准教授 長谷川英祐	
博士（生命科学）	アハメッド サエカ AHMED, Saika	Study on the Brittle-Ductile Transition of Double Network Hydrogels (ダブルネットワークゲルの脆性-延性転移に関する研究) 主査：教授 龔 劍萍
	アブ ビン イハサン Abu Bin Ihsan	A Novel Polyampholyte Hydrogel Based on Dynamic and Reversible Sacrificial Bonds: Toughness and Self-healing (動的・可逆な犠牲結合を用いた新規両性イオン性ハイドロゲル：その高い靱性と自己修復特性) 主査：教授 龔 劍萍
	いし だ じゅん や 石 田 純 也	Synthesis and Functions of Neoglycolipids Based on the Glycoblotting Method (糖鎖捕捉反応を利用した新奇糖脂質の合成と機能) 主査：教授 西村紳一郎
	しば さき こう すけ 柴 崎 宏 介	Study on the role of Thr218 in the Light-Driven Anion Pump Halorhodopsin from <i>Natronomonas pharaonis</i> (<i>Natronomonas pharaonis</i> の持つ光駆動アニオンポンプ：ハロロドプシンの218番目のトレオニン残基の役割に関する研究) 主査：教授 出村 誠

博士 (生命科学)	ラビ कुमार RAVI KUMAR H V	Synthetic Studies on Highly Complex <i>N</i> -glycans and Glycopeptides (高度に複雑なアスパラギン結合型糖鎖と糖ペプチドの合成研究) 主査: 教授 西村紳一郎
	ターミナ Tahmina スルタナ SULTANA	A Theoretical Study on Multiscale Reaction Network Extracted from Single Molecule Time Series (一分子時系列から彫りおこされた階層的反応ネットワークに関する理論的研究) 主査: 教授 小松崎民樹
	お倉 有紀子 くら ゆきこ	Neuroethological studies of social facilitation in domestic chicks (ニワトリ雛の社会的促進に関する神経行動学的研究) 主査: 教授 松島俊也
	木本 舞 もと まい	Study on the regulatory mechanisms of territory-specific expression of the silk genes in the silkworm, <i>Bombyx mori</i> (カイコ絹糸腺における絹糸遺伝子の領域特異的発現制御機構の解析) 主査: 准教授 瀧谷重治
	しも だ よう すけ 下 田 洋 輔	クロロフィルタンパク質複合体の構築と分解に関する研究 主査: 教授 田中 歩
	たけ だ みよこ 武 田 美代子	A study on the role of phosphatidylserine in phospholipid flippase-mediated vesicle transport in yeast (酵母のリン脂質 flippase が介する細胞内小胞輸送におけるフォスファチジルセリンの役割に関する研究) 主査: 教授 田中一馬
	とみ な ゆう すけ 富 菜 雄 介	Behavioral and physiological studies on goal-directed gripping behavior in American lobster <i>Homarus americanus</i> (アメリカカウミザリガニの目標指向的なグリップング行動に関する行動生理学的研究) 主査: 教授 高畑雅一
	なか た とも ひろ 中 田 智 大	Studies on <i>cHEMGN</i> gene specifically involved in early gonadal differentiation in chicken (ニワトリ特異的に初期生殖腺分化に機能する <i>cHEMGN</i> 遺伝子の研究) 主査: 准教授 黒岩麻里
	はな まつ ひさ とし 花 松 久 寿	A study on the function of the phospholipid flippase Drs2 in the endocytic-recycling pathway (膜リン脂質輸送体Drs2のエンドサイトーシスーリサイクリング経路における機能に関する研究) 主査: 教授 田中一馬
	やま した ゆ い 山 下 由 衣	Studies on the Ribosomal Translation Arrest Coupled with mRNA Degradation in <i>CGSI</i> Gene of <i>Arabidopsis thaliana</i> (シロイヌナズナ <i>CGSI</i> 遺伝子におけるリボソームの翻訳アレストと共役したmRNA分解機構の研究) 主査: 教授 内藤 哲
	よね だ りょう ま 米 田 竜 馬	Studies on the function and regulation of testis-specific serine proteases during murine spermatogenesis (マウスの精子形成における精巣特異的セリンプロテアーゼの機能と調節に関する研究) 主査: 准教授 木村 敦
	あら かわ たか ひろ 荒 川 貴 弘	脊髄上行路形成過程とその小脳局在投射の解析 主査: 教授 鈴木利治
	う かわ まさ み 鶉 川 真 実	細胞内動態制御戦略に基づく機能性材料を用いた肝臓標的遺伝子デリバリーシステムの開発 主査: 准教授 秋田英万
	かわ むら しゅう へい 川 村 周 平	ペプチド性天然物ベラクトシンAをプロトタイプとした高活性プロテアソーム阻害剤の創製研究 主査: 教授 周東 智
ガリマ Garima シュリヴァスターヴァ SHRIVASTAVA	Identification of a Nucleoporin358 specific RNA aptamer using the Protein-SELEX method to achieve a nuclear targeting delivery system using a MEND (核への選択的薬物送達システム確立のためのprotein SELEX 法に基づくヌクレオポリン358 標的RNA アプタマーの探索) 主査: 教授 原島秀吉	
さ とう ゆう すけ 佐 藤 悠 介	新規pH応答性脂質を用いた肝臓標的型siRNAキャリアの開発と肝疾患治療への応用 主査: 教授 原島秀吉	
博士 (薬科学)	すぎ むら やす ゆき 杉 村 康 行	オキサニッケラサイクル中間体を経由する炭素-炭素結合形成反応の開発研究-環状ケトンとアルキンの分子内環化反応およびアレナミドへの二酸化炭素固定反応- 主査: 准教授 齋藤 望
	た ざわ ゆう き 田 澤 佑 基	同種造血幹細胞移植におけるエトポシド/シクロホスファミド/全身放射線前処置レジメンの最適化に関する研究 ~エトポシドのPK/PD解析による投与量の最適化および殺細胞効果を指標とした曝露順序の検討~ 主査: 教授 菅原 満

博士 (薬科学)	たまる丸みな	脳標的化核酸分子送達キャリア開発へのアプローチ - 内因性物質のリガンドへの応用研究 - 主査：准教授 秋田英万
	チェン陳 ジャン建 楊揚	Development of Novel Carboxylation Reactions Using Gaseous Carbon Dioxide: α -Amino Acid Synthesis via α -Amino Metal Species (二酸化炭素ガスを用いた新規カルボキシル化反応の開発: α -アミノ金属種を経由する α -アミノ酸の化学合成) 主査：教授 佐藤美洋
	ほそ細 たに谷 あき昭 ひと仁	オキソローダサイクル中間体を經由する新規環化反応の開発 主査：教授 佐藤美洋
	やす安 ぎき崎 ゆかり友香理	ミトコンドリア遺伝子発現を目指した遺伝子設計および <i>in vivo</i> 遺伝子導入による機能検証 主査：教授 原島秀吉
	わた渡 なべ邊 ゆう雄 だい大	ロジウム (II) アミダート錯体をルイス酸触媒として用いた含窒素ジェンとアルデヒドとの不斉ヘテロ Diels-Alder 反応に関する研究 主査：教授 橋本俊一
博士 (教育学)	マキマキ(藤原)ともこ智子	在日朝鮮人教育の歴史 - 戦後日本の外国人政策と公教育 - 主査：准教授 北村嘉恵
博士 (学術)	おおにしゆみ大西由美	日本語学習者の動機づけに関する縦断的研究 - 日本語接触機会が少ない環境の学習者を対象に - 主査：教授 小林由子
博士 (国際広報メディア)	り李 ザイ在 エイ栄	外国語ブレンディッドラーニングにおける効果的な動機づけ方略に関する研究 主査：教授 伊藤直哉
	い李 ホン鳳	「思う」と「생각하다 (sayngkakhata)」の日韓対照研究 - ヘッジとポライトネスの観点から - 主査：教授 上田雅信
	やまもとま真り理	物語の受け手によるセリフ発話 - 参与者間の共感関係の構築に関する会話分析的研究 - 主査：特任教授 佐藤俊一
博士 (保健科学)	いのうえなかお井上貴雄	児童・青年期の抑うつ症状, 躁症状, および自閉傾向に関する臨床的・疫学的研究 主査：教授 齋藤 健
	おかだかざのり岡田一範	スペクトルトラッキング心エコー法を用いた心筋機能分析に基づく左室拡張機能の研究 主査：教授 石津明洋
	こし野 ゆうた越野裕太	慢性足関節不安定性症例における下肢関節運動および神経筋制御の検討 主査：教授 遠山晴一
	さくらぼさとし櫻庭聡	文の読みにおける背側視覚経路の働きに関する研究 - Continuous Flash Suppression を用いた検討 - 主査：教授 山中正紀
	さわむらだいすけ澤村大輔	外傷性脳損傷後注意障害患者における注意の能動的制御とその神経基盤に関する研究 主査：教授 横澤宏一
	やまぎきりえ山崎理衣	肺の定位放射線治療における呼吸の影響に関する臨床研究 主査：教授 神島 保
博士 (看護学)	くどうよしこ工藤禎子	都市部の独居高齢者における危機管理としての近隣との交流 主査：教授 良村貞子
博士 (工学)	はべてつろう羽部哲朗	Three-Dimensional Topological States in the Absence of Fundamental Symmetries (対称性の破れた三次元系におけるトポロジカル相) 主査：准教授 浅野泰寛
	いしだまさし石田真士	金属焼結体内部に作製したマイクロチャンネル内壁の陽極酸化に関する研究 主査：准教授 大参達也
	ウ呉 シャオ小 超	Study on Microstructure Control of Reduced Activation F82H-ODS Ferritic Steels (低放射化F82H-ODSフェライト鋼の組織制御に関する研究) 主査：教授 鶴飼重治
	おか岡 ひろし弘	高エネルギー粒子線照射下でのオーステナイト系ステンレス鋼の損傷組織と強度の相関に関する研究 主査：教授 大貫惣明
	さいとうげんき齊藤元貴	Solution Plasma Synthesis of Nanomaterials (ナノ材料の液中プラズマ合成) 主査：教授 秋山友宏
	すぎのよしと都杉野義都	ODSフェライト鋼の高温変形機構に関する研究 主査：教授 鶴飼重治
	たかはしけいすけ高橋啓介	Theoretical Modeling of Atomic Clusters Across the Hydrogen Discipline (水素分野における原子クラスターの理論的なモデル化) 主査：教授 大貫惣明

博士（工学）	やす だ なお と 安 田 尚 人	Feasibility of Utilizing Hydrogen Storage Alloys and Ammonia as Energy Media (エネルギーメディアとしての水素吸蔵合金およびアンモニアの利用可能性) 主査：教授 秋山友宏
	レイ 類 イエン 延 ホア 華	Corrosion Protection of Copper by Conductive Polypyrrole Films Incorporated with Inhibitors (インヒビターを含有した導電性ポリピロロール膜による銅の防食) 主査：教授 上田幹人
	わた なべ けい 渡 辺 圭	貴金属中におけるZnO析出メカニズムと界面構造に関する電子顕微鏡学的研究 主査：准教授 坂口紀史
	ガオ 高 ジェン 健	A Study on Low-temperature Ignition of DME-air Mixture at Atmospheric Pressure (DME混合気の常圧下における低温着火に関する研究) 主査：准教授 中村祐二
	ふじ 藤 村 奈 奈 央	繰返し予びずみを受けたオーステナイト系ステンレス鋼の表面粗さ測定に基づく非破壊損傷評価 主査：教授 中村 孝
	シュン 熊 チユン 仔	Study on Influence of Fuel Properties on Premixed Diesel Combustion (予混合化ディーゼル燃焼の燃料性状依存性に関する研究) 主査：教授 小川英之
	わた 渡 村 とも 友 昭	Study on modulation of flow transition by microbubble injection (マイクロバブルによる流動遷移の変調に関する研究) 主査：教授 村井祐一
	サミア ヘシュマツ Samia Heshmat ハッサン アブドワハブ Hassan Abdelwahab	EFFICIENT AND ACCURATE PHASE UNWRAPPING ALGORITHMS FOR NOISY IMAGES WITHIN FRINGE PATTERNS (高雑音干渉縞に対する高効率高精度位相連結アルゴリズム) 主査：准教授 富岡 智
	つば 坪 田 よう 陽 一	TSSG法によるGd ₂ Si ₂ O ₇ 系単結晶シンチレータの開発 主査：准教授 金子純一
	イヴァン サンディ Ivan Sandi ダルマ Darma	Application of X-ray CT to the study of microstructure and diffusivity in cementitious materials (X線CTを用いたセメント硬化体の微細構造と拡散性に関する研究) 主査：教授 杉山隆文
	にい だ やす お 新井田 靖 郎	ジェット下に形成される気泡流中の気泡-乱流間相互作用及び酸素輸送機構 主査：准教授 渡部靖憲
	まつ 松 村 さとし 聡	Laboratory and in-situ studies on mechanical properties of volcanic soil embankment in cold region (寒冷地火山灰盛土の力学特性に関する室内および原位置研究) 主査：教授 石川達也
	エヴドン EVDON ルザノ シカット LUZANO SICAT	Experimental Investigation of the Deformational Behavior of the Phases of Concrete During Freezing and Thawing Cycles (凍結融解繰返し作用下のコンクリートの各相の変形挙動に関する実験的研究) 主査：教授 上田多門
	すし だ けん 須志田 健	札幌市における道路橋の長寿命化修繕計画策定に関する研究 主査：特任教授 林川俊郎
	まつ 松 縄 ひで のり 秀 範	鋼道路橋における経年鋼材の使用安全性評価に関する研究 主査：特任教授 林川俊郎
	リ 李 ズウ 翥 ビン 彬	A Study on the Tenants' Usage and the Design Guidelines for Public Housing in China (中国における公営住宅の住まい方とデザインガイドラインに関する研究) 主査：教授 瀬戸口剛
	こ 小 林 あや の 彩 乃	Establishment of a new approach for determining hygiene standard values for fecal pollution based on the acceptable risk of pathogen infection (病原微生物の許容感染リスクに基づく糞便汚染指標の水質基準値の設定) 主査：教授 岡部 聡
	チョウ 張 シン 鑫	Study on the mechanism of air and gas flow in semi-aerobic landfills of solid waste (廃棄物準好気性埋立地における空気・ガス流れメカニズムに関する研究) 主査：教授 松藤敏彦
は 羽 深 あきら 昭	重金属分析用蛍光色素の開発と環境試料への適用 主査：准教授 佐藤 久	
ファーティン オスマン Faten Othman アルナジャール AL-Najar	The Reality of Public Participation in Water Management: Case Study of Jordan and Singapore (水管理における住民参加に関する研究 -ヨルダンとシンガポールを例にして-) 主査：教授 船水尚行	
いな 稲 垣 ゆき こ 由 紀子	微生物代謝により固化した砂の強度向上と液状化対策に関する実験的研究 主査：准教授 川崎 了	

博士 (工学)	いわいひさのり典 岩井久典	Studies on speciation of iron and its bioavailability for the recovery of seaweed-bed of barren coast using a steel slag-compost fertilizer (製鋼スラグ-堆肥施肥材による磯焼け海域の藻場再生技術における鉄のスペシエーションと生物利用性に関する研究) 主査：准教授 福嶋正巳
	くろいわしゅうすけ介 黒岩秀介	収縮低減剤および人工軽量骨材によるコンクリートの低収縮化に関する研究 主査：教授 名和豊春
	ことうすぐる卓 後藤卓	フラクタル理論に基づく濃厚系凝集サスペンションのレオロジーモデルの構築とその応用 主査：教授 名和豊春
	なかばやしりょう亮 中林亮	Evaluation of bentonite/hyperalkaline-fluids interaction in compacted system by X-ray computed tomography (X線CTによる圧縮ベントナイト-高アルカリ間隙水相互作用の評価) 主査：教授 佐藤 努
	ネパール NEPAL チャンドラ ロイ CHANDRA ROY	Modeling and theoretical study of combustion of solid fuel over an inert porous medium (多孔質体に付着した固体燃料の燃焼伝播に関する理論的研究) 主査：准教授 中村祐二
博士 (総合化学)	ジヨンジュ JIYONG JOO	The Effect of pH on Electrocatalytic Oxidation of Small Organic Molecules on Platinum Studied by Surface-Enhanced Infrared Absorption Spectroscopy Coupled with Electrochemical Techniques (白金表面における小有機化合物の電極触媒酸化反応に及ぼすpHの影響に関する表面増強赤外吸収分光ならびに電気化学的手法による研究) 主査：教授 上田 渉
博士 (理学)	あめもりしゅうご悟 雨森翔悟	Molecular Design for Thermo-Sensitive Behavior by Using Non-Covalent Bonds between Polymer and Small Molecules (高分子と低分子間の非共有結合を利用した温度応答挙動のための分子設計) 主査：教授 喜多村昇
	いせだかずや也 伊勢田一也	Fabrication of Soft Materials Utilizing the Control of Ionic Dissociation in Organic Media (有機溶媒中におけるイオン解離状態の制御を利用したソフトマテリアルの開発) 主査：教授 鈴木孝紀
	ながさわみみか嘉 長澤文嘉	Studies on Plasmon-induced Photoexcitation Processes of Molecules on Metal Surfaces (金属表面上における分子のプラズモン誘起光励起過程に関する研究) 主査：教授 石森浩一郎
	はなだりょうすけ輔 花田良輔	Synthetic Studies on Taxane Diterpenoids (タキサンジテルペノイドの合成研究) 主査：教授 及川英秋
	ひらまつたかひろ啓 平松孝啓	Studies toward the Enantioselective Total Synthesis of Tubiferal A (ツビフェラルAの不斉全合成研究) 主査：教授 及川英秋
	ふるかわゆうき基 古川雄基	Design of Cross-Linking Point for Morphology Control of Network Polymer (ネットワークポリマーのモルフォロジー制御に向けた架橋点の設計) 主査：教授 稲辺 保
	わだみつひろ弘 和田光弘	ピロリジノインドリンの触媒的二量化法の開発と天然物立体化学の系統的改変 主査：教授 鈴木孝紀
	博士 (工学)	いそのたくや也 磯野拓也
おまたかおり織 小俣香織		Synthesis of W-based Complex Metal Oxide Catalysts and Transformation of Glycerol (タングステン複合酸化触媒の合成とグリセロール転換反応) 主査：教授 福岡 淳
さとうよしなか孝 佐藤よし孝		マイクロハニカム構造を有する固体酸の開発とその特性評価 主査：教授 増田隆夫
まきぐちこうすけ祐 牧口孝祐		Acidic Organocatalysts toward Ring-Opening Polymerization Leading to Well-Defined Polyesters (酸性有機分子触媒を用いた開環重合によるポリエステル精密合成に関する研究) 主査：教授 佐藤敏文
リュウセイイ倅 劉成倅		Study on Prenyltransferases Responsible for Indole Diterpene Biosynthesis (インドールジテルペンの生合成に関与するプレニル基転移酵素に関する研究) 主査：教授 田口精一
ジョン マサニ JOHN MASANI ンドウコ NDUKO		Efficient Microbial Production of Lactate-based Polymers Using Hemicellulose-derived Carbon Sources (ヘミセルロース由来炭素源を利用した乳酸ベースポリマー効率的な微生物生産) 主査：教授 大利 徹

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（法学）	むら い まいこ 村 井 麻衣子	フェア・ユースにおける市場の失敗理論と変容的利用の理論 －日本著作権法の制限規定への示唆－ 主査：教授 田村善之	
博士（医学）	さか した とも ひろ博 坂 下 智 博	Studies on the role of cyclin D1 for predicting local recurrence and the drug distribution after superselective intra-arterial chemotherapy in head and neck cancer (頭頸部癌における局所再発予測因子としてのサイクリンD1の役割および超選択的動注療法の薬剤分布に関する研究) 主査：教授 秋田弘俊	
博士（歯学）	おお つぼ つぐ てる輝 大 坪 嗣 輝	Identification of Novel Targets for Antiangiogenic Therapy (血管新生阻害療法のための新規標的分子の同定) 主査：教授 進藤正信	
博士（獣医学）	こ とう こう いち一 後 藤 浩 一	Investigation for the mechanism of quinolone antibacterial agent ofloxacin-induced chondrotoxicity in juvenile rats (キノロン系抗菌薬オフロキサシンの幼若ラットにおける関節毒性発症機序に関する研究) 主査：教授 稲葉 陸	
博士（情報科学）	かわ ぎき ひろ き生 相 崎 礼 生	Studies on Adaptive Routing for a Wide-Area Overlay Network System (広域オーバーレイネットワークのための適応的経路制御に関する研究) 主査：教授 高井昌彰	
博士（環境科学）	もり もと はじめ一 森 本 はじめ一	Proteomics on environmental response of <i>Pseudomonas putida</i> F1 in soil (土壌における <i>Pseudomonas putida</i> F1の環境応答に関するプロテオーム解析) 主査：准教授 笠原康裕	
	モハammad モ タ ハル MD. MOTAHAR ホ セ イ ン HOSSAIN	Electrocatalysis of noble metal alloys for denitrification in the hydrosphere (水圏における脱窒素のための貴金属合金の電極触媒作用) 主査：教授 嶋津克明	
博士（農学）	おか だ なお き樹 岡 田 直 樹	土地利用型酪農経営における飼料作外部化の展開に関する研究 －主体間関係の構造とマネジメントを中心に－ 主査：教授 柳村俊介	
	と だ まさ ひこ彦 戸 田 正 彦	木材・木質面材料の生物劣化が木質構造物の耐震性能に及ぼす影響 主査：教授 平井卓郎	
	いずみ けん いち一 泉 賢 一	乳牛におけるルーメンマット構造の定量とその形成に関する研究 主査：教授 近藤誠司	
	お ち すなお直 越 智 直	ダイズ黒根腐病に関する研究 主査：教授 近藤則夫	
	が っ ば あ だ ち り え 甲 把 (安 達) 理 恵	高知県における園芸作物病害の総合的な防除モデル構築に関わる病原微生物の分類学および発生生態学的研究 主査：教授 近藤則夫	
博士（生命科学）	いし はら たけし武 石 原 武	Discovery Research of Novel Biomarkers in Osteoarthritis using Glycoproteomics (グライコプロテオミクスによる変形性関節症の新規バイオマーカー探索に関する研究) 主査：教授 西村紳一郎	
	なか じま あい こ子 中 島 愛 子	Structural studies of ligand-protein complex: the importance of structural change for drug design (蛋白質と低分子リガンド複合体の構造学的研究：ドラッグデザインにおける構造変化の重要性について) 主査：教授 姚 関	
博士（薬科学）	ふる かわ たか こ子 古 川 貴 子	小腸グルクロン酸抱合代謝が医薬品の体内動態に与える影響 主査：教授 原島秀吉	
博士（工学）	なか た よし あき昭 中 田 義 昭	III-V族化合物半導体結晶の微細構造制御および量子構造の形成と応用に関する研究 主査：教授 武藤俊一	
	うち だ ゆう いち一 内 田 祐 一	環境に配慮した高炭素溶鉄からの脱珪、脱リンおよび脱銅精錬に関する研究 主査：教授 鈴木亮輔	
	かき ぬま たか はる治 柿 沼 孝 治	扇状地河川の破堤機構及び定量的評価に関する研究 主査：教授 清水康行	
	なか むら ひろ たけ丈 中 村 洋 丈	高速道路における高性能盛土の設計施工法に関する研究 主査：教授 石川達也	
	ウィラデ Weeradej チワパタナヌウォン Cheewapattananuwong	A Real-Time Image Processing Technology for Mitigating Traffic Impacts at Intersections (交差点での交通インパクトを改善するためのリアルタイム画像処理技術) 主査：教授 中辻 隆	
	か とう まさ じし治 加 藤 昌 治	低透水性岩石の水理・圧密特性の評価に関する研究 主査：教授 金子勝比古	

■同窓会との交流

「北海道大学卒業パーティー2014」

3月21日（金）北大生協北部食堂にて「北海道大学卒業パーティー2014」が開催されました。

北海道大学卒業パーティーは、「卒業を大いに皆で祝いあい、結束を深めよう」というコンセプトを基に、平成18年度から始まった学生有志による企画です。今回で第8回目となります。次なるフロンティアへと踏み出すその前に、北大で過ごした日々を振り返りながら、卒業する者同士、あるいは送り出す在校生や教職員、先を行く諸先輩方と「絆」を深めて、新しい一歩を彩ってみようと催されました。

当日は、山口佳三総長の挨拶の後、

北海道大学関西同窓会の末永伸正氏からのメッセージがありました。

すでに卒業された社会人の方も参加して、終始活発な交流が行われ、北大

卒業生同士の「絆」が強く感じられたパーティーでした。

（総務企画部広報課）



参加者揃っての記念写真

北海道大学函館同窓会 「総会及び懇親会」

3月25日（火）に函館市のホテル函館ロイヤルにおいて北海道大学函館同窓会総会・懇親会が開催され、本学から山口佳三総長、新田孝彦理事・副学長、村田直樹理事・事務局長が出席しました。

当日の参加者は31名でした。懇親会では山根 繁会長の挨拶に始まり、山口総長、新田理事・副学長が「北大の現状」を交えた挨拶を行いました。嵯峨直恆水産科学研究院長の発声による乾杯の後、参加者の懇親や水産学部

オーケストラの演奏の他、最後に参加者全員が輪になって肩を組み寮歌「都ぞ弥生」を歌い、盛会の裡に終了しました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



挨拶する山口総長



全員で「都ぞ弥生」斉唱

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成26年3月10日）

議案・平成25年度教育研究支援業務総長表彰について

協議事項・平成26年度実施公共政策大学院認証評価に係る点検・評価報告書について

- ・平成26年度収入・支出予算書について
- ・平成26年度年度計画について
- ・北海道大学150周年へ向けた近未来戦略（北大近未来戦略150）について
- ・環境ナノ・バイオ工学研究センターの名称変更について
- ・全学運用教員の措置について
- ・日本学生支援機構札幌国際交流会館の寄宿料及び使用料について
- ・嘱託職員の期末特別調整手当の導入について
- ・大学教員任期法等の改正に伴う対応について
- ・助教の任期について
- ・諸規則の制定及び一部改正について
- ・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・共用レクリエーションエリアの試行的設置について

- ・第2期中期目標期間における運営組織の点検評価報告書について
 - ・講座等の設置改廃について
 - ・平成25年度PDCAサイクル実施に係る検証結果について
 - ・会計検査院会計実地検査の実施について
-

経営協議会（平成26年3月18日）

議題・日本学生支援機構札幌国際交流会館の寄宿料及び使用料について

- ・北海道大学創基150年に向けた近未来戦略（北大近未来戦略150）について
- ・平成26年度予算について
- ・平成26年度年度計画について
- ・嘱託職員の期末特別調整手当の導入について
- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・北海道大学の産学官及び地域連携体制について

- ・早期退職制度について
-

教育研究評議会（平成26年3月19日）

議題・経営協議会の学外委員について

- ・平成26年度実施公共政策大学院認証評価に係る点検・評価報告書について
- ・懲戒審査対象者の陳述に係る手続きの変更について
- ・名誉教授の選考について
- ・日本学生支援機構札幌国際交流会館の寄宿料及び使用料について
- ・平成26年度予算について
- ・平成26年度年度計画について
- ・北海道大学創基150年に向けた近未来戦略（北大近未来戦略150）について
- ・環境ナノ・バイオ工学研究センターの名称変更について
- ・大学教員任期法等の改正に伴う対応について
- ・助教の任期について
- ・産業創出分野（部門）制度の制定について
- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・全学運用教員の措置について

- ・講座等の設置改廃について
 - ・寄附講座等の設置・延長について
-

役員会（平成26年3月24日）

議案・総長補佐体制の強化について

- ・平成26年度実施公共政策大学院認証評価に係る点検・評価報告書について
- ・平成26年度予算について
- ・平成26年度年度計画について
- ・北海道大学創基150周年に向けた近未来戦略（北大近未来戦略150）について
- ・環境ナノ・バイオ工学研究センターの名称変更について
- ・大学教員任期法等の改正に伴う対応について
- ・助教の任期について
- ・懲戒審査対象者の陳述に係る手続きの変更について
- ・産業創出分野（部門）制度の制定について
- ・日本学生支援機構札幌国際交流会館の寄宿料及び使用料について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- ・諸規則の制定及び一部改正について
- ・目的積立金の活用事業について

報告事項・事務組織の見直しについて

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

学内規程**北海道大学病院規程の一部を改正する規程**

（平成26年3月17日海大達第41号）

本年3月17日付けで、北海道大学病院に陽子線治療センターを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学成果有体物取扱規程の一部を改正する規程

（平成26年3月25日海大達第42号）

本規程に基づく提供補償金の有意義な活用を促進させるため、収益を得た年度にかかわらず提供補償金を配分することができるようにすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

（平成26年3月25日海大達第43号）

入試手当について、私費外国人留学生を対象として特別に編成する学士課程教育プログラム（現代日本学プログラム課程）の入学試験に係る入試手当を支給することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則等の一部を改正する規則

（平成26年4月1日海大達第44号）

本年4月1日付けで、本学の組織の設置、改組及び廃止を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

（平成26年4月1日海大達第45号）

本年4月1日付けで、本学の教育研究組織に置く専攻、講座、部門、分野及び研究部門等について改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学経営協議会規程等の一部を改正する規程

（平成26年4月1日海大達第46号）

本年4月1日付けで、役員補佐の職名を総長補佐に改めること並びに全国共同利用施設であるスラブ研究センター及び学内共同教育研究施設である環境ナノ・バイオ工学研究センターの名称を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学広報室規程等の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第47号)

本年4月1日付けで、役員補佐の職名を総長補佐に改めること及び本学の教授のうちから総長が任命する副学長を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第48号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第49号)

本年4月1日付けで、役員補佐を総長補佐に改めること及び高等教育推進機構が改組され、本センターの構成員を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学アドミッションセンター企画運営会議規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第50号)

本年4月1日付けで、高等教育推進機構が改組され、国立大学法人北海道大学アドミッションセンター企画運営会議の構成員を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第51号)

創成研究機構共用機器管理センターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備の追加及び削除を行うこと及び分子構造分析の項目並びに分析料及び加工等料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです(分子構造分析の項目に係る別表の改正は、平成26年7月1日施行)。

国立大学法人北海道大学国際本部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第52号)

本年4月1日付けで国際連携研究教育局が設置され、国際本部においてその業務支援を行うこと及び新たに国際教務課を設置すること等に伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学国際本部日本語・日本文化研修コース規程及び国立大学法人北海道大学国際本部日本語研修コース規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第53号)

本年4月1日付けで、国立大学法人北海道大学国際本部規程の一部を改正することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第54号)

本年4月1日付けで、高等教育推進機構の高等教育研究部に置く部門を改めること、教育支援部にオープンエデュケーションセンターを置くこと、運営委員会及び学務委員会に置く専門委員会を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学フード&メディカルイノベーション推進本部規程

(平成26年4月1日海大達第55号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部(以下「FMI推進本部」という)を設置することに伴い、FMI推進本部の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学フード&メディカルイノベーション推進本部運営委員会規程

(平成26年4月1日海大達第56号)

国立大学法人北海道大学フード&メディカルイノベーション推進本部規程第11条第2項の規定に基づき、国立大学法人北海道大学フード&メディカルイノベーション推進本部運営委員会の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学役員補佐の任命及び任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第57号)

総長の意思決定をサポートする体制を学内外に明確に示すため、役員補佐の職名を総長補佐に改めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第58号)

本年4月1日付けで、北海道大学入学者選抜委員会の構成員について、副学長は総長が指名する副学長とすること及び役員補佐を総長補佐に改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第59号)

本年4月1日付けで、全国共同利用施設であるスラブ研究センターの名称を改めること並びに学務部の組織を再編し、名称及び事務分掌を変更することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム運営委員会規程

(平成26年4月1日海大達第60号)

北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム規程第8条第2項の規定に基づき、北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム運営委員会の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第61号)

本年4月1日付けで、フード&メディカルイノベーション推進本部を設置すること、事務組織の改組を行うこと並びに全国共同利用施設であるスラブ研究センター及び学内共同教育研究施設である環境ナノ・バイオ工学研究センターの名称を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院通則の一部を改正する規則

(平成26年4月1日海大達第62号)

本年4月1日付けで、本学大学院情報科学研究科の専攻及び定員を改めること、並びに本学大学院に文部科学省が所管する博士課程教育リーディングプログラムにより採択された学位プログラムを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

教育職員免許状授与の所要資格の取得に関する規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第63号)

本年4月1日付けで、本学大学院情報科学研究科の専攻を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第64号)

本年4月1日付けで、①新渡戸カレッジ運営会議の組織を改めること、②運営会議に置かれている専門委員会を改めること、③事務組織を改めること、並びに④新渡戸カレッジにおいて、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学短期留学プログラム規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第65号)

本年4月1日付けで、国際本部に国際教務課を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第66号)

国際交流科目の整備充実を図り、海外留学を促進するための授業科目を開講することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム規程

(平成26年4月1日海大達第67号)

平成26年度から、本学大学院において、文部科学省が所管する博士課程教育リーディングプログラムにより採択された学位プログラム「物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム」(以下「本プログラム」という。)を実施することに伴い、本プログラムの編成及び修了要件等について所要の定めを行ったものです。

北海道大学大学院理工系専門基礎科目規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第68号)

北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第69号)

本学大学院理工系専門基礎科目及び大学院共通授業科目について、より適切な教育効果を得るために授業科目の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第70号)

北海道大学病理解剖受託規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第72号)

北海道大学病院受託実習生受入れ規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第78号)

北海道大学病院研修生受入れ規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第79号)

北海道大学病院エイズ診療従事者研修生受入れ規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第80号)

北海道大学研修登録医受入れ規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第81号)

北海道大学病院薬剤師実務受託研修生受入れ規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第83号)

国立大学法人北海道大学宿舍貸与規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第101号)

国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第104号)

北海道大学病院諸料金規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第119号)

北海道大学水産学部附属練習船余席共同利用規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第124号)

本年4月1日から消費税率が8パーセントに改定されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第71号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること及び民間機関等から民間等共同研究員を受け入れる場合の研究料について、消費税率が8パーセントに改定されること及び研究料の月額を定めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第73号)

本学において行う病的材料検査に係る病的材料検査料について、準拠していた診療報酬の算定方法(平成24年厚生労働省告示第76号)が平成26年3月31日限りで廃止され、同年4月1日から適用される診療報酬の算定方法(平成26年厚生労働省告示第57号)に準拠すること及び本年4月1日から消費税率が8パーセントに改定されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学産業創出講座等規程

(平成26年4月1日海大達第74号)

民間機関等との共同研究を実施するために、本学の教育研究組織等に産業創出講座、産業創出分野、産業創出部門又はこれらに相当する組織（以下「産業創出講座等」という。）を置くことができることとするに伴い、産業創出講座等に関し必要な事項について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学受託研究員規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第75号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること並びに受託研究員等受入れに係る研究料について、消費税率が8パーセントに改定されること及び研究料の月額を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学私学研修員等受入れ規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第76号)

本年4月1日付けで、私学研修員等受入れに係る委託者の名義を変更すること及び本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること並びに私学研修員等受入れに係る研究料の月額について、消費税率が8パーセントに改定されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学外国人受託研修員規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第77号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること及び外国人受託研修員の研修料について、消費税率が8パーセントに改定されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学中国・人材育成事業研修員規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第82号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること及び中国・人材育成事業研修員の研修料について、消費税率が8パーセントに改定されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第84号)

本年4月1日より、①附属図書館の開館時間を午前8時からとするため、開館業務に従事する職員について、新たな勤務時間帯の区分を設けること、②病院事務部の組織の見直しが行われることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則

(平成26年4月1日海大達第85号)

本年4月1日付けで、病院事務部の組織の見直しが行われることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(平成26年4月1日海大達第86号)

本年4月1日から、①定年により退職し、再雇用される特任教員に付与する病気休暇を無給から有給とすること、②特任教員について、学位論文審査及び教員免許状更新講習会を担当することができるようにするとともに、諸手当の種類に学位論文審査手当及び教員免許状更新講習手当を加えることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則

(平成26年4月1日海大達第87号)

本年4月1日から、職員と異ならない所定労働時間で雇用される嘱託職員に付与される病気休暇を無給から有給とすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員の人事等に関する特例規則の一部を改正する規則

(平成26年4月1日海大達第88号)

懲戒事案が発生した際、迅速に処分を確定する必要があることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第89号)

保健科学研究院に採用する助教について、任期の定めのない教員とするための業績審査を行わないこととすること、及び平成26年4月1日付けで、スラブ研究センターの名称をスラブ・ユーラシア研究センターに改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第90号)

本年4月1日より、①附属図書館の開館時間を午前8時からとするため、開館業務に従事する職員について、新たな勤務時間帯の区分を設けること、②国際本部、事務局及び病院事務部の組織の見直しが行われることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員の特別の有給休暇に関する規程等を廃止する規程

(平成26年4月1日海大達第91号)

本学の役員及び職員の給与の臨時特例として、本給月額、基本給月額等を減額支給する期間並びに国立大学法人北海道大学職員の給与の臨時特例に関する規程の適用を受ける職員に付与される特別の有給休暇の有効期間が、平成26年3月31日をもって終了することに伴い、関係規程の廃止を行ったものです。

国立大学法人北海道大学全学運用教員規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第92号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること及び全国共同利用施設であるスラブ研究センターの名称を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第93号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること並びに全国共同利用施設であるスラブ研究センター及び学内共同教育研究施設である環境ナノ・バイオ工学研究センターの名称を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学自家用電気工作物保安規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第94号)

電力会社の設置する電気工作物との保安上の責任分界点を電力需給契約書のとおりとすること及び電気事業法施行規則(平成7年通商産業省令第77号)第52条第2項に規定する委託契約を締結している施設で、同項の承認を受けたものに係る電気工作物については、同規程を適用しないこととすることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学水産学部等の施設に係る自家用電気工作物保安規程を廃止する規程

(平成26年4月1日海大達第95号)

電気事業法施行規則(平成7年通商産業省令第77号)第52条第2項に規定する委託契約を締結している施設で、同項の承認を受けたものに係る電気工作物については、業務委託先の基準が適用されることから、本規程の廃止を行ったものです。

国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第96号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること、事務組織の改組を行うこと並びに全国共同利用施設であるスラブ研究センター及び学内共同教育研究施設である環境ナノ・バイオ工学研究センターの名称を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第97号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること並びに全国共同利用施設であるスラブ研究センター及び学内共同教育研究施設である環境ナノ・バイオ工学研究センターの名称を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第98号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第99号)

調達課担当者に検査に関する権限を与えること及び部局等に再委託契約に関する権限を与えること並びに平成26年4月1日付けで本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規程の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第100号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること並びに全国共同利用施設であるスラブ研究センター及び学内共同教育研究施設である環境ナノ・バイオ工学研究センターの名称を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学における共用スペース使用規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第102号)

共用スペースの管理等を施設・環境計画室で所掌することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学クラーク会館規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第103号)

本年4月1日付けで、クラーク会館委員会を廃止し、クラーク会館における管理運営に関する基本的な事項は、学生委員会で審議することとすること、館長を総長の指名する副学長とすること、その他クラーク会館の使用に関する必要事項を定めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学借上宿舎等規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第105号)

本学が独立行政法人日本学生支援機構の所有する留学生宿舎を借り上げ、外国人留学生等の居住の用に供することとすること及び借上宿舎等の使用料等について、本年4月1日から消費税率が8パーセントに改定されることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道地区国立大学大滝セミナーハウス規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第106号)

本年4月1日付けで、北海道地区国立大学大滝セミナーハウス運営委員会を廃止し、セミナーハウスにおける管理運営に関する基本的な事項は、学生委員会で審議することとすること、その他セミナーハウスの使用に関する必要事項を定めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学遠友学舎規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第107号)

平成24年2月から遠友学舎の管理運営が財務部から学務部へ移管され、学生の利用を中心とした施設とされたことから、館長を総長の指名する副学長（教育・学生担当）とすること、学舎の管理運営に関する基本的な事項は、学生委員会で審議することとすること及び使用料を徴収する対象を改めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学事業所内保育所ともに規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第108号)

本年4月1日付けで、「事業所内保育所ともに」の施設形態を事業所内保育施設から一般の認可外保育施設に変更することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学事業所内保育所ともに運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第109号)

本年4月1日付けで、①「事業所内保育所ともに」の施設形態を事業所内保育施設から一般の認可外保育施設に変更すること及び②運営委員会の組織及び委員長を改めるに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第110号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加及び削除並びに使用料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第111号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること並びに本学が、大学連携研究設備ネットワークによる設備相互利用と共同研究の促進事業実施規約の規定により相互利用に供する設備の追加を行うこと及び利用料金を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学産業イノベーション事業による設備利用規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第112号)

文部科学省が所管する研究開発施設共用等促進費補助金の交付を受けて、創成研究機構が行う産業イノベーション事業から、電子スピニメージング技術による産業イノベーション事業を削ること並びに利用設備及び利用料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学入構車両規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第113号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織としてフード&メディカルイノベーション推進本部、教育研究組織として国際連携研究教育局を設置すること並びにICカードの発行及びICカードの情報の記録に係る手数料について、本年4月1日から消費税率が8パーセントに改定されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学文学部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第114号)

北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第115号)

北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第116号)

北海道大学理学部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第117号)

北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第120号)

北海道大学工学部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第121号)

北海道大学農学部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第122号)

北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第123号)

本学部において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学病院規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第118号)

本年4月1日付けで、北海道大学病院に女性医師等就労支援室を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第125号)

北海道大学大学院獣医学研究科規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第126号)

北海道大学大学院情報科学研究科規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第127号)

北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第128号)

北海道大学大学院農学院規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第129号)

北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第130号)

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第132号)

北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第133号)

北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第134号)

北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第136号)

北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第137号)

本学大学院において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第131号)

本年4月1日付けで、本センターに置く部門を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院工学研究院規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第135号)

本年4月1日付けで、本学大学院工学研究院の空間性能システム部門に置く分野の名称を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学遺伝子病制御研究所共同利用・共同研究拠点運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第138号)

北海道大学遺伝子病制御研究所共同利用・共同研究拠点運営委員会の委員に、北海道大学遺伝子病制御研究所長を加えることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学附属図書館利用規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第139号)

利用者へのサービス向上のため、開館時間を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学スラブ研究センター規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第140号)

北海道大学スラブ研究センター協議員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第141号)

北海道大学スラブ研究センター共同利用・共同研究拠点運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第142号)

北海道大学スラブ研究センター共同利用・共同研究拠点課題等審査委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第143号)

本年4月1日付けで、本センターの名称及び研究対象地域を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学観光学高等研究センター規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第144号)

本センターの兼務教員について、特任教員として再雇用された教員のうちからも命ずることができることとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学社会科学実験研究センター規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第145号)

北海道大学社会科学実験研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第146号)

本年4月1日付けで、社会科学実験研究センターに副センター長を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学環境ナノ・バイオ工学研究センター規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第147号)

北海道大学環境ナノ・バイオ工学研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第148号)

本年4月1日付けで、「環境ナノ・バイオ工学研究センター」の名称を、「次世代都市代謝教育研究センター」に改めること及び目的を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学トポロジー理工学教育研究センター規程及び北海道大学トポロジー理工学教育研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第149号)

トポロジー理工学教育研究センターの時限を延長することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学環境健康科学研究教育センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成26年4月1日海大達第150号)

環境健康科学研究教育センター運営委員会の構成員について、専任の准教授を加えることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学国際連携研究教育局規程

(平成26年4月1日海大達第151号)

本年4月1日付けで、本学に国際連携研究教育局（以下「研究教育局」という。）を設置することに伴い、研究教育局の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

北海道大学国際連携研究教育局運営委員会規程

(平成26年4月1日海大達第152号)

北海道大学国際連携研究教育局規程第8条第2項の規定に基づき、北海道大学国際連携研究教育局運営委員会の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

表敬訪問

国内

年月日	来訪者
26.4.4	三井造船株式会社 一行
26.4.10	北見工業大学長 高橋 信夫 氏



三井造船株式会社 一行



北見工業大学長 高橋 信夫 氏

(総務企画部広報課)

海外

年月日	来訪者	来訪目的
26.3.4	ミャンマー Maung Maung Soe 気象水文課長	リモートセンシング分野での連携に関する懇談
26.3.4	アジア工科大学(タイ) 山本 和夫 副学長	両大学の交流に関する懇談
26.3.6	米国大使館 Jessica Webster 経済・科学担当公使	両国の交流に関する懇談
26.3.7	アブドラ国王科学技術大学(サウジアラビア) Arnab Pain准教授, アイルランド国立大学ダブリン校(アイルランド) William Hall教授, メルボルン大学(オーストラリア) David Jackson教授	国際連携研究教育局人獣共通感染症グローバルステーション設立に向けての懇談
26.3.18	アイルランド Frances Fitzgerald 青少年・児童省大臣	両国の交流に関する懇談
26.3.19	モンゴル, マレーシア, ベトナム訪問団 (モンゴル国立大学, マレーシアマルチメディア大学, ベトナム国立大学ホーチミン科学大学他)	リモートセンシング分野での連携に関する懇談
26.3.20	国立政治大学(台湾) 湯京平 社会科学院 副院長	両大学の交流に関する懇談



ミャンマー Maung Maung Soe 気象水文課長
(前列中央右)



アジア工科大学(タイ) 山本 和夫 副学長(左側)



米国大使館 Jessica Webster 経済・科学担当公使
(左側中央)



アブドラ国王科学技術大学Arnab Pain准教授
(左から7人目) アイルランド国立大学ダブリン校William Hall教授 (左から8人目) メルボルン大学David Jackson教授 (右から4人目)



アイルランド Frances Fitzgerald 青少年・児童省大臣 (右から4人目)



モンゴル, マレーシア, ベトナム訪問団



国立政治大学 (台湾) 湯京平 社会科学院 副院長
(前列中央左)

(国際本部国際連携課, 総務企画部企画課)

■人事

平成26年3月9日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (辞職)	董 郁 玉	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

平成26年3月23日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (辞職)	顧 林 生	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

平成26年3月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (定年)	中戸川 孝 治	大学院文学研究科教授
	吉 田 文 和	大学院経済学研究科教授
	瀬 谷 司	大学院医学研究科教授
	川 浪 雅 光	大学院歯学研究科教授
	清 水 孝 一	大学院情報科学研究科教授
	福 井 孝 志	大学院情報科学研究科教授
	山 本 眞 史	大学院情報科学研究科教授
	久 万 健 志	大学院水産科学研究院教授
	五 嶋 聖 治	大学院水産科学研究院教授
	桜 井 泰 憲	大学院水産科学研究院教授
	芳 村 康 男	大学院水産科学研究院教授
	木 村 正 人	大学院地球環境科学研究院教授
	嶋 津 克 明	大学院地球環境科学研究院教授
	小野寺 彰	大学院理学研究院教授
	小 池 和 幸	大学院理学研究院教授
	清 水 隆	大学院理学研究院教授
	杉 山 滋 郎	大学院理学研究院教授
	高 橋 孝 行	大学院理学研究院教授
	栃 内 新	大学院理学研究院教授
	有 賀 寛 芳	大学院薬学研究院教授
	浅 野 行 藏	大学院農学研究院教授
	岩 間 和 人	大学院農学研究院教授
	大 崎 満	大学院農学研究院教授
	近 藤 誠 司	大学院農学研究院教授
	中 村 富美男	大学院農学研究院教授
	平 井 卓 郎	大学院農学研究院教授
	矢 鳥 崇	大学院農学研究院教授
	佐々木 直 樹	大学院先端生命科学研究院教授
	姉 崎 洋 一	大学院教育学研究院教授
	梅 津 徹 郎	大学院教育学研究院教授
	西 尾 達 雄	大学院教育学研究院教授
	矢 野 徳 郎	大学院教育学研究院教授
	石 川 克 知	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	石 橋 道 大	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	竹 本 幸 博	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	宮 下 雅 年	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	宮 本 顯 二	大学院保健科学研究院教授
	大 貫 惣 明	大学院工学研究院教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(任期満了) (辞職)	覺 知 豊 次	大学院工学研究院教授
	金 子 勝比古	大学院工学研究院教授
	下川部 雅 英	大学院工学研究院教授
	田 中 洋 行	大学院工学研究院教授
	中 辻 隆	大学院工学研究院教授
	馬 場 直 志	大学院工学研究院教授
	原 正 治	大学院工学研究院教授
	緑 川 光 正	大学院工学研究院教授
	武 藤 俊 一	大学院工学研究院教授
	藤 吉 康 志	低温科学研究所教授
	古 川 義 純	低温科学研究所教授
	大 澤 雅 俊	触媒化学研究センター教授
	望 月 哲 男	スラブ研究センター教授
	木 村 純	高等教育推進機構教授
	一 色 賢 司	大学院水産科学研究院教授
	新 堂 明 子	大学院法学研究科教授
	山 口 二 郎	大学院法学研究科教授
	趙 松 吉	大学院医学研究科教授
	渡 部 重 十	大学院理学研究院教授
	山 田 憲 政	大学院教育学研究院教授
越 澤 明	大学院工学研究院教授	
上 田 涉 寛	触媒化学研究センター教授	
秦 寛	北方生物圏フィールド科学センター教授	
【准教授】 (定年)	本 多 丘 人 前 田 仁一郎 堀 口 敬 佐 藤 直 樹 金 ソンミン 肥 前 洋 一 蛇 沼 俊 二 木 村 圭 司 立 澤 一 哉 BARTLEM DEREK GRAHAM 大 沼 義 彦 林 裕 子 高 木 清 二 久 保 直 樹	大学院歯学研究科准教授
(任期満了) (辞職)		大学院理学研究院准教授
		大学院工学研究院准教授
		北海道大学病院准教授
		大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
		大学院経済学研究科准教授
		大学院水産科学研究院准教授
		大学院情報科学研究科准教授
		大学院理学研究院准教授
		大学院農学研究科准教授
		大学院教育学研究院准教授
		大学院保健科学研究院准教授
		電子科学研究所准教授
		アイソトープ総合センター准教授
		【講師】 (定年) (辞職)
【助教】 (定年)	佐 藤 隆 文 西 方 眞 水 野 守 道 木 村 順 一 木 村 修 森 濟 水 田 洋 谷 津 茂 男 妙 木 忍 朴 鍾 碩	大学院歯学研究科助教
(任期満了)		大学院歯学研究科助教
		大学院歯学研究科助教
		水産学部附属練習船おしよろ丸助教
		水産学部附属練習船うしお丸助教
		大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター助教
		大学院工学研究院助教
		大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター助教
		大学院文学研究科助教
		大学院法学研究科助教

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(任期滿了)	木 村 きみ子	北海道大学病院看護部副看護師長
	上 山 清 子	北海道大学病院看護部看護師
	工 藤 郁 子	北海道大学病院看護部看護師
	庄 田 由 美	北海道大学病院看護部看護師
	中 田 眞 弓	北海道大学病院看護部看護師
	山 元 葉 子	北海道大学病院看護部看護師
	仲 知 保	北海道大学病院診療支援部長
	表 英 彦	北海道大学病院診療支援部副診療放射線技師長
	内 藤 智 浩	北海道大学病院診療支援部主任診療放射線技師
	高 橋 弥 生	北海道大学病院調理師
	辻 満	情報環境推進本部情報推進課技術専門員
	江 藤 典 子	技術支援本部付 (創成研究機構) 技術専門職員
	浅 野 逸 郎	北海道大学病院薬剤部薬剤師
	伊 藤 愛	北海道大学病院看護部看護師
	伊 藤 理 美	北海道大学病院看護部看護師
	井 下 美智子	北海道大学病院看護部看護師
	岡 本 智 子	北海道大学病院看護部看護師
	小 原 奏 子	北海道大学病院看護部看護師
	木 田 祥 子	北海道大学病院看護部看護師
	佐々木 唯	北海道大学病院看護部看護師
	佐 竹 唯	北海道大学病院看護部看護師
	津 田 和	北海道大学病院看護部看護師
	豊 島 綾 恵	北海道大学病院看護部看護師
	西 本 菜々美	北海道大学病院看護部看護師
	花 房 愛	北海道大学病院看護部看護師
	春 名 衣久美	北海道大学病院看護部看護師
福 井 淑 美	北海道大学病院看護部看護師	
山 田 美 紀	北海道大学病院看護部看護師	
鈴 木 晴 佳	北海道大学病院診療支援部臨床検査技師	
野 川 麻 美	北海道大学病院診療支援部臨床検査技師	
(辞職)	佐 藤 紀 宏	北海道大学病院薬剤部薬剤師
	関 悟	北海道大学病院薬剤部薬剤師
	高 橋 ゆかり	北海道大学病院看護部副看護師長
	阿 部 綾 子	北海道大学病院看護部看護師
	石 川 敦 子	北海道大学病院看護部看護師
	石 部 沙 季	北海道大学病院看護部看護師
	伊 藤 有 美	北海道大学病院看護部看護師
	鶴 川 真由美	北海道大学病院看護部看護師
	小田中 美 久	北海道大学病院看護部看護師
	大 島 彩	北海道大学病院看護部看護師
	尾 形 裕 子	北海道大学病院看護部看護師
	長 内 千 明	北海道大学病院看護部看護師
	小野寺 めぐみ	北海道大学病院看護部看護師
	加 藤 祐 子	北海道大学病院看護部看護師
	金 丸 裕 子	北海道大学病院看護部看護師
	亀 田 ちひろ	北海道大学病院看護部看護師
	工 藤 美 緒	北海道大学病院看護部看護師
	建 部 恵 美	北海道大学病院看護部看護師
	小 泉 文 平	北海道大学病院看護部看護師
	後 藤 智 加	北海道大学病院看護部看護師
	小 林 真由美	北海道大学病院看護部看護師
	小 松 由 衣	北海道大学病院看護部看護師
	佐々木 亜 希	北海道大学病院看護部看護師
	佐々木 彩	北海道大学病院看護部看護師
	祐 川 唯 香	北海道大学病院看護部看護師
	助 乘 麻 美	北海道大学病院看護部看護師
武 田 舞	北海道大学病院看護部看護師	

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	千 葉 渚	北海道大学病院看護部看護師
	當 眞 美 織	北海道大学病院看護部看護師
	中 島 佳奈子	北海道大学病院看護部看護師
	西 尾 優 子	北海道大学病院看護部看護師
	橋 本 知 佳	北海道大学病院看護部看護師
	長谷部 さくら	北海道大学病院看護部看護師
	東 奈津子	北海道大学病院看護部看護師
	福 谷 茉 未	北海道大学病院看護部看護師
	藤 田 紗 貴	北海道大学病院看護部看護師
	堀 裕美子	北海道大学病院看護部看護師
	本 馬 唯	北海道大学病院看護部看護師
	米 田 紀 恵	北海道大学病院看護部看護師
	前 田 のぞ美	北海道大学病院看護部看護師
	三 谷 舞 衣	北海道大学病院看護部看護師
	宮 田 沙 季	北海道大学病院看護部看護師
	三 輪 有 芽	北海道大学病院看護部看護師
	山 本 佳代子	北海道大学病院看護部看護師
	渡 辺 綾 乃	北海道大学病院看護部看護師
	佐々木 紀 子	北海道大学病院看護部助産師
	福 田 奈都紀	北海道大学病院看護部助産師
	恩 田 千 景	北海道大学病院診療支援部臨床検査技師
	加 藤 ち え	北海道大学病院診療支援部作業療法士
	澤 村 大 輔	北海道大学病院診療支援部作業療法士
	大 貫 真樹子	保健センターカウンセラー
	石 川 靖 子	子どもの園保育園保育士
	長谷部 麻 里	子どもの園保育園保育士
【特任教授 (再雇用)】 (任期満了)	金 子 勇	大学院文学研究科特任教授
	吉 野 悦 雄	大学院経済学研究科特任教授
	野々村 克 也	大学院医学研究科特任教授
【嘱託職員】 (任期満了)	福 元 彰	理学・生命科学事務部事務課
	阿 部 眞知子	北海道大学病院看護部
	大 澤 孝	北海道大学病院診療支援部
	加 藤 ひとみ	北海道大学病院診療支援部
	長谷川 秀 一	水産学部附属練習船おしよろ丸機関員

平成26年4月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 監事 監事	米 澤 勉 上 野 昌 美	北海道大学監事 北海道大学監事
【副学長】 (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで)	望 月 恒 子 山 口 淳 二	大学院文学研究科教授 大学院理学研究院教授
【総長補佐】 (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで)	長谷川 晃 堀 内 基 広 西 邑 隆 徳 喜多村 昇 山 下 正 兼 大 塚 吉 則 畠 山 鎮 次	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院獣医学研究科教授 大学院農学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院医学研究科教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで) (期間：平成27年 3月31日まで)	長谷山 美 紀 網 塚 浩 近 藤 哲 也 羽 山 広 文 山 田 貞 三 山 下 博 西 口 規 彦 村 松 正 隆 波多野 隆 介 長 野 克 則	大学院情報科学研究科教授 大学院理学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院文学研究科教授 大学院理学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院文学研究科准教授 大学院農学研究院教授 大学院工学研究院教授
【経営協議会委員】 (期間：平成28年 3月31日まで) (期間：平成28年 3月31日まで) (期間：平成28年 3月31日まで) (期間：平成28年 3月31日まで) (期間：平成28年 3月31日まで) (期間：平成28年 3月31日まで)	樋 口 達 夫 横 山 清 平 山 健 一 石 山 喬 松 谷 有希雄 林 菜 つみ	大塚ホールディングス (株) 代表取締役社長兼CEO (株) アークス代表取締役社長, (株) ラルス代表取締役会長兼CEO 元国立大学法人岩手大学長, 国立大学法人福島大学監事(非常勤) 北海道大学連合同窓会副会長, 日本軽金属ホールディングス (株) 代表取締役社長 国立保健医療科学院長 弁護士 (林菜つみ法律事務所)
【部局長・施設長等】 大学院文学研究科長 文学部長 (期間：平成28年 3月31日まで) 大学院経済学研究科長 経済学部長 (期間：平成28年 3月31日まで) 大学院歯学研究科長 歯学部長 (期間：平成28年 3月31日まで) 大学院情報科学研究科長 (期間：平成28年 3月31日まで) 大学院水産科学研究科長 大学院水産科学院長 水産学部長 (期間：平成28年 3月31日まで) 大学院生命科学院長 (期間：平成28年 3月31日まで) 大学院教育学研究院長 大学院教育学院長 教育学部長 (期間：平成28年 3月31日まで) 大学院保健科学研究科長 大学院保健科学院長 (期間：平成28年 3月31日まで) 大学院工学研究院長 大学院工学院長 工学部長 (期間：平成28年 3月31日まで) 大学院総合化学院長 (期間：平成28年 3月31日まで) 低温科学研究所長 (期間：平成28年 3月31日まで) 遺伝子病制御研究所長 (期間：平成28年 3月31日まで) 触媒化学研究センター長 (期間：平成28年 3月31日まで) スラブ・ユーラシア研究センター長 (期間：平成26年 4月30日まで)	白木沢 旭 児 吉 見 宏 横 山 敦 郎 宮 永 喜 一 安 井 肇 山 口 淳 二 小 内 透 伊 達 広 行 名 和 豊 春 坂 口 和 靖 江 淵 直 人 高 岡 晃 教 朝 倉 清 高 宇 山 智 彦	大学院文学研究科教授 大学院経済学研究科教授 大学院歯学研究科教授 大学院情報科学研究科教授 大学院水産科学研究科教授 大学院理学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院保健科学研究科教授 大学院工学研究院教授 大学院理学研究院教授 低温科学研究所教授 遺伝子病制御研究所教授 触媒化学研究センター教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北方生物圏フィールド科学センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	本 村 泰 三	北方生物圏フィールド科学センター教授
量子集積エレクトロニクス研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	橋 詰 保	量子集積エレクトロニクス研究センター教授
脳科学研究教育センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	吉 岡 充 弘	大学院医学研究科教授
社会科学実験研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	亀 田 達 也	大学院文学研究科教授
次世代都市代謝教育研究センター長 (期間：平成27年3月31日まで)	船 水 尚 行	大学院工学研究院教授
数学連携研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	津 田 一 郎	電子科学研究所教授
サステナビリティ学教育研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	山 中 康 裕	大学院地球環境科学研究院教授
トポロジー理工学教育研究センター長 (期間：平成27年3月31日まで)	丹 田 聡	大学院工学研究院教授
環境健康科学研究教育センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	齋 藤 健	大学院保健科学研究院教授
人材育成本部長 (期間：平成27年3月31日まで)	望 月 恒 子	大学院文学研究科教授
フード&メディカルイノベーション推進本部長 (期間：平成27年3月31日まで)	川 端 和 重	理事 (副学長)
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	鈴 木 賢	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院獣医学研究科附属動物病院長 (期間：平成28年3月31日まで)	滝 口 満 喜	大学院獣医学研究科教授
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	村 上 亮	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授
大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長 (期間：平成27年3月31日まで)	室 橋 春 光	大学院教育学研究院特任教授
大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	秋 山 友 宏	大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター教授
薬学部附属薬用植物園長 (期間：平成28年3月31日まで)	前 仲 勝 実	大学院薬学研究院教授
水産学部附属練習船おしよろ丸船長 (期間：平成28年3月31日まで)	高 木 省 吾	水産学部附属練習船おしよろ丸准教授
低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	三 寺 史 夫	低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター教授
電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	笹 木 敬 司	電子科学研究所教授
遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	近 藤 亨	遺伝子病制御研究所教授
【副研究科長・副研究院長等】		
大学院文学研究科副研究科長 (期間：平成28年3月31日まで)	佐々木 啓	大学院文学研究科教授
大学院文学研究科副研究科長 (期間：平成28年3月31日まで)	山 本 文 彦	大学院文学研究科教授
大学院法学研究科副研究科長 (期間：平成28年3月31日まで)	小名木 明 宏	大学院法学研究科教授
大学院経済学研究科副研究科長 (期間：平成28年3月31日まで)	久保田 肇	大学院経済学研究科教授
大学院歯学研究科副研究科長 (期間：平成28年3月31日まで)	八 若 保 孝	大学院歯学研究科教授
大学院情報科学研究科副研究科長 (期間：平成28年3月31日まで)	北 裕 幸	大学院情報科学研究科教授
大学院情報科学研究科副研究科長 (期間：平成28年3月31日まで)	末 岡 和 久	大学院情報科学研究科教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院水産科学研究院副院長 (期間：平成28年3月31日まで)	木 村 暢 夫	大学院水産科学研究院教授
大学院水産科学研究院副院長 (期間：平成28年3月31日まで)	宮 下 和 夫	大学院水産科学研究院教授
大学院理学研究院副院長 (期間：平成27年3月31日まで)	石 森 浩一郎	大学院理学研究院教授
大学院教育学研究院副院長 (期間：平成28年3月31日まで)	宮 崎 隆 志	大学院教育学研究院教授
大学院保健科学研究院副院長 (期間：平成28年3月31日まで)	傳 田 健 三	大学院保健科学研究院教授
大学院工学研究院副院長 (期間：平成28年3月31日まで)	小 林 幸 徳	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副院長 (期間：平成28年3月31日まで)	近 久 武 美	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副院長 (期間：平成28年3月31日まで)	増 田 隆 夫	大学院工学研究院教授
低温科学研究所副所長 (期間：平成28年3月31日まで)	福 井 学	低温科学研究所教授
遺伝子病制御研究所副所長 (期間：平成28年3月31日まで)	清 野 研一郎	遺伝子病制御研究所教授
【教育研究評議会評議員】 (期間：平成28年3月31日まで) (期間：平成28年3月31日まで) (期間：平成28年3月31日まで) (期間：平成28年3月31日まで) (期間：平成28年3月31日まで) (期間：平成28年3月31日まで) (期間：平成28年3月31日まで) (期間：平成28年3月31日まで)	山 本 文 彦 久保田 肇 八 若 保 孝 昆 泰 寛 足 立 伸 次 石 森 浩一郎 宮 崎 隆 志 近 久 武 美	大学院文学研究科教授 大学院経済学研究科教授 大学院歯学研究科教授 大学院獣医学研究科教授 大学院水産科学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院工学研究院教授
【教授】 大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院経済学研究科教授 大学院獣医学研究科教授 大学院水産科学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院保健科学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院公共政策学連携研究部教授 触媒化学研究センター教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授	竹 内 康 浩 野 村 益 寛 谷古宇 尚 岸 本 太 樹 中 川 寛 子 宮 脇 淳 吉 田 広 志 辻 康 夫 町 野 和 夫 迫 田 義 博 綿 貫 豊 柴 伸一郎 増 田 清 浅 川 和 幸 鈴 木 志のぶ 前 島 洋 川 崎 了 安 部 由起子 板 谷 淳 一 空 井 護 西 田 まゆみ 家 田 修 岩 下 明 裕 宇 山 智 彦 WOLFF DAVID 田 畑 伸一郎	大学院文学研究科准教授 大学院文学研究科准教授 大学院文学研究科准教授 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院法学研究科准教授 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院法学研究科教授 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院獣医学研究科准教授 大学院水産科学研究院准教授 九州大学マス・フォア・インダストリ研究所教授 北方生物圏フィールド科学センター教授 大学院教育学研究院准教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 採用 大学院工学研究院准教授 大学院経済学研究科教授 大学院経済学研究科教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 採用 スラブ研究センター教授 スラブ研究センター教授 スラブ研究センター教授 スラブ研究センター教授 スラブ研究センター教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
スラブ・ユーラシア研究センター教授	山 村 理 人	スラブ研究センター教授
情報基盤センター教授	岩 下 武 史	京都大学学術情報メディアセンター准教授
北方生物圏フィールド科学センター教授	富士田 裕 子	北方生物圏フィールド科学センター准教授
人獣共通感染症リサーチセンター教授	伊 藤 公 人	人獣共通感染症リサーチセンター准教授
国際本部教授 (転出)	島 竜一郎	文部科学省大臣官房付
岩手大学農学部教授	山 崎 真 大	大学院獣医学研究科准教授
奈良女子大学研究院教授	吉 田 哲 也	大学院情報科学研究科准教授
弘前大学食料科学研究所教授	嵯 峨 直 恆	大学院水産科学研究院教授
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部准教授	田 中 直 伸	大学院薬学研究院助教
国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校校長	黒 川 一 哉	大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター教授
北海道教育大学教育学部教授	岡 田 忠 雄	北海道大学病院講師
東京大学大学院法学政治学研究科教授	松 里 公 孝	スラブ研究センター教授
佐賀大学国際交流推進センター教授	高 橋 彩	国際本部留学生センター准教授
【准教授】		
大学院法学研究科准教授	佐 藤 陽 子	熊本大学大学院法曹養成研究科准教授
大学院法学研究科准教授	前 田 亮 介	採用
大学院法学研究科准教授	米 田 雅 宏	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター准教授
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター准教授	根 本 尚 徳	大学院法学研究科准教授
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター准教授	中 島 岳 志	大学院法学研究科准教授
大学院経済学研究科准教授	齋 藤 久 光	九州大学大学院農学研究院助教
大学院経済学研究科准教授	満 園 勇	採用
大学院経済学研究科准教授	樋 渡 雅 人	大学院公共政策学連携研究部准教授
大学院歯学研究科准教授	藤 沢 隆 一	大学院歯学研究科助教
大学院獣医学研究科准教授	市 居 修	大学院獣医学研究科助教
大学院水産科学研究院准教授	上 野 洋 路	大学院水産科学研究院助教
大学院地球環境科学研究院准教授	小 泉 逸 郎	採用
大学院地球環境科学研究院准教授	三 輪 京 子	採用
大学院地球環境科学研究院准教授	吉 森 正 和	採用
大学院理学研究院准教授	川 本 思 心	採用
大学院理学研究院准教授	栗 谷 豪	採用
大学院理学研究院准教授	FORTUNATO MARTINS MARIA HELENA	採用
大学院農学研究科准教授	合 崎 英 男	採用
大学院農学研究科准教授	福 士 幸 治	大学院農学研究科講師
大学院農学研究科准教授	中 谷 朋 昭	大学院農学研究科助教
大学院教育学研究院准教授	厚 東 芳 樹	大学院教育学研究院助教
大学院工学研究院准教授	磯 部 公 一	長岡技術科学大学環境・建設系助教
大学院工学研究院准教授	千 葉 豪	大学院工学研究院助教
大学院工学研究院准教授	葛 隆 生	採用
大学院工学研究院准教授	松 島 永 佳	採用
大学院工学研究院准教授	山 根 啓 作	採用
大学院工学研究院准教授	渡 邊 直 子	採用
大学院公共政策学連携研究部准教授	田 中 啓 之	大学院法学研究科准教授
大学院公共政策学連携研究部准教授	村 上 裕 一	採用
低温科学研究所准教授	木 村 勇 気	東北大学大学院理学研究科助教
スラブ・ユーラシア研究センター准教授	越 野 剛	スラブ研究センター准教授
スラブ・ユーラシア研究センター准教授	兎 内 勇 津 流	スラブ研究センター准教授
スラブ・ユーラシア研究センター准教授	長 縄 宣 博	スラブ研究センター准教授
スラブ・ユーラシア研究センター准教授	野 町 素 己	スラブ研究センター准教授
アイヌ・先住民研究センター准教授	落 合 研 一	アイヌ・先住民研究センター助教
アイヌ・先住民研究センター准教授	蓑 島 栄 紀	採用
環境健康科学研究教育センター准教授	荒 木 敦 子	採用
国際本部留学生センター准教授	青 木 麻 衣 子	国際本部留学生センター講師
国際本部留学生センター准教授 (転出)	佐々田 博 教	採用
京都大学大学院人間・環境学研究科准教授	長谷川 千 尋	大学院文学研究科准教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
東北大学大学院法学研究科准教授	得 津 晶	大学院法学研究科准教授
岩手大学農学部准教授	落 合 謙 爾	大学院獣医学研究科准教授
京都大学大学院農学研究科准教授	中 川 聡	大学院水産科学研究院准教授
東京工業大学大学院理工学研究科准教授	米 田 剛	大学院理学研究院助教
東北大学病院准教授	山 口 浩 明	大学院薬学研究院准教授
東京大学東洋文化研究所准教授	青 山 和 佳	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
旭川医科大学教育研究推進センター准教授	竹 内 文 也	大学院保健科学研究院准教授
豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授	中 村 祐 二	大学院工学研究院准教授
東京工業大学大学院理工学研究科准教授	林 重 成	大学院工学研究院准教授
国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校准教授	吉 田 雅 紀	大学院工学研究院助教
【講師】		
大学院法学研究科講師	白 鳥 潤一郎	採用
大学院医学研究科講師	高 畑 雅 彦	北海道大学病院講師
北海道大学病院講師	小野寺 智 洋	大学院医学研究科助教
アイソトープ総合センター講師 (転出)	西 嶋 劍 一	採用
東京大学大学院経済学研究科講師	戸 村 肇	大学院経済学研究科准教授
【助教】		
大学院法学研究科助教	小 幡 宣 和	採用
大学院法学研究科助教	佐 藤 結 美	採用
大学院法学研究科助教	橋 場 典 子	採用
大学院法学研究科助教	BULL JONATHAN EDWARD	採用
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教	郭 薇	採用
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教	黄 淨 愉	採用
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教	倪 潤	採用
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教	比 良 友佳理	採用
大学院経済学研究科助教	王 磊	採用
大学院経済学研究科助教	黒 阪 健 吾	採用
大学院経済学研究科助教	中 村 将 人	採用
大学院経済学研究科助教	村 上 明 子	採用
大学院経済学研究科助教	村 上 理	採用
大学院医学研究科助教	猪 又 崇 志	採用
大学院医学研究科助教	内 田 洋 介	採用
大学院医学研究科助教	小野澤 真 弘	採用
大学院医学研究科助教	北 市 雄 士	採用
大学院医学研究科助教	佐 藤 大 介	採用
大学院医学研究科助教	藤 井 泰	採用
大学院医学研究科助教	村 上 壮 一	採用
大学院医学研究科助教	若 狭 哲	北海道大学病院助教
大学院歯学研究科助教	近 藤 美弥子	採用
大学院歯学研究科助教	平 田 恵 理	採用
大学院獣医学研究科附属動物病院助教	星 野 有 希	採用
大学院理学研究院助教	長谷部 高 広	採用
大学院メディア・コミュニケーション研究院助教	山 本 真 理	採用
大学院メディア・コミュニケーション研究院助教	李 鳳	採用
大学院保健科学研究院助教	高 橋 紀 子	採用
大学院保健科学研究院助教	村 田 恵 理	採用
大学院工学研究院助教	石 田 洋 平	採用
大学院工学研究院助教	小笠原 泰 志	採用
大学院工学研究院助教	TABELIN CARLITO BALTAZAR	採用
大学院工学研究院助教	藤 井 宏 之	採用
大学院工学研究院助教	藤 村 奈 央	採用
大学院工学研究院助教	山 崎 憲 慈	採用
北海道大学病院助教	赤 沼 正 堂	採用
北海道大学病院助教	小 川 浩 司	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院助教	加 藤 達 矢	採用
北海道大学病院助教	加 納 里 志	大学院医学研究科助教
北海道大学病院助教	木 下 留美子	採用
北海道大学病院助教	紅 林 奈央子	採用
北海道大学病院助教	莊 拓 也	採用
北海道大学病院助教	新 宮 康 栄	採用
北海道大学病院助教	高 尾 聖 心	採用
北海道大学病院助教	蛭 田 悠 子	採用
北海道大学病院助教	本 多 昌 平	採用
北海道大学病院助教	松 浦 妙 子	採用
北海道大学病院助教	宮 本 直 樹	採用
低温科学研究所助教	村 田 憲一郎	採用
電子科学研究所助教	KIM YUNA	採用
電子科学研究所助教	吉 田 力 矢	採用
遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター助教	河 村 佳 見	採用
スラブ・ユーラシア研究センター助教	後 藤 正 憲	スラブ研究センター助教
スラブ・ユーラシア研究センター助教	高 橋 沙奈美	スラブ研究センター助教
スラブ・ユーラシア研究センター助教	地 田 徹 朗	採用
スラブ・ユーラシア研究センター助教	森 下 嘉 之	採用
国際連携研究教育局助教 (出向復帰)	Ruijiang Li	採用
北海道大学病院助教 (転出)	入 江 徹	名寄市立総合病院
山梨県企画県民部富士山科学研究所主任研究員	吉 本 充 宏	大学院理学研究院助教
北海道教育大学	菅 原 健 太	大学院メディア・コミュニケーション研究院助教
島根大学医学部助教	飯 笹 久	遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター助教
【助手】 スラブ・ユーラシア研究センター助手	大須賀 美 香	スラブ研究センター助手
【特定専門職】 情報環境推進本部情報推進課特定専門職	吉 川 浩	採用
【局長】 (転出) 帯広畜産大学副学長・事務局長	多 田 晴 観	財務部長
【部長・副本部長】 財務部長 附属図書館事務部長 理学・生命科学事務部長 兼 理学・生命科学事務部事務課長 北海道大学病院事務部長 国際本部副本部長 (転出) 京都大学病院事務部長	福 治 友 英 富 田 健 市 小 谷 正 雄 田 中 宏 和 島 竜一郎 山 木 宏 明	大学評価・学位授与機構管理部長 岡山大学附属図書館事務部長 財務部調達課長 筑波大学病院総務部長 文部科学省大臣官房付 北海道大学病院事務部長
【次長】 総務企画部次長	多 谷 司	研究推進部次長 兼 研究推進部研究振興企画課長
【課長・事務長・室長】 総務企画部人事課厚生労務室長 財務部調達課長 学務部学務企画課長 学務部教育推進課長 学務部入試課長 施設部環境配慮促進課長 附属図書館利用支援課長 農学事務部事務長 メディア・観光学事務部事務長 工学系事務部総務課長	河 野 孝 紀 寺 澤 陸 吉 原 春 之 近 藤 俊 治 岡 林 精 二 永 井 雅 彦 豊 田 裕 昭 岩 淵 徹 也 植 西 勇 夫 太 田 裕 美	総務企画部人事課課長補佐 総務企画部広報課長 学務部教務課長 学務部入試課長 学務部教務課全学教育・総合教育推進室長 室蘭工業大学施設グループマネージャー 東北大学附属図書館情報サービス課長 北キャンパス合同事務部事務長 工学系事務部総務課長 総務企画部総務課課長補佐

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院医療支援課長	石 井 進	北海道大学病院医事課医療支援室長
国際本部国際連携課長	原 口 希	文部科学省科学技術・学術政策局政策課専門職
国際本部国際教務課長	小 形 徳 応	国際本部国際支援課長
国際本部国際支援課長 (出向復帰)	島 竜一郎	文部科学省大臣官房付
総務企画部広報課長	浅 野 賢 二	北海道教育大学総務部人事課長
研究推進部研究振興企画課長	勝 山 憲 明	帯広畜産大学経営管理部財務課長
北キャンパス合同事務部事務長 (出向)	六 家 英 紀	国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校総務課長
北海道教育大学総務部人事課長	阿 部 康 成	総務企画部人事課厚生労務室長
国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校総務課長 (転出)	高 野 雅 広	財務部経理課課長補佐
筑波大学施設部施設整備課長	津 山 謙 一	施設部施設企画課課長補佐
一橋大学学術・図書部学術情報課長	鈴 木 宏 子	附属図書館利用支援課長
人間文化研究機構企画課長	五味田 将	国際本部国際連携課長
室蘭工業大学施設グループマネージャー	武 田 裕 二	事務局付
国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課長	小笠原 守	国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課長出向中
【補佐】		
総務企画部総務課課長補佐	金 川 真 行	総務企画部広報課課長補佐
総務企画部総務課課長補佐	佐 藤 浩 司	国際本部国際連携課課長補佐
総務企画部広報課課長補佐	清 水 智 之	総務企画部総務課係長
総務企画部人事課課長補佐	平 松 亨	総務企画部企画課課長補佐
学務部学務企画課課長補佐	佐々木 尊	学務部教務課課長補佐
学務部学務企画課課長補佐	的 野 裕 司	学務部教務課課長補佐
学務部教育推進課課長補佐	池 田 徹	工学系事務部総務課課長補佐
学務部教育推進課課長補佐	菅 原 暢 廣	医学系事務部総務課課長補佐
施設部施設企画課課長補佐	長谷川 裕	施設部環境配慮促進課課長補佐
附属図書館管理課課長補佐	鶴 澤 和 往	附属図書館学術システム課係長
附属図書館利用支援課課長補佐	金 子 敏	附属図書館利用支援課付係長
医学系事務部総務課課長補佐	山 本 透	学務部教務課専門員
北海道大学病院医療支援課課長補佐	紙 丸 雅 実	北海道大学病院医事課医療支援室室長補佐
北海道大学病院医療支援課課長補佐	堀 川 まゆみ	北海道大学病院医事課医療支援室係長
国際本部国際連携課課長補佐 (出向復帰)	鴨志田 敏 則	医学系事務部総務課課長補佐
総務企画部企画課課長補佐	及 川 晃 男	室蘭工業大学総務グループコーディネーター
施設部環境配慮促進課課長補佐 (出向)	板 井 義 喜	北海道教育大学財務部施設課副課長
帯広畜産大学経営管理部施設課課長補佐	成 田 芳 道	施設部環境配慮促進課係長
室蘭工業大学総務グループコーディネーター	蟹 口 宏 幸	文学研究科・文学部係長
室蘭工業大学地域連携推進コーディネーター	松 橋 和 哉	医学系事務部会計課係長
【専門員】		
総務企画部総務課安全衛生室専門員	原 田 由 美	工学系事務部総務課係長
総務企画部広報課専門員	平 林 晴 樹	総務企画部広報課係長
函館キャンパス事務部専門員	高 橋 寛 子	研究推進部研究振興企画課係長
国際本部国際教務課専門員	河 野 公 美	国際本部国際支援課専門員
【係長】		
総務企画部総務課係長	泉 澤 成 実	理学・生命科学事務部事務課係長
総務企画部企画課係長	今 野 日出男	法学研究科・法学部係長
総務企画部人事課係長	笹 原 聡	函館キャンパス事務部係長
総務企画部人事課係長	原 田 貢	北キャンパス合同事務部係長
総務企画部人事課係長	前 島 朋 基	理学・生命科学事務部事務課係長
財務部主計課係長	橋 場 学 博	北海道大学病院管理課係長
財務部経理課係長	正 木 一 宏	財務部資産運用管理課係長
学務部学務企画課係長	稻 葉 正 思	学務部教務課主任
学務部学務企画課係長	岡 村 康 司	学務部教務課係長
学務部学務企画課係長	永 澤 弘 子	学務部教務課係長

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
学務部学務企画課係長	藤 井 恵美子	学務部教務課係長
学務部学務企画課係長	芳 岡 洋	学務部教務課係長
学務部教育推進課係長	川 崎 直	学務部教務課係長
学務部教育推進課係長	土 本 光 一	学務部教務課全学教育・総合教育推進室係長
学務部教育推進課係長	奴 賀 修	学務部教務課全学教育・総合教育推進室係長
学務部学生支援課係長	一ノ戸 幸 宏	工学系事務部情報科学研究科事務課係長
学務部キャリアセンター係長	能 代 久 幸	学務部学生支援課係長
研究推進部研究振興企画課係長	勘 原 和 彦	総務企画部企画課係長
研究推進部産学連携課係長	千日坂 和 彦	北海道大学病院総務課係長
施設部施設企画課係長	大 江 健一郎	施設部施設整備課係長
施設部環境配慮促進課係長	押 田 聡	施設部施設企画課係長
施設部環境配慮促進課係長	早乙女 一 徳	施設部施設整備課係長
施設部環境配慮促進課係長	東 泰 彦	東京工業大学施設運営部施設総合企画課主任
施設部施設整備課係長	田 中 陽 二	施設部環境配慮促進課係長
施設部施設整備課係長	中 谷 康 範	小樽商科大学施設課設備係長
附属図書館管理課係長	佐 藤 洋 子	薬学事務部係長
附属図書館管理課係長	堀 越 邦 恵	附属図書館利用支援課係長
附属図書館利用支援課付係長	東 朋 子	国立国会図書館利用者サービス部科学技術・経済課副主査
附属図書館利用支援課付係長	土 田 健 治	附属図書館管理課係長
附属図書館学術システム課係長	梶 原 茂 寿	附属図書館利用支援課付係長
文学研究科・文学部係長	大 峽 賢 也	工学系事務部総務課係長
法学研究科・法学部係長	鈴 木 正 章	農学事務部係長
法学研究科・法学部係長	橋 本 匠 司	理学・生命科学事務部事務課係長
経済学研究科・経済学部係長	澤 田 浩 一	工学系事務部教務課係長
医学系事務部会計課係長	木 村 一 男	医学系事務部総務課係長
医学系事務部会計課係長	笹 川 文 子	財務部経理課係長
函館キャンパス事務部係長	瀬 川 貢	北海道大学病院管理課主任
環境科学事務部係長	小 島 将 人	附属図書館管理課係長
理学・生命科学事務部事務課係長	伊 東 武 志	総務企画部人事課係長
理学・生命科学事務部事務課係長	齋 藤 嘉 光	工学系事務部教務課係長
理学・生命科学事務部事務課係長	武 藤 幹 夫	医学系事務部保健科学研究所事務課係長
薬学事務部係長	村 岡 英 明	教育学事務部係長
農学事務部係長	阿 部 裕 幸	薬学事務部係長
農学事務部係長	水 上 真 吾	工学系事務部情報科学研究科事務課係長
教育学事務部係長	小 島 清 志	総務企画部人事課厚生労務室係長
工学系事務部総務課係長	泉 澤 芳 史	農学事務部係長
工学系事務部総務課係長	久 米 繁 輝	北海道大学病院総務課係長
工学系事務部総務課係長	寺 下 雅 子	医学系事務部総務課主任
工学系事務部教務課係長	池 野 奈保子	学務部教務課全学教育・総合教育推進室主任
工学系事務部教務課係長	猿 橋 史 章	工学系事務部教務課主任
工学系事務部教務課係長	山 本 直 美	工学系事務部教務課主任
工学系事務部情報科学研究科事務課係長	土 井 将 義	総務企画部総務課主任
工学系事務部情報科学研究科事務課係長	山 羽 好 幸	環境科学事務部係長
北海道大学病院総務課係長	江 戸 将 人	北海道大学病院医事課医療支援室係長
北海道大学病院総務課係長	竹 本 樹	北方生物圏フィールド科学センター係長
北海道大学病院経営企画課係長	齋 藤 洋 史	帯広畜産大学監査室会計監査係長
北海道大学病院管理課係長	菅 野 崇	北海道大学病院経営企画課係長
北海道大学病院管理課係長	坂 口 周 之	北方生物圏フィールド科学センター係長
北海道大学病院医事課係長	田 中 浩 文	情報環境推進本部情報推進課係長
北海道大学病院医療支援課係長	岩 部 もゆみ	北海道大学病院総務課係長
北海道大学病院医療支援課係長	折 田 朋 子	北海道大学病院総務課係長
北海道大学病院医療支援課係長	幕 田 典 子	北海道大学病院医事課医療支援室係長
北海道大学病院医療支援課係長	峯 田 学	北海道大学病院医事課医療支援室係長
北海道大学病院医療支援課係長	吉 井 洋	農学事務部係長
北海道大学病院医療支援課係長	米 川 憲 司	総務企画部総務課安全衛生室係長
北海道大学病院医療支援課係長	山 本 明 広	薬学事務部主任
北方生物圏フィールド科学センター係長	江 島 正 博	学務部キャリアセンター係長

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
情報環境推進本部情報推進課係長	白 川 孝 子	総務企画部総務課係長
国際本部国際教務課係長	片 野 靖 子	国際本部国際連携課係長
国際本部国際教務課係長	細 田 淳 子	理学・生命科学事務部事務課係長
国際本部国際教務課係長	馬 淵 奈 美	国際本部国際支援課係長
北キャンパス合同事務部係長 (出向復帰)	千 葉 良 秀	情報環境推進本部情報推進課係長
財務部主計課係長	猫 塚 和 美	北海道教育大学財務部財務課係長
財務部経理課係長	澁 谷 勇 一	国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校総務課調達係長
研究推進部外部資金戦略課係長	齊 藤 学	国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校総務課施設管理係長
施設部環境配慮促進課係長	梅 原 和 俊	北海道教育大学財務部施設課係長
附属図書館利用支援課係長	野 中 雄 司	室蘭工業大学図書・学術情報事務室ユニットリーダー
附属図書館利用支援課付係長	磯 本 善 男	北見工業大学情報図書課係長
医学系事務部保健科学研究所事務課係長	大 林 豊	旭川医科大学総務部総務課人事第二係長
農学事務部係長	山 下 敦 子	国立青少年教育振興機構国立日高青少年交流の家総務係長
北方生物圏フィールド科学センター係長 (出向)	福 井 将 人	北見工業大学総務課係長
帯広畜産大学教育研究支援部学務課学務企画係長	大 瀧 恵 二	総務企画部企画課主任
北海道教育大学財務部財務課係長	村 井 利 光	財務部主計課主任
国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校総務課施設管理係長	高 橋 尚 志	施設部環境配慮促進課係長
小樽商科大学施設課整備係長	相 原 寛 樹	施設部環境配慮促進課主任
北見工業大学情報図書課係長	池 田 幸 代	附属図書館利用支援課
室蘭工業大学図書・学術情報事務室ユニットリーダー	千 葉 浩 之	附属図書館利用支援課
国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校総務課財務係長 (転出)	尾留川 瑞 樹	理学・生命科学事務部事務課主任
北海道教育大学財務部施設課係長	嶋 田 照 昭	施設部環境配慮促進課係長
【主任】		
監査室主任	脇 坂 恭 匡	監査室
総務企画部総務課主任	奥 野 力	総務企画部総務課
総務企画部広報課主任	高 口 幸 恵	総務企画部人事課厚生労務室主任
財務部調達課主任	澤 谷 講 平	財務部調達課
財務部資産運用管理課主任	長谷川 尚 雄	財務部資産運用管理課
学務部学務企画課主任	安 達 孝 徳	医学系事務部総務課主任
学務部学務企画課主任	児 玉 直 樹	学務部教務課主任
学務部学務企画課主任	佐々木 学	学務部教務課主任
学務部学務企画課主任	長谷川 修 平	学務部教務課主任
学務部教育推進課主任	千 葉 浩 二	学務部教務課主任
学務部教育推進課主任	波多野 訓 広	学務部教務課全学教育・総合教育推進室
学務部教育推進課主任	山 田 真 美	学務部教務課全学教育・総合教育推進室
学務部学生支援課主任	谷 忍	法学研究科・法学部係長
研究推進部外部資金戦略課主任	山 添 晃 伸	研究推進部外部資金戦略課
施設部施設整備課主任	池 森 一 之	施設部施設整備課
施設部施設整備課主任	鈴 木 英 紀	旭川医科大学総務部施設課建築整備係主任
法学研究科・法学部主任	長谷川 桃 子	情報環境推進本部情報推進課主任
法学研究科・法学部主任	山 内 大 造	法学研究科・法学部
医学系事務部総務課主任	大 西 朋 子	医学系事務部総務課
医学系事務部会計課主任	山 本 祐 巳	北海道大学病院医事課主任
獣医学研究科・獣医学部主任	古 坐 要	北海道大学病院総務課主任
函館キャンパス事務部主任	畑 中 多 恵	函館キャンパス事務部
理学・生命科学事務部事務課主任	山 本 真 希	理学・生命科学事務部事務課
教育学事務部主任	吉 泉 綾	教育学事務部
メディア・観光学事務部主任	伊 藤 房 枝	学務部教務課全学教育・総合教育推進室主任
工学系事務部総務課主任	秋 元 ふみか	工学系事務部総務課
工学系事務部総務課主任	佐 藤 哲 也	理学・生命科学事務部事務課主任
工学系事務部教務課主任	高 原 めぐみ	工学系事務部教務課
工学系事務部教務課主任	穂 莉 陽 子	国際本部国際連携課主任
工学系事務部情報科学研究科事務課主任	昔 農 尚 子	工学系事務部情報科学研究科事務課
北海道大学病院管理課主任	昔 農 清 岳	医学系事務部会計課主任

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院管理課主任	高 梨 信 人	北海道大学病院管理課
北海道大学病院管理課主任	垂 井 智 広	北海道大学病院管理課
北海道大学病院医事課主任	北 野 修 司	農学事務部主任
北海道大学病院医療支援課主任	中 村 澄 人	北海道大学病院総務課主任
北海道大学病院医療支援課主任	西 谷 篤	北海道大学病院医事課医療支援室
北海道大学病院医療支援課主任	初 山 貴	北海道大学病院医事課医療支援室主任
北海道大学病院診療支援部主任	斉 藤 かおり	北海道大学病院診療支援部
低温科学研究所主任	渡 辺 香 織	低温科学研究所
情報環境推進本部情報推進課主任	白 取 靖 子	工学系事務部経理課主任
情報環境推進本部情報推進課主任	瀬 崎 修 一	北海道大学病院管理課主任
国際本部国際支援課主任	安 齊 愛 郎	国際本部国際支援課
国際本部国際支援課主任 (出向復帰)	渡 辺 明	国際本部国際連携課主任
学務部入試課主任	西 東 宏 章	独立行政法人大学入試センター事業部事業第一課
研究推進部研究振興企画課主任	中 原 大 輔	帯広畜産大学経営管理部総務課人事・労務係主任
研究推進部外部資金戦略課主任	亀 山 尚 枝	独立行政法人日本学術振興会総務部研究者養成課主任
国際本部国際教務課主任 (出向)	嘉 見 拓 也	旭川医科大学総務部会計課契約第二係主任
日本学術振興会研究事業部研究助成第二課主任	上 田 敦	研究推進部外部資金戦略課
旭川医科大学会計課主任 (転出)	表 山 尚 史	研究推進部外部資金戦略課
東京大学	鈴 木 みづ穂	東京大学医学部附属病院総務課主任出向中
【係員】		
総務企画部総務課	富 塚 直 樹	研究推進部研究振興企画課
総務企画部企画課	浅 野 泰 規	財務部経理課
総務企画部企画課	松 村 恭 子	総務企画部人事課
総務企画部人事課	西 村 孔 佑	学務部入試課
総務企画部人事課厚生労務室	鈴 木 佑	総務企画部人事課
総務企画部人事課厚生労務室	武 田 朋 子	採用
財務部主計課	越 前 圭 伍	総務企画部企画課
財務部経理課	有 田 貴 博	函館キャンパス事務部
財務部調達課	小野寺 沙 織	採用
財務部調達課	木 島 晋	採用
財務部資産運用管理課	山 田 祐 輔	採用
学務部学務企画課	小 林 彩 希	総務企画部広報課
学務部学務企画課	田 島 恵理子	学務部教務課
学務部学務企画課	増 田 小 春	学務部教務課
学務部教育推進課	近 正 竜 希	学務部教務課全学教育・総合教育推進室
学務部教育推進課	橘 明日香	学務部教務課全学教育・総合教育推進室
学務部教育推進課	永 須 均	学務部教務課
学務部学生支援課	西 尾 慎一郎	北海道大学病院医事課
学務部学生支援課	林 健太郎	採用
研究推進部研究振興企画課	大 坪 智 子	獣医学研究科・獣医学部
研究推進部外部資金戦略課	遠 藤 真 好	北海道大学病院管理課
研究推進部外部資金戦略課	安 井 詩 絵	採用
研究推進部産学連携課	能 田 昌 久	文化庁文化財部伝統文化課
附属図書館管理課	根 本 萌	採用
附属図書館管理課	村 木 麻衣子	附属図書館利用支援課
附属図書館利用支援課	梶 谷 晶 子	附属図書館学術システム課
附属図書館利用支援課	清 重 周太郎	採用
附属図書館利用支援課	河 野 由香里	附属図書館管理課
附属図書館利用支援課	長 嶋 岳 生	附属図書館管理課
附属図書館利用支援課	丸 山 絢 子	採用
附属図書館学術システム課	高 石 しのぶ	附属図書館利用支援課付
文学研究科・文学部	宮 崎 薫	採用
法学研究科・法学部	野 入 由起子	医学系事務部総務課
経済学研究科・経済学部	河 野 未 幸	研究推進部外部資金戦略課

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
医学系事務部総務課	安 藤 優 記	採用
医学系事務部総務課	蝦 名 京 子	獣医学研究科・獣医学部
医学系事務部総務課	佐 脇 康 仁	メディア・観光学事務部
医学系事務部会計課	長谷川 達 也	採用
獣医学研究科・獣医学部	加 藤 隆 之	理学・生命科学事務部事務課
獣医学研究科・獣医学部	菊 川 義 彦	国際本部国際支援課
獣医学研究科・獣医学部	竹 道 祐里佳	採用
函館キャンパス事務部	東 野 友 泰	農学事務部
理学・生命科学事務部事務課	猪 瀬 昌 信	採用
理学・生命科学事務部事務課	尾 形 昌 信	工学系事務部経理課
理学・生命科学事務部事務課	小 林 康 子	北海道大学病院医事課
理学・生命科学事務部事務課	谷 口 桃 子	財務部調達課
理学・生命科学事務部事務課	間 口 久美子	文学研究科・文学部
理学・生命科学事務部事務課	横 山 沙 織	北海道大学病院総務課
薬学事務部	伊 藤 淑 恵	経済学研究科・経済学部
薬学事務部	宮 坂 光 春	研究推進部外部資金戦略課
農学事務部	小 原 大 和	北キャンパス合同事務部
農学事務部	木 下 真 純	採用
農学事務部	下 條 春 香	教育学事務部
教育学事務部	五十嵐 猛 朗	理学・生命科学事務部事務課
メディア・観光学事務部	竹之内 希	環境科学事務部
メディア・観光学事務部	渡 辺 巧 也	採用
工学系事務部経理課	田 中 昌 平	函館キャンパス事務部
工学系事務部教務課	野 島 比奈江	学務部学生支援課
北海道大学病院総務課	岩 下 僚	採用
北海道大学病院総務課	鈴 木 里 奈	獣医学研究科・獣医学部
北海道大学病院管理課	砂 田 朔	採用
北海道大学病院医事課	大 山 夏 未	採用
北海道大学病院医事課	富 岡 悟	採用
北海道大学病院医療支援課	朝 野 麻 衣	北海道大学病院医事課医療支援室
北海道大学病院医療支援課	大 橋 友 香	北海道大学病院医事課医療支援室
北海道大学病院医療支援課	木ノ内 明	北海道大学病院総務課
北海道大学病院医療支援課	齋 藤 恵里佳	北海道大学病院医事課医療支援室
北海道大学病院医療支援課	杉 本 由 佳	北海道大学病院医事課医療支援室
北海道大学病院医療支援課	藤 島 直	総務企画部企画課
北海道大学病院医療支援課	三 浦 巖	北海道大学病院医事課医療支援室
低温科学研究所	細 木 杏 奈	採用
情報環境推進本部情報推進課	沼 倉 明紗美	工学系事務部総務課
国際本部国際連携課	菅 原 由紀子	薬学事務部
国際本部国際支援課	ハース 千佳子	国際本部国際連携課
国際本部国際教務課	池 森 千 郎	国際本部国際支援課
国際本部国際教務課	片 垣 麻理子	国際本部国際支援課
国際本部国際教務課	佐 川 浩 太	国際本部国際連携課
国際本部国際教務課	高 木 敦 子	国際本部国際支援課
国際本部国際教務課	竹 内 亮 太	国際本部国際支援課
北キャンパス合同事務部 (出向復帰)	片 岡 玄 吉	採用
北海道大学病院管理課 (出向)	河 内 洋 祐	国立青少年教育振興機構国立大雪青少年交流の家
国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課	窪 田 陽 菜	理学・生命科学事務部事務課
帯広畜産大学経営管理部財務課	内 野 江 香	メディア・観光学事務部
国立青少年教育振興機構国立大雪青少年交流の家	宮 崎 脩 平	情報環境推進本部情報推進課
【技術職員等】		
水産学部附属練習船おしよろ丸機関長	佐 藤 淳 一	水産学部附属練習船おしよろ丸一等機関士
水産学部附属練習船おしよろ丸一等機関士	沢 中 和 也	水産学部附属練習船おしよろ丸二等機関士
水産学部附属練習船おしよろ丸二等機関士	進 藤 謙 一	水産学部附属練習船おしよろ丸三等機関士
水産学部附属練習船おしよろ丸三等機関士	横 川 雄 高	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
水産学部附属練習船おしよる丸司厨長	森 広 元	水産学部附属練習船うしお丸司厨長
水産学部附属練習船おしよる丸司厨次長	中 村 博	水産学部附属練習船おしよる丸司厨手
水産学部附属練習船おしよる丸操機手	村 上 亨	水産学部附属練習船うしお丸操機手
水産学部附属練習船おしよる丸司厨員	秋 涼 麻	採用
水産学部附属練習船うしお丸司厨長	石 川 一 生	水産学部附属練習船おしよる丸司厨次長
水産学部附属練習船うしお丸機関員	荒 川 隆 亮	水産学部附属練習船おしよる丸機関員
大学院工学研究院技術専門員	吉 田 明 彦	大学院工学研究院技術専門職員
大学院工学研究院技術専門職員	佐 藤 健 二	大学院工学研究院
大学院工学研究院	近 藤 健 太	採用
大学院工学研究院	谷 内 翔	採用
大学院理学研究院技術専門職員	佐々木 康 隆	大学院理学研究院
大学院理学研究院技術専門職員	中 村 晃 輔	大学院理学研究院
大学院農学研究院技術専門職員	安 井 雅 範	大学院農学研究院
北海道大学病院薬剤部麻薬管理室長	沖 洋 充	北海道大学病院薬剤部薬品管理室長
北海道大学病院薬剤部薬品管理室長	熊 井 正 貴	北海道大学病院薬剤部薬剤師
北海道大学病院薬剤部薬剤師	田 澤 佑 基	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	池 上 一 平	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	及 川 和 典	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	片 山 真 育	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	黒 川 瞳	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	小 泉 貴 寛	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	小 林 准	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	小 柳 遼	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	長 崎 大 亮	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	新 沼 悠 介	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	松 本 健 矢	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	山 神 彰	採用
北海道大学病院看護部副看護部長	山 谷 敦 子	北海道大学病院看護部看護師長
北海道大学病院看護部看護師長	秋田谷 明 弘	北海道大学病院看護部副看護師長
北海道大学病院看護部看護師長	伊 藤 千奈美	北海道大学病院看護部副看護師長
北海道大学病院看護部副看護師長	秋 田 珠 実	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	垣 内 寛 子	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	長 田 靖 子	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	平 松 己央子	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	若 本 香 奈	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部看護師	伊 藤 香 織	採用
北海道大学病院看護部看護師	江 崎 景 子	九州大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部看護師	岡 部 彩 未	採用
北海道大学病院看護部看護師	小 倉 未由季	採用
北海道大学病院看護部看護師	片 岡 美 穂	採用
北海道大学病院看護部看護師	加 藤 綾 華	採用
北海道大学病院看護部看護師	川 上 ちひろ	採用
北海道大学病院看護部看護師	河 尻 笑 美	採用
北海道大学病院看護部看護師	神 戸 あすか	採用
北海道大学病院看護部看護師	菊 池 奈々子	採用
北海道大学病院看護部看護師	菊 地 愛 実	採用
北海道大学病院看護部看護師	久 保 史 華	採用
北海道大学病院看護部看護師	斎 藤 学	採用
北海道大学病院看護部看護師	白 鳥 彩	採用
北海道大学病院看護部看護師	須 藤 菜月美	採用
北海道大学病院看護部看護師	田 中 美 帆	旭川医科大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部看護師	中 村 智 美	採用
北海道大学病院看護部看護師	野 田 美 帆	採用
北海道大学病院看護部看護師	菱 岡 なお子	採用
北海道大学病院看護部看護師	真 壁 郁 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	美 浪 良 恵	採用
北海道大学病院看護部看護師	森 池 奈津美	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部准看護師	渡 邊 祐 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	青 山 美 穂	採用
北海道大学病院看護部看護助手	秋 元 菜 那	採用
北海道大学病院看護部看護助手	阿 部 彩 加	採用
北海道大学病院看護部看護助手	阿 部 文 香	採用
北海道大学病院看護部看護助手	天 野 北 斗	採用
北海道大学病院看護部看護助手	荒 井 瞳	採用
北海道大学病院看護部看護助手	伊 藤 由 梨	採用
北海道大学病院看護部看護助手	梅 林 秀 行	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 石 祥 枝	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 塚 広 貴	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 友 里 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 橋 華 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	岡 千 絵	採用
北海道大学病院看護部看護助手	笠 嶋 結 那	採用
北海道大学病院看護部看護助手	川 浪 こずえ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	川 村 まりあ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	北 村 優 衣	採用
北海道大学病院看護部看護助手	木 下 知 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	久 保 恩	採用
北海道大学病院看護部看護助手	栗 栖 優 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	桑 島 彩	採用
北海道大学病院看護部看護助手	桑 原 舞 衣	採用
北海道大学病院看護部看護助手	桑 山 ありさ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	児 島 美 咲	採用
北海道大学病院看護部看護助手	後 藤 なつみ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	小 林 沙 矢	採用
北海道大学病院看護部看護助手	小 林 凌	採用
北海道大学病院看護部看護助手	坂 田 綾 乃	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐々木 沙 耶	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 朱 音	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 吏 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	澤 辺 千 夏	採用
北海道大学病院看護部看護助手	柴 田 真 志	採用
北海道大学病院看護部看護助手	島 田 美 優	採用
北海道大学病院看護部看護助手	城 市 理 佐	採用
北海道大学病院看護部看護助手	鈴 木 直 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	高 橋 由 衣	採用
北海道大学病院看護部看護助手	武 田 莉 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	田 中 舞	採用
北海道大学病院看護部看護助手	種 田 夢 乃	採用
北海道大学病院看護部看護助手	津 野 咲 季	採用
北海道大学病院看護部看護助手	寺 井 美紗都	採用
北海道大学病院看護部看護助手	外 村 朋 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	鳥 羽 園 実	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 西 舞 亜紗	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 島 理 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 谷 妃 希	採用
北海道大学病院看護部看護助手	夏 伐 彩 華	採用
北海道大学病院看護部看護助手	難 波 亨	採用
北海道大学病院看護部看護助手	西 山 晶 絵	採用
北海道大学病院看護部看護助手	沼 田 愛	採用
北海道大学病院看護部看護助手	野 口 友 菜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	服 部 しのぶ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	久 井 優 紀	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護助手	平 井 なつみ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	藤 田 晃	採用
北海道大学病院看護部看護助手	古 澤 彩 佳	採用
北海道大学病院看護部看護助手	古 矢 華 江	採用
北海道大学病院看護部看護助手	増 田 瑛 穂	採用
北海道大学病院看護部看護助手	増 山 飛 鳥	採用
北海道大学病院看護部看護助手	松 井 夕 李	採用
北海道大学病院看護部看護助手	松 下 佑 太	採用
北海道大学病院看護部看護助手	松 橋 なつ美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	松 本 佳 菜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	松 本 奏 絵	採用
北海道大学病院看護部看護助手	水 口 真 衣	採用
北海道大学病院看護部看護助手	南 早 紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	村 上 萌	採用
北海道大学病院看護部看護助手	村 田 知 弥	採用
北海道大学病院看護部看護助手	本 平 彩	採用
北海道大学病院看護部看護助手	森 谷 美 里	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 川 恵里奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 本 彩 乃	採用
北海道大学病院看護部看護助手	吉 田 佳 純	採用
北海道大学病院看護部看護助手	吉 田 鈴	採用
北海道大学病院看護部看護助手	渡 部 舞 子	採用
北海道大学病院診療支援部長	堀 享 一	北海道大学病院診療支援部理学療法士
北海道大学病院診療支援部副診療放射線技師長	山 下 道 明	北海道大学病院診療支援部主任診療放射線技師
北海道大学病院診療支援部主任診療放射線技師	堀 田 賢 治	北海道大学病院診療支援部診療放射線技師
北海道大学病院診療支援部主任診療放射線技師	宗 像 大 和	北海道大学病院診療支援部診療放射線技師
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師	浅 野 有加里	採用
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師	一 宇 佑 太	採用
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師	葛 西 克 彦	採用
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師	佐 藤 泰 彦	採用
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師	吉 富 敬 祐	岡山大学病院医療技術部診療放射線技師
北海道大学病院診療支援部臨床検査技師	藤 田 和華子	採用
北海道大学病院診療支援部臨床検査技師	眞 鍋 智 代	採用
北海道大学病院診療支援部臨床検査技師	望 月 抄 苗	採用
北海道大学病院診療支援部理学療法士	河 内 綾 乃	採用
北海道大学病院診療支援部作業療法士	吉 田 奈 美	採用
低温科学研究所技術専門職員	加 藤 由佳子	低温科学研究所
北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	市 川 秀 雄	北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員
北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	上 浦 達 哉	北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員
北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	伊 藤 欣 也	北方生物圏フィールド科学センター
北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	内 野 紀 彦	北方生物圏フィールド科学センター
北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	實 吉 智香子	北方生物圏フィールド科学センター
情報環境推進本部情報推進課技術専門職員	相 馬 崇 宏	情報環境推進本部情報推進課
技術支援本部付 (大学院医学研究科) 技術専門職員	児矢野 英 典	技術支援本部付 (大学院医学研究科)
技術支援本部付 (創成研究機構) 技術専門職員	忍 典 昭	技術支援本部付 (創成研究機構)
技術支援本部付 (創成研究機構) 技術専門職員	吉 沢 友 和	技術支援本部付 (創成研究機構)
技術支援本部付 (創成研究機構)	藤 島 葵	採用
子どもの園保育園保育士	伊 川 明 希	採用
子どもの園保育園保育士 (出向復帰)	三 浦 貴 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	野 村 歩 加	東京医科歯科大学医学部附属病院看護部看護師
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師 (出向)	水 戸 寿々子	秋田大学医学部附属病院中央放射線部診療放射線技師
岡山大学病院医療技術部診療放射線技師 (転出)	濱 口 裕 行	北海道大学病院診療支援部診療放射線技師

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院特任准教授	佐 藤 直 樹	
【特任講師 (再雇用)】 大学院保健科学研究所特任講師	河 野 仁 志	
【特任助教 (再雇用)】 水産学部附属練習船うしお丸特任助教 大学院歯学研究科特任助教 大学院歯学研究科特任助教 大学院歯学研究科特任助教 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター特任助教 大学院工学研究院特任助教 大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター特任助教	木 村 修 佐 藤 隆 文 西 方 眞 水 野 守 道 森 濟 水 田 洋 谷 津 茂 男	
【特任助手 (再雇用)】 大学院法学研究科特任助手	杉 山 園 子	
【嘱託職員 (再雇用)】 総務企画部広報課 財務部経理課 財務部調達課 財務部調達課 財務部調達課 学務部学務企画課 研究推進部研究振興企画課 研究推進部外部資金戦略課 研究推進部外部資金戦略課 研究推進部外部資金戦略課 施設部付 施設部環境配慮促進課 医学系事務部会計課 大学院歯学研究科 水産学部附属練習船おしよる丸司厨員 大学院理学研究院 農学事務部 工学系事務部経理課 北海道大学病院看護部 北海道大学病院診療支援部 北海道大学病院栄養管理部 北海道大学病院医療支援課 北海道大学病院医療支援課 北海道大学病院医療支援課 情報環境推進本部情報推進課 安全衛生本部 安全衛生本部	向井地 博 之 岩 渕 良二郎 熊 谷 政 博 堀 江 秀 男 松 本 治 宇 田 省 治 今 田 純 一 片 岡 平 和 松 本 順 子 丸 山 浩 三 長 井 一 夫 阿 部 公 子 石 川 信 行 本 間 義 幸 高 橋 勉 小 川 正 人 竹 田 充 大 井 芳 美 工 藤 郁 子 内 藤 智 浩 高 橋 弥 生 仲 知 保 徳 田 由 紀 若 松 智 恵 子 辻 満 加 我 順 一 野 崎 秀 雄	財務部調達課 財務部資産運用管理課 財務部経理課 工学系事務部経理課 学務部教務課 北海道大学病院管理課 北海道大学病院総務課 施設部施設整備課 北海道大学病院医事課医療支援室 研究推進部外部資金戦略課 施設部環境配慮促進課 財務部調達課 北海道大学病院医事課医療支援室 財務部調達課 法学研究科・法学部

新任副学長・部局長等紹介

平成26年4月1日付

副学長，人材育成本部長に



もちづき つねこ 教授
望月 恒子 教授

本学のガバナンス体制を強化するため、理事が兼務しない副学長を新たに置くこととし、副学長，人材育成部長として望月恒子教授が発令されました。

任期は，平成27年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和28年8月4日
 昭和51年3月 東京大学文学部卒業
 昭和53年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了
 昭和58年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位修得退学
 平成6年4月 北海道大学文学部助教授
 平成12年4月 北海道大学大学院文学研究科助教授
 平成17年3月 北海道大学大学院文学研究科教授
 平成18年4月 } 北海道大学大学院文学研究科副研究科長
 平成20年3月 }
 平成20年4月 } 北海道大学大学院文学研究科研究科長
 平成22年3月 }
 平成23年4月 北海道大学附属図書館北図書館長

副学長，生命科学院長に



やまぐち じゅんじ 教授
山口 淳二 教授

本学のガバナンス体制を強化するため、理事が兼務しない副学長を新たに置くこととし、副学長として山口淳二教授が発令されました。

任期は，平成27年3月31日までです。

また，平成26年3月31日限りで高橋

孝行生命科学院長が任期満了となり，その後任として山口淳二教授が発令されました。

任期は，平成28年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和31年6月23日
 昭和56年3月 埼玉大学理学部卒業
 昭和58年3月 名古屋大学農学研究科博士課程（前期）修了
 昭和61年3月 名古屋大学農学研究科博士課程（後期）修了
 昭和60年10月 日本学術振興会特別研究員
 昭和61年11月 日本学術振興会海外特別研究員
 昭和62年11月 名古屋大学農学部助手
 平成7年2月 名古屋大学生物分子応答研究センター助教授
 平成13年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
 平成15年4月 } 科学技術振興調整費研究領域主管（非常勤）
 平成21年5月 }
 平成18年4月 北海道大学大学院先端生命科学研究院教授
 平成22年4月 北海道大学大学院理学研究院教授
 平成22年10月 } 北海道大学高等教育推進機構副機構長，役員補佐
 平成26年3月 }

文学研究科長・文学部長に



しらきざわ あきひこ 教授
白木沢 旭児 教授

平成26年3月31日限りで弐 和順文学研究科長・文学部長が任期満了となり，その後任として白木沢旭児教授が発令されました。

任期は，平成28年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和34年1月1日
 昭和57年3月 京都大学文学部卒業
 昭和60年3月 京都大学大学院農学研究科修士課程修了
 昭和63年3月 京都大学大学院農学研究科博士課程単位修得退学
 昭和63年4月 佐賀大学経済学部講師
 平成元年4月 佐賀大学経済学部助教授
 平成2年10月 北海道大学文学部助教授
 平成12年4月 北海道大学大学院文学研究科助教授
 平成14年1月 北海道大学大学院文学研究科教授
 平成20年4月 } 北海道大学大学文書館副館長
 平成26年3月 }
 平成22年4月 } 北海道大学大学院文学研究科副研究科長
 平成26年3月 }
 平成24年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 平成26年3月 }

歯学研究科長・歯学部長に



よこやま かつろう 教授
横山 敦郎 教授

平成26年3月31日限りで鈴木邦明歯学研究科長・歯学部長が辞任したため，その後任として横山敦郎教授が発令されました。

任期は，平成28年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和33年6月28日
 昭和59年3月 北海道大学歯学部卒業
 昭和63年3月 北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了
 昭和63年3月 歯学博士（北海道大学）
 昭和63年8月 北海道大学歯学部助手
 平成12年4月 北海道大学大学院歯学研究科助手
 平成14年6月 北海道大学歯学部附属病院講師
 平成15年10月 北海道大学医学部・歯学部附属病院講師
 平成16年4月 北海道大学病院講師
 平成17年6月 北海道大学大学院歯学研究科教授
 平成24年4月 } 北海道大学大学院歯学研究科副研究科長
 平成26年3月 }
 平成24年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 平成26年3月 }

情報科学研究科長に



みやなが よしかず 教授
宮永 喜一 教授

平成26年3月31日限りで栗原正仁情報科学研究科長が任期満了となり、その後任として宮永喜一教授が発令されました。
任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和31年12月20日
昭和54年3月 北海道大学工学部卒業
昭和56年3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
昭和58年7月 北海道大学応用電気研究所助手
昭和61年12月 工学博士（北海道大学）
昭和62年4月 北海道大学工学部講師
昭和63年4月 北海道大学工学部助教授
平成9年5月 北海道大学大学院工学研究科教授
平成20年4月 } 北海道大学大学院情報科学研究科副研究科長
平成24年3月 }

水産科学研究院長・水産科学院長・水産学部長に



やすい はじめ 教授
安井 肇 教授

平成26年3月31日限りで嵯峨直恆水産科学研究院長・水産科学院長・水産学部長が任期満了となり、その後任として安井 肇教授が発令されました。
任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和30年4月24日
昭和55年3月 北海道大学水産学部卒業
昭和59年3月 北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了
昭和62年4月 北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程単位取得退学
昭和62年5月 北海道大学水産学部助手
平成3年12月 水産学博士（北海道大学）
平成6年4月 北海道大学水産学部助教授
平成12年4月 北海道大学大学院水産科学研究科助教授
平成17年4月 北海道大学大学院水産科学研究院助教授
平成19年4月 北海道大学大学院水産科学研究院准教授
平成22年8月 北海道大学大学院水産科学研究院教授

教育学研究院長・教育学院長・教育学部長に



おない とおる 教授
小内 透 教授

平成26年3月31日限りで姉崎洋一教育学研究院長・教育学院長・教育学部長が任期満了となり、その後任として小内 透教授が発令されました。
任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和30年8月29日
昭和53年3月 北海道大学教育学部卒業
昭和56年3月 北海道大学大学院教育学研究科修士課程修了
昭和59年3月 北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程単位修得退学
昭和59年10月 北海道教育大学教育学部旭川分校助手
昭和61年10月 北海道教育大学教育学部旭川分校助教授
平成7年4月 北海道大学教育学部助教授
平成9年3月 博士（教育学）（北海道大学）
平成12年4月 北海道大学大学院教育学研究科助教授
平成14年7月 北海道大学大学院教育学研究科教授
平成19年4月 北海道大学大学院教育学研究院教授
平成21年5月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
平成23年4月 }
平成25年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
平成26年3月 }

工学研究院長・工学院長・工学部長に



なわ とよはる 教授
名和 豊春 教授

平成26年3月31日限りで馬場直志工学研究院長・工学院長・工学部長が任期満了となり、その後任として名和豊春教授が発令されました。
任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和29年4月11日
昭和52年3月 北海道大学工学部卒業
昭和55年3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
平成4年1月 博士（工学）（東京工業大学）
昭和55年3月 } 秩父セメント株式会社
平成6年9月 }
平成6年10月 } 秩父小野田株式会社
平成9年3月 }
平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科助教授
平成16年5月 北海道大学大学院工学研究科教授
平成21年4月 } 北海道大学研究戦略室室員
平成23年3月 }
平成22年4月 北海道大学大学院工学研究院教授
平成22年4月 } 北海道大学大学院工学研究院副研究科長、
平成26年3月 } 北海道大学教育研究評議会評議員

総合化学院長に



さかぐち かずやす 坂口 和靖 教授

平成26年3月31日限りで覚知豊次総合化学院長が任期満了となり、その後任として坂口和靖教授が発令されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和35年7月3日
 昭和58年3月 九州大学理学部卒業
 平成元年3月 九州大学大学院理学研究科博士後期課程修了
 平成元年3月 理学博士（九州大学）
 平成元年5月 アメリカ合衆国立衛生研究所国立癌研究所Visiting Fellow
 平成4年4月 アメリカ合衆国立衛生研究所国立癌研究所Associate Fellow
 平成11年1月 アメリカ合衆国立衛生研究所国立癌研究所Staff Scientist
 平成11年4月 九州大学理学研究科助教授
 平成15年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
 平成18年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
 平成23年4月 } 北海道大学研究戦略室室員
 平成25年3月 }

低温科学研究所長に



えぶち なおと 江淵 直人 教授

平成26年3月31日限りで古川義純低温科学研究所長が任期満了となり、その後任として江淵直人教授が発令されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和36年7月2日
 昭和59年3月 東北大学理学部卒業
 昭和61年3月 東北大学大学院理学研究科博士前期課程修了
 平成4年3月 博士（理学）（東北大学）
 昭和63年1月 東北大学理学部助手
 平成6年5月 東北大学理学部附属大気海洋変動観測研究センター助教授
 平成14年4月 北海道大学低温科学研究所教授
 平成17年4月 } 低温科学研究所環オホーツク観測研究センター長
 平成26年3月 }

触媒化学研究センター長に



あさくら きよたか 朝倉 清高 教授

平成26年3月31日限りで福岡 淳触媒化学研究センター長が任期満了となり、その後任として朝倉清高教授が発令されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和33年6月12日
 昭和56年3月 東京大学理学部卒業
 昭和58年3月 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了
 昭和59年9月 東京大学大学院理学系研究科博士課程退学
 昭和59年10月 東京大学理学部助手
 昭和62年9月 博士（理学）（東京大学）
 平成4年10月 東京大学理学部講師
 平成5年4月 東京大学大学院理学系研究科講師
 平成6年5月 東京大学理学部附属スペクトル化学研究センター助教授
 平成10年4月 東京大学大学院理学系研究科附属スペクトル化学研究センター助教授
 平成11年4月 北海道大学触媒化学研究センター教授

北方生物圏フィールド科学センター長に



もとむら たいぞう 本村 泰三 教授

平成26年3月31日限りで近藤誠司北方生物圏フィールド科学センター長が任期満了となり、その後任として本村泰三教授が発令されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和30年3月23日
 昭和54年3月 北海道大学理学部卒業
 昭和56年3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了
 昭和60年9月 北海道大学大学院理学研究科博士課程修了
 昭和60年9月 理学博士（北海道大学）
 昭和62年6月 北海道大学理学部附属海藻研究施設助手
 平成10年9月 北海道大学理学部附属海藻研究施設助教授
 平成13年4月 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授
 平成23年4月 } 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター副センター長
 平成26年3月 }

量子集積エレクトロニクス研究センター長に



橋詰 保 教授

平成26年3月31日限りで量子集積エレクトロニクス研究センター長が任期満了となり、その後任として橋詰 保教授が発令されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和31年6月30日
 昭和56年3月 北海道大学工学部卒業
 昭和56年4月 } 釧路工業高等専門学校助手
 昭和62年3月 }
 昭和62年4月 } 北海道職業訓練短期大学校講師
 平成6年6月 }
 平成3年3月 工学博士(北海道大学)
 平成6年7月 北海道大学工学部助教授
 平成10年4月 北海道大学量子界面エレクトロニクス研究センター助教授
 平成13年4月 北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター助教授
 平成16年4月 北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター教授

フード&メディカルイノベーション推進本部長に



川端 和重 氏

平成26年4月1日付けでフード&メディカルイノベーション推進本部が設置され、本部長として川端和重理事・副学長が発令されました。

任期は、平成27年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和31年7月9日
 昭和55年3月 北海道大学理学部卒業
 昭和57年3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了
 昭和60年3月 北海道大学大学院理学研究科博士課程修了
 昭和60年3月 理学博士(北海道大学)
 昭和60年4月 出光興産株式会社
 平成6年2月 北海道大学理学部助教授
 平成7年4月 北海道大学大学院理学研究科助教授
 平成14年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
 平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授
 平成22年4月 } 北海道大学大学院先端生命科学研究院長
 平成25年3月 }
 平成25年4月 北海道大学理事・副学長、研究戦略室長、産学連携本部長、創成研究機構長
 平成25年4月 } 北海道大学人材育成本部長
 平成26年3月 }

部局長等(再任)紹介

平成26年4月1日付

経済学研究科長・経済学部長に

吉見 宏 教授

吉見 宏教授は、平成24年4月1日から経済学研究科長・経済学部長を務め、平成26年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

保健科学研究院長・保健科学院長に

伊達 広行 教授

伊達広行教授は、平成24年4月1日から保健科学研究院長・保健科学院長を務め、平成26年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

遺伝子病制御研究所長に

高岡 晃教 教授

高岡晃教教授は、平成24年4月1日から遺伝子病制御研究所長を務め、平成26年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

スラブ・ユーラシア研究センター長に

宇山 智彦 教授

宇山智彦教授は、平成24年5月1日からスラブ研究センター長を務め、名称変更に伴い、引き続き同教授がスラブ・ユーラシア研究センター長に再任されました。

任期は、平成26年4月30日までです。

脳科学研究教育センター長に

よしおか みつひろ
吉岡 充弘 教授

吉岡充弘教授は、平成24年4月1日から脳科学研究教育センター長を務め、平成26年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

次世代都市代謝教育研究センター長に

ふなみず なおゆき
船水 尚行 教授

船水尚行教授は、平成22年4月1日から環境ナノ・バイオ工学研究センター長を務め、名称変更に伴い、引き続き同教授が次世代都市代謝教育研究センター長に再任されました。

任期は、平成27年3月31日までです。

サステナビリティ学教育研究センター長に

やまなか やすひろ
山中 康裕 教授

山中康裕教授は、平成24年4月1日からサステナビリティ学教育研究センター長を務め、平成26年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

環境健康科学研究教育センター長に

さいとう たけし
齋藤 健 教授

齋藤 健教授は、平成24年4月1日から環境健康科学研究教育センター長を務め、平成26年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

社会科学実験研究センター長に

かめだ たつや
亀田 達也 教授

亀田達也教授は、平成23年4月1日から社会科学実験研究センター長を務め、平成26年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

数学連携研究センター長に

つだ いちろう
津田 一郎 教授

津田一郎教授は、平成20年4月1日から数学連携センター長を務め、平成26年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

トポロジー理工学教育研究センター長に

たん だ さとし
丹田 聡 教授

丹田 聡教授は、平成21年4月1日からトポロジー理工学教育研究センター長を務め、平成26年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成27年3月31日までです。

新任教授紹介

平成26年4月1日付



文学研究科教授に

たけうち やすひろ
竹内 康浩 氏

言語文学専攻西洋文学講座

生年月日

昭和40年 8月 6日

最終学歴

東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了(平成5年3月)
文学修士(東京大学)

専門分野

アメリカ文学



文学研究科教授に

のむら ますひろ
野村 益寛 氏

言語文学専攻西洋言語学講座

生年月日

昭和38年 8月 6日

最終学歴

東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了(平成2年3月)
Ph.D(カリフォルニア大学サンディエゴ校)

専門分野

英語学, 認知言語学, 意味論



文学研究科教授に

やがう ひさし
谷古宇 尚 氏

思想文化学専攻芸術学講座

生年月日

昭和40年 2月13日

最終学歴

東北大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学(平成12年9月)
文学修士(東北大学)

専門分野

西洋美術史(イタリア美術史)



法学研究科教授に

なかがわ ひろこ
中川 寛子 氏

法律実務専攻公法講座

最終学歴

神戸大学大学院法学研究科博士課程後期課程修了
博士(法学)(神戸大学)

専門分野

経済法



獣医学研究科教授に

さこだ よしひろ
迫田 義博 氏

獣医学専攻動物疾病制御学講座

生年月日

昭和45年 1月17日

最終学歴

北海道大学獣医学部卒業(平成6年3月)
博士(獣医学)(北海道大学)

専門分野

微生物学



水産科学研究院教授に

わたぬき ゆたか
綿貫 豊 氏

海洋生物資源科学部門資源生物学分野

生年月日

昭和34年 1月 2日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了(昭和62年9月)
農学博士(北海道大学)

専門分野

海洋生態学



理学研究院教授に

えい しんいちろう
栄 伸一郎 氏

数学部門数理科学系

生年月日

昭和34年 4月 2日

最終学歴

広島大学理学研究科博士課程単位取得退学(昭和62年10月)
理学博士 (広島大学)

専門分野

非線形解析, 反応拡散モデル



教育学研究院教授に

あさかわ かずゆき
浅川 和幸 氏

教育学部門教育社会発達論分野

生年月日

昭和33年 8月 16日

最終学歴

北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程修了(平成5年2月)
教育学修士 (北海道大学)

専門分野

教育社会学



メディア・コミュニケーション
研究院教授に

すずき し
鈴木 志のぶ 氏

国際広報メディア専攻言語伝
達論分野

生年月日

昭和35年 1月 3日

最終学歴

ミネソタ大学大学院博士課程修了 (平成6年6月)
Ph.D. (ミネソタ大学)

専門分野

コミュニケーション学



保健科学研究院教授に

まえじま ひろし
前島 洋 氏

機能回復学分野

最終学歴

広島大学大学院医学系研究科修士課程修了(平成11年3月)
博士 (保健学) (広島大学)

専門分野

基礎理学療法学



工学研究院教授に

かわさき たかのり
川崎 了 氏

環境循環システム部門
地圏循環工学分野

生年月日

昭和38年10月11日

最終学歴

鳥取大学大学院工学研究科博士課程修了(平成11年3月)
博士 (工学) (鳥取大学)

専門分野

地盤環境工学



触媒化学研究センター
教授に

にしだ まゆみ
西田 まゆみ 氏

実用化基盤技術開発部

生年月日

昭和32年 2月 27日

最終学歴

筑波大学第一学群卒業 (昭和54年3月)
博士 (薬学) (北海道大学)

専門分野

有機金属, イオン液体



情報基盤センター教授に

いわした たけし
岩下 武史 氏

大規模計算システム研究部門

生年月日

昭和46年 1月13日

最終学歴

京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平成10年 3月)
博士(工学)(京都大学)

専門分野

高性能計算, 数値線形代数, 電磁界解析



北方生物圏フィールド科学
センター教授に

ふじた ひろこ
富士田 裕子 氏

生物多様性領域/植物多様性
分野

生年月日

昭和32年 4月11日

最終学歴

東北大学大学院理学研究科博士後期課程修了(昭和61年 3月)
理学博士(東北大学)

専門分野

植物生態学



人獣共通感染症リサーチ
センター教授に

いとう きみひと
伊藤 公人 氏

バイオインフォマティクス部門

生年月日

昭和44年11月23日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平成11年 6月)
博士(工学)(北海道大学)

専門分野

計算機科学



国際本部教授に

しま りゅういちろう
島 竜一郎 氏

生年月日

昭和41年 7月 4日

最終学歴

九州大学大学院法学研究科修士課程修了(平成 4年 3月)

専門分野

教育行政, 高等教育, 国際協力

新任部課長等紹介

平成26年4月1日付



財務部長に

ふくじ ゆうえい 氏
福治 友英 氏

昭和35年 5月 1日生
 昭和59年 3月 琉球大学短期大学部法経学科卒
 昭和59年 1月 琉球大学庶務部庶務課
 昭和62年 4月 文部省高等教育局大学課大学入試室
 平成元年 4月 文部省高等教育局大学課
 平成3年 4月 総合研究大学院大学学位授与機関創設調査室主幹付学務係長
 平成3年 7月 学位授与機構管理部総務課学務係長
 平成6年 4月 文部省高等教育局私学部私学行政課専門職員
 平成7年 4月 文部省高等教育局私学部学校法人調査課指導係長
 平成9年 4月 文部省高等教育局医学教育課大学院指導室病院第二係長
 平成10年 4月 文部省高等教育局医学教育課大学院指導室病院第一係長
 平成11年 4月 山梨大学会計課長
 平成13年 1月 国立情報学研究所管理部会計課長
 平成14年10月 文部科学省高等教育局学生課大学入試室室長補佐
 平成16年10月 国立大学財務・経営センター管理部総務課長
 平成18年11月 文部科学省高等教育局国立大学法人支援課課長補佐
 平成19年 4月 文部科学省高等教育局私学部参事官付学校法人調査官
 平成20年 4月 文部科学省高等教育局私学部参事官付参事官補佐
 平成21年 4月 琉球大学財務部長
 平成23年10月 大学評価・学位授与機構管理部長



附属図書館事務部長に

とみた けんいち 氏
富田 健市 氏

昭和31年 5月10日生
 昭和55年 3月 北海道大学文学部卒
 昭和57年 4月 北海道大学
 昭和63年 4月 京都大学
 平成3年 4月 国際日本文化研究センター情報管理施設資料課文献資料係長
 平成6年 4月 京都大学図書館情報管理課システム管理掛長
 平成9年 4月 学術情報センター目録情報課専門員
 平成12年 4月 国立情報学研究所国際・研究協力部成果普及課課長補佐
 平成14年 4月 長岡技術科学大学図書課長
 平成16年 7月 筑波大学附属図書館情報サービス課長
 平成18年 4月 筑波大学附属図書館情報管理課長
 平成20年 4月 東京工業大学学術情報部情報図書館課長
 平成20年 7月 東京工業大学研究情報部情報図書館課長
 平成23年 4月 岡山大学図書館事務部長



理学・生命科学事務部長に

こたに まさお 氏
小谷 正雄 氏

昭和32年11月17日生
 昭和51年 4月 旭川医科大学
 平成10年 4月 北海道大学
 平成11年 4月 教育研究所庶務部会計課管理係長
 平成13年 1月 国立教育政策研究所総務部会計課管理係長
 平成14年 4月 北海道大学経理部情報処理課専門職員
 平成16年10月 国立大学法人小樽商科大学財務課課長補佐
 平成19年 4月 北海道大学学術国際部研究協力課課長補佐
 平成19年12月 北海道大学学術国際部国際企画課課長補佐
 平成20年 8月 北海道大学財務部調達課課長補佐
 平成21年 4月 北海道大学函館キャンパス事務部事務長
 平成24年 4月 北海道大学財務部調達課長



病院事務部長に

たなか ひろかず 氏
田中 宏和 氏

昭和35年11月21日生
 昭和57年 3月 立命館大学経済学部卒
 昭和57年 4月 京都大学医学部附属病院医事課
 昭和60年 4月 若狭湾少年自然の家庶務課
 平成元年 3月 京都大学主計課
 平成元年10月 文部省大臣官房会計課用度班
 平成4年10月 文部省大臣官房会計課調度係主任
 平成5年 4月 財務センター企画課企画係長
 平成8年 4月 文部省大臣官房文教施設部計画課計画第一係長
 平成10年 4月 文部省大臣官房文教施設部会計課用度班施設係長
 平成11年 4月 文部省大臣官房文教施設部会計課用度班調度係長
 平成11年 7月 国際日本文化研究センター会計課長
 平成14年 4月 日本学術振興会総務部経理課長
 平成16年 7月 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課契約情報室工事契約専門官
 平成18年 4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課補佐
 平成21年 4月 静岡大学財務施設部長
 平成24年 4月 筑波大学病院総務部長



国際本部副本部長，国際本部国際支援課長に

しま りゅういちろう
島 竜一郎 氏

昭和41年7月4日生
 平成4年3月 九州大学大学院法学研究科修士課程修了
 平成4年4月 文部省大臣官房会計課総務班
 平成5年3月 文部省初等中等教育局高等学校課
 平成6年10月 文部省学術国際局留学生課留学生交流政策室
 平成7年4月 文部省学術国際局留学生課留学生交流政策室企画調査係長
 平成8年9月 文部省体育局体育課企画係長
 平成9年7月 文部省大臣官房総務課行政改革推進室専門職員
 平成11年4月 名古屋大学大学院法学研究科助教授
 平成13年9月 文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐
 平成14年8月 文部科学省大臣官房政策課専門官
 平成15年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科助教授
 平成17年3月 文部科学省初等中等教育局国際教育課専門官・
 ニューヨーク国際交流ディレクター
 平成20年4月 文部科学省高等教育局学生支援課専門官
 平成20年10月 インドネシア国国民教育省高等教育総局(JICA長期専門家)
 平成22年9月 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室室長
 補佐(併)人物交流専門官
 平成23年1月 放送大学学園事務局参事役・総合戦略企画室長



総務企画部広報課長に

あさの けんじ
浅野 賢二 氏

昭和32年10月28日生
 昭和53年8月 旭川工業高等専門学校
 昭和59年1月 北海道大学
 平成10年4月 釧路工業高等専門学校庶務課人事係長
 平成13年4月 北海道大学理学研究科・理学部専門職員(人事担当)
 平成15年4月 北海道大学総務部総務課秘書掛長
 平成16年4月 北海道大学総務部総務課秘書室秘書係長
 平成18年9月 北海道大学総務部人事課課長補佐
 平成21年4月 北海道大学総務部職員課長
 平成23年4月 北海道教育大学総務部人事課長



総務企画部人事課厚生労務室長に

かわの こうき
河野 孝紀 氏

昭和36年11月生
 平成12年4月 東京医科歯科大学庶務部人事課給与第二掛長
 平成13年4月 東京医科歯科大学総務部人事課給与第一掛長
 平成14年4月 北海道大学医学研究科・医学部人事掛長
 平成17年4月 北海道大学総務部人事課統一試験課係長
 平成18年4月 北海道大学総務部人事課人事第二係長
 平成18年10月 北海道大学総務部人事課人事第一係長
 平成19年4月 北海道大学総務部人事課係長
 平成21年4月 北海道大学総務部人事課課長補佐
 平成23年4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐



研究推進部研究振興企画課長に

かつやま のりあき
勝山 憲明 氏

昭和33年12月23日生
 昭和59年3月 北海学園大学経済学部卒
 昭和52年4月 室蘭工業大学
 昭和54年5月 北海道大学
 平成11年4月 旭川医科大学会計課用度第一係長
 平成12年4月 旭川医科大学会計課司計係長
 平成14年4月 北海道大学経理部主計課第二予算掛長
 平成15年4月 北海道大学経理部主計課第一予算掛長
 平成16年4月 北海道大学経理部主計課総括予算係長
 平成17年4月 北海道大学財務部主計課課長補佐
 平成21年4月 北海道大学企画部企画調整課長
 平成23年4月 北海道大学総務企画部企画課長
 平成24年4月 帯広畜産大学財務課長



施設部環境配慮促進課長に

ながい まさひこ
永井 雅彦 氏

昭和33年1月4日生
昭和55年3月 金沢工業大学工学部卒
昭和55年4月 分子科学研究所経理部建築課
昭和56年4月 岡崎国立共同研究機構経理部建築課
昭和60年8月 東京医科歯科大学施設部建築課
平成6年4月 千葉大学施設部建築課第三工営係長
平成7年4月 千葉大学施設部建築課第二工営係長
平成8年4月 千葉大学施設部建築課第一工営係長
平成9年4月 東京大学施設部企画課企画掛長
平成12年4月 東京大学施設部建築課工営第二掛長
平成13年4月 北海道大学施設部建築課建築計画掛長
平成15年4月 旭川医科大学業務部施設課課長補佐
平成17年4月 北海道教育大学事務局財務部施設課総括主査
平成20年4月 北見工業大学施設課長
平成23年4月 室蘭工業大学施設グループマネージャー



附属図書館利用支援課長に

とよた ひろあき
豊田 裕昭 氏

昭和33年11月7日生
昭和60年10月 郵政省
平成元年9月 東京農工大学
平成10年1月 長岡技術科学大学
平成10年4月 長岡技術科学大学教務部図書課目録情報係長
平成11年4月 長岡技術科学大学教務部図書課情報サービス係長
平成13年4月 一橋大学附属図書館情報管理課図書情報係長
平成16年4月 文部科学省大臣官房政策課専門職
平成16年4月 国立国会図書館総務部企画・協力課電子情報企画室副主査
平成17年4月 国立国会図書館総務部企画課電子情報企画室副主査
平成18年4月 文部科学省大臣官房政策課専門職
平成18年4月 一橋大学学術・図書部学術情報課課長補佐
平成18年7月 一橋大学学術・図書部学術情報課課長代理
平成19年4月 一橋大学学術・図書部情報推進課課長代理(兼)情報企画主担当主査
平成21年4月 一橋大学情報化統括本部情報基盤センター情報推進課課長代理
平成22年8月 一橋大学情報化統括本部情報基盤センター情報推進課課長代理(兼)情報推進主担当主査
平成24年4月 東北大学附属図書館情報サービス課長



工学系事務部総務課長に

おおた ゆみ
太田 裕美 氏

昭和35年4月生
昭和58年6月 釧路工業高等専門学校
昭和59年12月 旭川医科大学
平成4年4月 北海道大学
平成12年4月 北海道大学総務部総務課専門職員
平成14年4月 北海道大学学務部留学生課専門職員
平成16年4月 北海道大学学術国際部留学生交流課留学生交流掛長
平成17年4月 北海道大学医療技術短期大学部庶務係長
平成18年4月 北海道大学医学事務部事務課庶務第二係長
平成18年7月 北海道大学学術国際部国際企画課国際企画係長
平成21年4月 北海道大学学術国際部国際企画課課長補佐
平成22年7月 北海道大学国際本部国際連携課課長補佐
平成23年4月 北海道大学総務企画部総務課課長補佐



国際本部国際連携課長に

はらぐち のぞみ
原口 希 氏

昭和48年6月12日生
平成10年3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
平成14年4月 北海道教育大学学生課
平成15年4月 文部科学省高等教育局留学生課
平成16年4月 文部科学省高等教育局学生支援課
平成17年4月 文部科学省高等教育局生涯学習政策局調査企画課
平成19年4月 文部科学省高等教育局専門調査係主任
平成19年10月 文部科学省高等教育局専門調査係長
平成21年4月 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室人物交流係長
平成24年4月 文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官付専門職
平成25年7月 文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付専門職



北キャンパス合同事務部事務長に

ろっけ ひでき
六家 英紀 氏

昭和34年 8月 7日生

昭和53年 3月 北海道札幌琴似工業高等学校卒

昭和63年11月 北海道大学

平成12年 4月 北見工業大会計課用度係長

平成15年 4月 北海道大学経理部第二契約課第四契約掛長

平成16年 4月 北海道大学財務部経理課財務管理室専門職員

平成18年 4月 北海道大学病院経営企画課予算管理係長

平成19年 4月 北海道大学病院経営企画課係長

平成20年 4月 北海道大学工学研究科・情報科学研究科・工学
部経理課課長補佐

平成21年 4月 北海道大学工学系事務部経理課課長補佐

平成22年 4月 北海道大学財務部調達課課長補佐

平成24年 4月 苫小牧工業高等専門学校総務課長

訃報

名誉教授 おがわ ゆういち 小川 雄一 氏
(享年88歳)



名誉教授 小川雄一氏は、平成26年1月6日心不全のため87歳で逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、日本原子力研究所在籍中には我国最初の原子炉JRR-1の建設、臨界前実験および臨界実験に従事し、日本の原子力利用の端緒となった研究・開発にたずさわり、また米国ノースカロライナ州立大学原子炉研修課程に入

学・修了、続いて米国アルゴンヌ研究所国際原子炉学校に入学・修了して原子炉の基礎と応用に関する研鑽を深め、これらの経験を北海道大学における原子炉に関する教育と研究において展開することで、原子力の有効利用に資する研究の進展に貢献するとともに、今日の日本の原子力を担っている研究者・技術者の育成に大きな貢献を果たされました。

先生は、昭和2年8月5日に札幌に生まれ、同26年北海道大学工学部電気工学科を卒業し、北海道電力株式会社、日本原子力研究所、日本原子力発電株式会社を経て、同37年8月に北海道大学工学部共通講座原子炉工学講座助教授に採用され、同45年10月に同講座教授に昇任し、平成3年3月31日に定年退官され、同年4月北海道大名誉教授になられました。

学外においては、京都大学原子炉実験所の協議員及び審議員ならびに臨界集集体共同利用委員会委員、東京大学原研施設共同利用委員会委員、電気学会評議員、日本原子力学会の理事及び企画委員長ならびに評議員、日本原子力学会北海道支部長等を歴任されました。昭和60年1月から平成7年2月まで原子力安全委員会原子炉安全専門委員会の委員を務め、部会長なども務め、国のエネルギーの安全確保に貢献されました。平成5年10月に科学技術庁長官より原子力安全功労者賞を受賞されました。

ここに謹んで先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

資料

平成26年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等	募集人員	入学者数		道内・道外人数		道内・道外比率		卒業年度別人数		卒業年度別比率		その他			
		全体	女子	道内	道外	道内	道外	26年3月卒業	過年度卒業	26年3月卒業	過年度卒業	人数	比率		
総合入試文系	100	108	37	34	73	31.5%	67.6%	64	43	59.3%	39.8%	1	0.9%		
総合入試理系	数学重点選抜群	130	137	22	57	41.6%	57.7%	94	42	68.6%	30.7%	1	0.7%		
	物理重点選抜群	235	241	21	100	41.5%	58.5%	120	121	49.8%	50.2%	0	0.0%		
	化学重点選抜群	235	241	58	83	34.4%	64.7%	134	105	55.6%	43.6%	2	0.8%		
	生物重点選抜群	177	184	63	44	23.9%	76.1%	114	70	62.0%	38.0%	0	0.0%		
	総合科学選抜群	250	259	90	93	35.9%	63.3%	149	108	57.5%	41.7%	2	0.8%		
	計	1,027	1,062	254	377	680	35.5%	64.0%	611	446	57.5%	42.0%	5	0.5%	
文学部	155	158	74	76	80	48.1%	50.6%	116	40	73.4%	25.3%	2	1.3%		
教育学部	30	33	18	18	13	54.5%	39.4%	21	10	63.6%	30.3%	2	6.1%		
法学部	180	180	60	80	100	44.4%	55.6%	117	63	65.0%	35.0%	0	0.0%		
経済学部	160	164	41	84	79	51.2%	48.2%	106	57	64.6%	34.8%	1	0.6%		
理学部	数学科	13	13	0	4	7	30.8%	53.8%	9	2	69.2%	15.4%	2	15.4%	
	物理学科	10	10	0	4	6	40.0%	60.0%	8	2	80.0%	20.0%	0	0.0%	
	化学科	23	23	5	4	18	17.4%	78.3%	15	7	65.2%	30.4%	1	4.3%	
	生物科学科	生物学専修分野	10	10	5	1	9	10.0%	90.0%	4	6	40.0%	60.0%	0	0.0%
		高分子機能学専修分野	5	5	1	2	3	40.0%	60.0%	4	1	80.0%	20.0%	0	0.0%
	小計	15	15	6	3	12	20.0%	80.0%	8	7	53.3%	46.7%	0	0.0%	
	地球惑星科学科	10	10	3	0	10	0.0%	100.0%	8	2	80.0%	20.0%	0	0.0%	
計	71	71	14	15	53	21.1%	74.6%	48	20	67.6%	28.2%	3	4.2%		
医学部	医学科	102	102	19	61	40	59.8%	39.2%	50	51	49.0%	50.0%	1	1.0%	
	保健学科	看護学専攻	67	75	70	68	7	90.7%	9.3%	45	30	60.0%	40.0%	0	0.0%
		放射線技術科学専攻	35	35	14	28	7	80.0%	20.0%	16	19	45.7%	54.3%	0	0.0%
		検査技術科学専攻	35	35	23	24	10	68.6%	28.6%	16	18	45.7%	51.4%	1	2.9%
		理学療法専攻	17	17	6	10	7	58.8%	41.2%	10	7	58.8%	41.2%	0	0.0%
		作業療法専攻	17	18	15	12	5	66.7%	27.8%	8	9	44.4%	50.0%	1	5.6%
	小計	171	180	128	142	36	78.9%	20.0%	95	83	52.8%	46.1%	2	1.1%	
計	273	282	147	203	76	72.0%	27.0%	145	134	51.4%	47.5%	3	1.1%		
歯学部	43	43	17	18	25	41.9%	58.1%	16	27	37.2%	62.8%	0	0.0%		
薬学部	24	24	10	7	17	29.2%	70.8%	17	7	70.8%	29.2%	0	0.0%		
工学部	応用理工系学科	38	41	2	10	25	24.4%	61.0%	21	14	51.2%	34.1%	6	14.6%	
	情報エレクトロニクス学科	38	41	1	13	24	31.7%	58.5%	20	17	48.8%	41.5%	4	9.8%	
	機械知能工学科	30	35	2	5	24	14.3%	68.6%	17	12	48.6%	34.3%	6	17.1%	
	環境社会工学科	53	56	12	4	47	7.1%	83.9%	23	28	41.1%	50.0%	5	8.9%	
	計	159	173	17	32	120	18.5%	69.4%	81	71	46.8%	41.0%	21	12.1%	
農学部	53	57	21	5	51	8.8%	89.5%	33	23	57.9%	40.4%	1	1.8%		
獣医学部	35	36	16	2	34	5.6%	94.4%	25	11	69.4%	30.6%	0	0.0%		
水産学部	175	178	48	55	121	30.9%	68.0%	89	87	50.0%	48.9%	2	1.1%		
合計	2,485	2,569	774	1,006	1,522	39.2%	59.2%	1,489	1,039	58.0%	40.4%	41	1.6%		

その他とは、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、帰国子女入試による入学者及び外国人留学生

(学務部入試課)

平成26年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

北海道	1,006	651	355	39.2%
-----	-------	-----	-----	-------

東北	123	72	51	4.8%
----	-----	----	----	------

青森県	27	14	13	
-----	----	----	----	--

岩手県	9	3	6	
-----	---	---	---	--

宮城県	39	22	17	
-----	----	----	----	--

秋田県	23	14	9	
-----	----	----	---	--

山形県	8	6	2	
-----	---	---	---	--

福島県	17	13	4	
-----	----	----	---	--

関東	517	379	138	20.1%
----	-----	-----	-----	-------

茨城県	41	26	15	
-----	----	----	----	--

栃木県	26	20	6	
-----	----	----	---	--

群馬県	27	20	7	
-----	----	----	---	--

埼玉県	83	62	21	
-----	----	----	----	--

千葉県	51	40	11	
-----	----	----	----	--

東京都	196	134	62	
-----	-----	-----	----	--

神奈川県	93	77	16	
------	----	----	----	--

北陸・中部	338	255	83	13.2%
-------	-----	-----	----	-------

新潟県	42	34	8	
-----	----	----	---	--

富山県	36	26	10	
-----	----	----	----	--

石川県	39	27	12	
-----	----	----	----	--

福井県	10	8	2	
-----	----	---	---	--

山梨県	10	8	2	
-----	----	---	---	--

長野県	29	21	8	
-----	----	----	---	--

岐阜県	16	13	3	
-----	----	----	---	--

静岡県	53	37	16	
-----	----	----	----	--

愛知県	103	81	22	
-----	-----	----	----	--

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

近畿	341	273	68	13.3%
----	-----	-----	----	-------

三重県	27	18	9	
-----	----	----	---	--

滋賀県	16	13	3	
-----	----	----	---	--

京都府	38	28	10	
-----	----	----	----	--

大阪府	115	88	27	
-----	-----	----	----	--

兵庫県	97	83	14	
-----	----	----	----	--

奈良県	28	25	3	
-----	----	----	---	--

和歌山県	20	18	2	
------	----	----	---	--

中国・四国	129	89	40	5.0%
-------	-----	----	----	------

鳥取県	9	6	3	
-----	---	---	---	--

島根県	11	4	7	
-----	----	---	---	--

岡山県	18	12	6	
-----	----	----	---	--

広島県	37	25	12	
-----	----	----	----	--

山口県	9	6	3	
-----	---	---	---	--

徳島県	7	6	1	
-----	---	---	---	--

香川県	7	6	1	
-----	---	---	---	--

愛媛県	21	18	3	
-----	----	----	---	--

高知県	10	6	4	
-----	----	---	---	--

九州・沖縄	74	49	25	2.9%
-------	----	----	----	------

福岡県	30	19	11	
-----	----	----	----	--

佐賀県	4	3	1	
-----	---	---	---	--

長崎県	10	7	3	
-----	----	---	---	--

熊本県	8	4	4	
-----	---	---	---	--

大分県	5	3	2	
-----	---	---	---	--

宮崎県	6	5	1	
-----	---	---	---	--

鹿児島県	6	5	1	
------	---	---	---	--

沖縄県	5	3	2	
-----	---	---	---	--

その他	41	27	14	1.6%
-----	----	----	----	------

高等学校卒業程度認定試験等	9	5	4	
---------------	---	---	---	--

帰国子女入試	10	6	4	
--------	----	---	---	--

外国人留学生	22	16	6	
--------	----	----	---	--

入学者数合計	2,569	1,795	774	
--------	-------	-------	-----	--

※地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(学務部入試課)

編集メモ

● 広報誌「リテラポプリ」53号を発行しました！この号より企画内容やデザイン等を一新し、広く社会に向けて、北海道大学の新たなプロジェクトや変革、教育研究、及び緑豊かなキャンパス等を紹介する広報誌にリニューアルしていますので、ぜひご覧ください。

今後は、本学のフロンティアを伝える広報誌として、春と秋の年2回発行します。

◆ <http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>



● インフォメーションセンター「エルムの森」では、各部局の最新の取り組みの紹介、研究プロジェクトの紹介や研究成果等による展示物の公開等、多様な情報発信の場として、企画展示スペースを設けています。

現在、文学研究科の企画展示『『ほかにない』がここにある。』を開催中です。各種展示のほか、「北大人文学カフェ」の録画映像も放映しています。5月末まで開催していますので、ぜひお立ち寄りください。





2005. 5. 8 函館本線 七飯～大沼（七飯町）

北の鉄道風景 13 桜咲く頃に

1月の沖縄をスタートして日本列島を北上する桜前線が道内各地に到来するのは4月下旬から5月下旬にかけての時期であり、道南や道央では大型連休の期間に開花した桜が見られる。満開となった桜の下を駆けるのは「SL函館大沼号」、大沼公園を經由して函館と森町の区間を往復する観光列車である。同列車は2001年の運行開始以来、春の大型連休と夏期

の観光シーズン（7月下旬～8月中旬）に毎年、運行されている。前日まで続いた陽気が一転して花冷えとなったこの日、綺麗な白煙をたなびかせながら汽車がやって来た。乗客も車窓からこの桜を愛でていることであろう。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ④ No.721 平成26年4月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html